

うるま市障がい福祉に関する
アンケート調査結果より

平成 29 年 3 月

● ○ ● ○ ● ○ 目 次 ○ ● ○ ● ○ ●

■ 調査項目 ■	1
■ 調査概要 ■	5
1. 調査の目的	5
2. 実施主体	5
3. 調査対象者、抽出方法	5
4. 配布方法	5
5. 調査期間	5
6. 回収状況	5
7. 集計について	6
■ 在宅の身体障がい者・知的障がい者・精神障がい者調査結果 ■	9
1. 年齢	9
2. 一緒に暮らしている人	9
3. 日常生活動作	13
4. 介助者について	19
5. 介助者の年齢	21
6. 手帳の所持状況	22
7. 身体障がい者の障害部位	23
8. 難病(特定疾患)の状況	24
9. 発達障害の状況	24
10. 現在受けている医療ケア	25
11. 現在の暮らし	26
12. 将来の地域生活の意向	28
13. 地域で生活するために必要な支援	31
14. ボランティアに手助けを頼みたいこと	34
15. 外出頻度	36
16. 外出時の同伴者	39
17. 外出の目的	42
18. 外出時に困ること	48
19. 日中の過ごし方	52
20. 就労の状況	56
21. 就労意向	57

22. 職業訓練の受講の意向	60
23. 障がい者の就労支援で必要なこと	62
24. 区分認定を受けているか	65
25. 障がい福祉サービスの利用状況と利用意向	66
26. 障がい児サービスの利用状況と利用意向	69
27. 障がい福祉サービスの利用に関して困っていること	70
28. その他のサービスの利用状況と利用意向	72
29. 相談先	75
30. 情報の入手方法	79
31. 差別を受けたこと	81
32. 差別を受けた場所	83
33. 障がいのある方に対する市民の理解	86
34. 障がい者に対する理解を深めるために必要なこと	87
35. 成年後見制度の周知度	88
36. 成年後見制度の周知度	90
37. 近所に助けてくれる人はいるか	92
38. 災害時に避難する場所	94
39. 災害時に困ること	95
40. 障がい者施策として力を入れてほしいこと	101
41. 障がい児向けの施策やサービスで特に充実が必要と思われるもの	103

■ 施設入所者調査結果 ■ 107

1. 年齢	107
2. 日常生活動作	107
3. 介助者について	108
4. 手帳の所持状況	108
5. 身体障がい者の障がい部位	109
6. 現在受けている医療ケア	109
7. 将来の地域生活の意向	110
8. 地域で生活するために必要な支援	112
9. 区分認定を受けているか	113
10. 障がい福祉サービスの利用状況と利用意向	114
11. 障がい福祉サービスの利用に関して困っていること	115

■ 一般市民 調査結果 ■ 119

1. 回答者の属性	119
2. 障がい者の問題や福祉への関心	119

3. 関心を持つきっかけ	120
4. 近所や親戚の障がいを持つ方	121
5. 障がいのある方との交流	122
6. 講座や講演会などの意向	123
7. 交流の場についての意向	124
8. ボランティア活動の意向	125
9. ボランティア活動の必要性	126
10. 障害の理解度	127
11. 声かけ・手助け	128
12. 障害福祉に関する用語	130
13. 差別・偏見	131
14. 理解を深めるために必要なこと	133
15. 地域・社会参加のために大切なこと	134

■ 調査から見る現状や課題の整理（計画策定の資料として） ■ …… 137

基本目標 1 啓発・広報とボランティア活動の推進	137
・差別を受けたこと	137
・差別を受けた場所	137
・市民の障がい者問題や福祉への関心	137
・障害に関心を持つきっかけ	137
・障がい者への手助け	137
基本目標 2 保健・医療の充実	138
・発達障害と診断されたこと	138
・現在受けている医療ケア	138
基本目標 3 地域生活の支援	139
・障害福祉サービスの利用状況と利用意向	139
・障害児通所支援の利用状況と利用意向	139
・地域生活支援事業の利用意向	140
・成年後見制度の周知度	140
・地域で生活するために必要な支援	140
基本目標 4 相談支援、情報提供の充実	141
・相談先	141
・情報の入手方法	141
基本目標 5 保育・教育環境の充実	141
基本目標 6 就労支援	142
・就労の状況	142
・就労意向	142

・職業訓練の受講の意向	142
・障がい者の就労支援で必要なこと	142
基本目標 7 各種活動の推進	143
基本目標 8 生活環境の整備充実	144
・外出頻度	144
・外出時の同伴者	144
・外出の目的	144
・外出時に困ること	144
・災害時の避難	145
・近所に助けてくれる人はいるか	145
・災害時に困ること	145
・住まいについて	145

調査項目

■ 調査項目 ■

【身体・知的・精神障がい者調査票用】

<p><基本属性等></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 調査票の回答者 2. 年齢 3. 性別 4. 地域 5. 同居 6. 日常生活ADL 7. 介助者は誰か 8. 介助者の年齢、性別、健康状態、同居の有無 <p><障がいの状況></p> <ol style="list-style-type: none"> 9. 身体障害者手帳所持状況、等級 10. 身体障害の部位 11. 療育手帳の所持、判定 12. 精神障がい者保健福祉手帳の所持、等級 13. 難病の有無 14. 発達障害の診断経験 15. 医療ケアの内容 <p><住まい、暮らし></p> <ol style="list-style-type: none"> 16. 現在の暮らし 17. 将来、どのように暮らしたいか 18. 地域生活に必要な支援 19. ボランティアに手助けを頼みたいこと <p><日中活動や就労について></p> <ol style="list-style-type: none"> 20. 外出頻度 21. 外出の際の同伴者 22. 外出の目的 23. 外出の際に困ること 24. 日中の主な過ごし方 25. 就労の勤務形態 26. 収入を得る仕事をしたいか 	<ol style="list-style-type: none"> 27. 職業訓練を受けたいか 28. 障がいの就労支援に必要と思うこと <p><障害福祉サービス等の利用について></p> <ol style="list-style-type: none"> 29. 障害の程度区分 30. 各サービスの利用状況と利用希望 31. 障害福祉サービスの利用に関して困っていること 32. 各福祉サービスの利用状況と利用希望 <p><相談相手について></p> <ol style="list-style-type: none"> 33. 悩みや困り事の相談相手 34. 障害やサービスの情報の入手方法 <p><権利擁護></p> <ol style="list-style-type: none"> 35. 差別等の経験 36. 差別を受けたところ 37. 障がいのある方に対する市民の理解 38. 障がい者に対する理解を深めるために必要なこと 39. 成年後見制度の周知度 <p><災害時></p> <ol style="list-style-type: none"> 40. 災害時に一人で避難できるか 41. 近所に助けてくれる人はいるか 42. 災害時の避難場所が近くにあるか 43. 災害時に困ること <p><その他></p> <ol style="list-style-type: none"> 44. 障がい者施策として力を入れてほしいこと 45. 障がい児向けの施策やサービスで特に充実が必要と思うもの
--	---

【施設入所の方用調査票】

<p><基本属性等></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 調査票の回答者 2. 年齢 3. 性別 4. 日常生活ADL 5. 介助者は誰か <p><障がいの状況></p> <ol style="list-style-type: none"> 6. 身体障害者手帳所持状況、等級 7. 身体障害の部位 8. 療育手帳の所持、判定 9. 精神障がい者保健福祉手帳の所持、等級 10. 医療ケアの内容 	<p><住まい、暮らし></p> <ol style="list-style-type: none"> 11. 今後、どこで生活したいか 12. 今の施設で生活を続けたい理由 13. 将来、どのように暮らしたいか 14. 地域生活に必要な支援 <p><障害福祉サービス等の利用について></p> <ol style="list-style-type: none"> 15. 障害の程度区分 16. 各サービスの利用状況と利用希望 17. 障害福祉サービスの利用に関して困っていること
---	--

【一般市民用調査票】

<ol style="list-style-type: none"> 1. 回答者の性別、年齢 2. 地域 3. 障がいのある方の問題や福祉への関心、きっかけ 4. 近所や親戚に障がいのある方がいるか、その方の障がいの種類、交流の有無 5. 講座や講演会、交流の場、ボランティア活動の参加意向 6. 障害の理解度 7. 障がいのある方への声かけ・手助け 	<ol style="list-style-type: none"> 8. 障害福祉に関する用語やイベントを知っているか 9. 障がい者への差別・偏見、その理由 10. 障がい者に対する理解を深めるために必要なこと 11. 障がい者が地域や社会に参加するために大切なこと 12. 障がい者を支援するためのボランティア活動
---	---

調査概要

■ 調査概要 ■

1. 調査の目的

うるま市障がい者計画及び障害福祉計画の見直しにあたり、障がい者を対象に生活状況やサービスの利用状況等を把握するとともに、市民の障害福祉に対する意識等を調査し、計画策定の基礎資料とすることを目的に実施しました。

2. 実施主体

うるま市障がい福祉課

3. 調査対象者、抽出方法

- ・ 在宅の身体障がい者：身体障害者手帳所持者 1,600人を無作為抽出
- ・ 在宅の知的障がい者：療育手帳所持者 908人全数調査
- ・ 在宅の精神障がい者：サービス事業所等の利用者に無作為で調査
- ・ 施設入所者：施設入所支援の利用者 数ヶ所の施設に調査協力依頼
- ・ 一般市民：市内に在住する20歳以上の男女より2,000人を無作為抽出

4. 配布方法

- ・ 在宅の身体障がい者：身体障害者手帳所持者 郵送による配布・回収
- ・ 在宅の知的障がい者：療育手帳所持者 郵送による配布・回収
- ・ 在宅の精神障がい者：サービス事業所等の利用者 事業所等を通じて配布・回収
- ・ 施設入所者：施設入所支援の利用者 施設を通して配布・回収
- ・ 一般市民：市内にする20歳以上の男女 郵送による配布・回収

5. 調査期間

平成28年12月～平成29年1月

6. 回収状況

	配布件数	回収数 (有効回答数)	回収率
在宅の身体障がい者	1,600件	1,246件	49.7%
在宅の知的障がい者	908件		
在宅の精神障がい者	123件	87件	70.7%
施設入所者	95件	92件	96.8%
一般市民	2,000件	766件	38.3%
合計	4,726件	3,437件	72.7%

7. 集計について

- 各設問に示している「回答者実数」は、全員に回答してもらった設問では有効回答数と同数ですが、回答者を限定している設問では、その条件に合う人のみが対象となるため、有効回答数を下回っています。（例：介助を受けている人だけ回答する、地域生活への意向を望む人だけ回答するなど）
- 集計では、小数点以下第2位を四捨五入しているため、比率を合計しても100.0%にならない場合があります。
- 地区別や性別、年代別といった「クロス集計結果」の表については、無回答を除いて表示しています。
- 複数回答の設問については、回答数の合計が回答者実数を上回ることがあります。このため、比率の合計が100%を超える場合があります。
- 集計によっては、回答者実数が10人未満と非常に少ない場合もあり、このような集計は参考程度として見る必要があります。
- 文章では、選択肢を一部省略して表記している場合があります。（選択肢が長い場合など）

在宅の身体障がい者・知的障がい者・精神障がい者
調査結果

■ 在宅の身体障がい者・知的障がい者・精神障がい者調査結果 ■

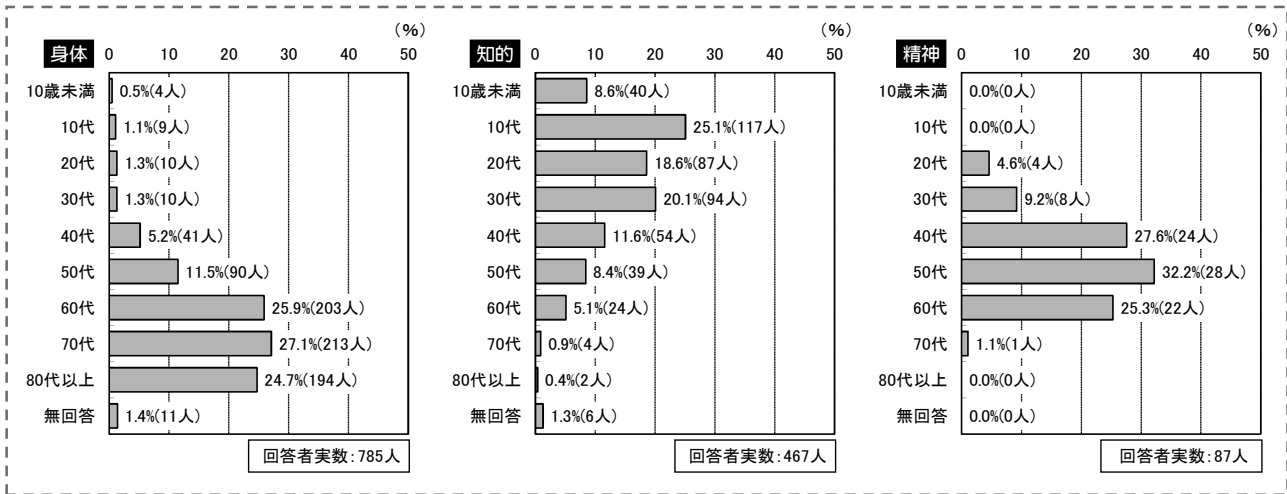
1. 年齢

身体障がい者では、「70代」が最も高く27.1% (213人)、次いで「60代」の25.9% (203人)となっています。「80代」も24.7% (194人)あり、60代以上が7割以上を占めています。

知的障がい者では、「10代」が25.1% (117人)で最も高く、「30代」が20.1% (94人)、「20代」が18.6% (87人)で、10代から30代までが6割余りを占めています。

精神障がい者では、「50代」が32.2% (28人)で最も高く、「40代」が27.6% (24人)、「60代」が25.3% (22人)で、40代から60代までが8割余りを占めています。

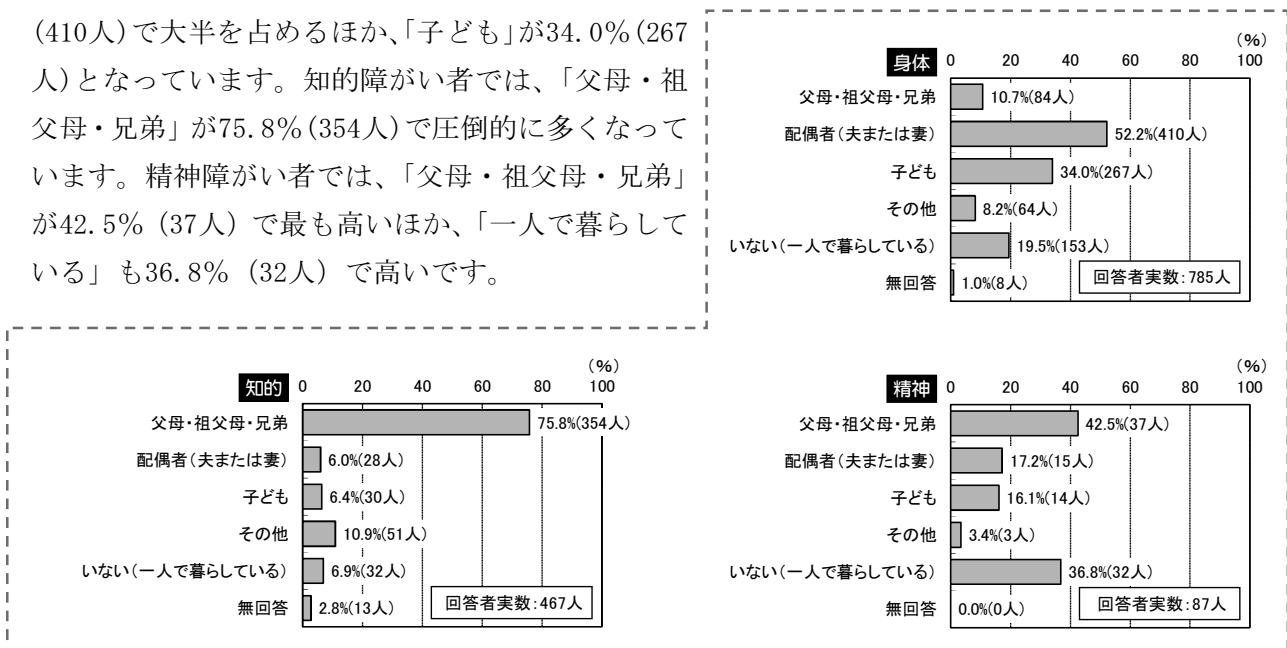
年齢



2. 一緒に暮らしている人

身体障がい者では、「配偶者」という回答が52.2% (410人)で大半を占めるほか、「子ども」が34.0% (267人)となっています。知的障がい者では、「父母・祖父母・兄弟」が75.8% (354人)で圧倒的に多くなっています。精神障がい者では、「父母・祖父母・兄弟」が42.5% (37人)で最も高いほか、「一人で暮らしている」も36.8% (32人)で高いです。

一緒に暮らしている人



一緒に暮らしている人を年代別に見ると、身体障がい者では、50代以上では「配偶者」という回答が最も高いほか、「子ども」も比較的高くなっています。また、40代以下では「父母・祖父母・兄弟」が非常に高いほか、「配偶者」や「子ども」という回答も高い傾向にあります。

一緒に暮らしている人（年代別）

身体	10歳未満	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上
回答者実数	4人	9人	10人	10人	41人	90人	203人	213人	194人
父母・祖父母・兄弟	100.0% (4人)	88.9% (8人)	70.0% (7人)	50.0% (5人)	39.0% (16人)	25.6% (23人)	6.4% (13人)	2.8% (6人)	0.5% (1人)
配偶者 (夫または妻)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	20.0% (2人)	40.0% (4人)	29.3% (12人)	45.6% (41人)	62.6% (127人)	62.9% (134人)	44.3% (86人)
子ども	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	60.0% (6人)	26.8% (11人)	28.9% (26人)	32.5% (66人)	29.6% (63人)	47.9% (93人)
その他	0.0% (0人)	11.1% (1人)	10.0% (1人)	0.0% (0人)	7.3% (3人)	7.8% (7人)	7.4% (15人)	8.0% (17人)	10.3% (20人)
いない(一人で暮らしている)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	10.0% (1人)	22.0% (9人)	20.0% (18人)	19.2% (39人)	19.7% (42人)	21.6% (42人)
無回答	1.0% (8人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	1.0% (2人)	0.5% (1人)

知的障がい者では、全ての年代で「父母・祖父母・兄弟」が最も高く、60代以下ではこれ以外の項目は非常に低くなっています。また、40代以下では「父母・祖父母・兄弟」が6割以上を占め、年代が低いほど割合が高くなる傾向も見られます。

知的	10歳未満	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上
回答者実数	40人	117人	87人	94人	54人	39人	24人	4人	2人
父母・祖父母・兄弟	97.5% (39人)	85.5% (100人)	79.3% (69人)	78.7% (74人)	66.7% (36人)	48.7% (19人)	54.2% (13人)	50.0% (2人)	50.0% (1人)
配偶者(夫または妻)	5.0% (2人)	5.1% (6人)	1.1% (1人)	8.5% (8人)	9.3% (5人)	5.1% (2人)	8.3% (2人)	25.0% (1人)	50.0% (1人)
子ども	5.0% (2人)	4.3% (5人)	2.3% (2人)	9.6% (9人)	9.3% (5人)	7.7% (3人)	4.2% (1人)	50.0% (2人)	50.0% (1人)
その他	0.0% (0人)	8.5% (10人)	13.8% (12人)	11.7% (11人)	13.0% (7人)	15.4% (6人)	12.5% (3人)	50.0% (2人)	0.0% (0人)
いない(一人で暮らしている)	0.0% (0人)	0.9% (1人)	5.7% (5人)	5.3% (5人)	7.4% (4人)	25.6% (10人)	25.0% (6人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
無回答	0.0% (0人)	2.6% (3人)	2.3% (2人)	0.0% (0人)	5.6% (3人)	2.6% (1人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)

精神障がい者では、「父母・祖父母・兄弟」が20代から50代までで最も高いほか、「一人で暮らしている」や「子ども」も比較的高くなっています。また「一人で暮らしている」は60代で6割余りを占め最も高いです。

精神	10歳未満	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上
回答者実数	0人	0人	4人	8人	24人	28人	22人	1人	0人
父母・祖父母・兄弟	0.0% (0人)	0.0% (0人)	75.0% (3人)	75.0% (6人)	54.2% (13人)	39.3% (11人)	18.2% (4人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
配偶者(夫または妻)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	12.5% (1人)	20.8% (5人)	17.9% (5人)	13.6% (3人)	100.0% (1人)	0.0% (0人)
子ども	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	29.2% (7人)	14.3% (4人)	13.6% (3人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
その他	0.0% (0人)	0.0% (0人)	25.0% (1人)	0.0% (0人)	4.2% (1人)	3.6% (1人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
いない(一人で暮らしている)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	12.5% (1人)	25.0% (6人)	39.3% (11人)	63.6% (14人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
無回答	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)

地域別に見ると、身体障がい者では各地区とも「配偶者」が最も高く、「子ども」が2番目に高くなっています。また、石川地域では「一人で暮らしている」が他の地区に比べてやや高いです。

一緒に暮らしている人(地域別)

身体	具志川地域	石川地域	勝連地域	与那城地域
回答者実数	467人	144人	78人	92人
父母・祖父母・兄弟	8.6% (40人)	13.2% (19人)	14.1% (11人)	15.2% (14人)
配偶者(夫または妻)	53.7% (251人)	45.8% (66人)	57.7% (45人)	52.2% (48人)
子ども	33.8% (158人)	32.6% (47人)	38.5% (30人)	34.8% (32人)
その他	7.1% (33人)	8.3% (12人)	9.0% (7人)	13.0% (12人)
いない(一人で暮らしている)	19.7% (92人)	22.9% (33人)	12.8% (10人)	18.5% (17人)
無回答	0.9% (4人)	0.7% (1人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)

知的障がい者では、各地区とも「父母・祖父母・兄弟」が最も高く7割半ばとなっています。勝連地域と与那城地域では、「子ども」や「その他」という回答が他地区よりやや高くなっています。

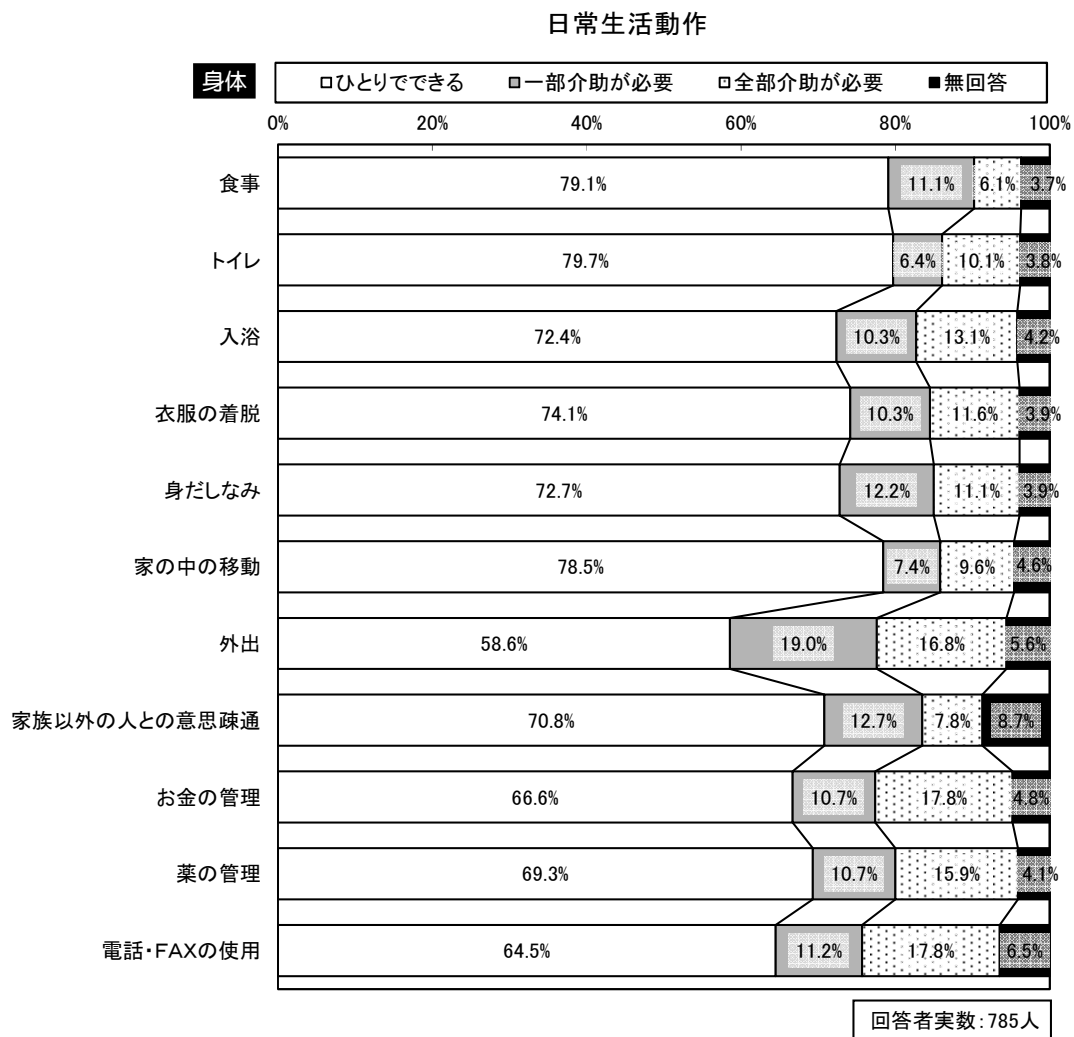
知的	具志川地域	石川地域	勝連地域	与那城地域
回答者実数	276人	80人	54人	53人
父母・祖父母・兄弟	76.8% (212人)	76.3% (61人)	75.9% (41人)	75.5% (40人)
配偶者(夫または妻)	5.8% (16人)	5.0% (4人)	9.3% (5人)	5.7% (3人)
子ども	6.2% (17人)	5.0% (4人)	11.1% (6人)	5.7% (3人)
その他	9.4% (26人)	7.5% (6人)	16.7% (9人)	17.0% (9人)
いない(一人で暮らしている)	7.6% (21人)	10.0% (8人)	1.9% (1人)	3.8% (2人)
無回答	3.6% (10人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)

精神障がい者では、石川、勝連、与那城の3地区では「父母・祖父母・兄弟」が最も高くなっています。また、石川地域と勝連地域では「配偶者」と「子ども」が比較的高く、与那城地域では「一人で暮らしている」が比較的高いです。具志川地域では「一人で暮らしている」がもっとも高く、「父母・祖父母・兄弟」がこれに次いで高くなっています。

精神	具志川地域	石川地域	勝連地域	与那城地域
回答者実数	43人	12人	9人	21人
父母・祖父母・兄弟	34.9% (15人)	50.0% (6人)	55.6% (6人)	52.4% (11人)
配偶者(夫または妻)	18.6% (8人)	25.0% (3人)	33.3% (3人)	9.5% (2人)
子ども	9.3% (4人)	25.0% (3人)	33.3% (3人)	19.0% (4人)
その他	2.3% (1人)	8.3% (1人)	0.0% (1人)	4.8% (1人)
いない(一人で暮らしている)	48.8% (21人)	16.7% (2人)	11.1% (2人)	28.6% (6人)
無回答	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)

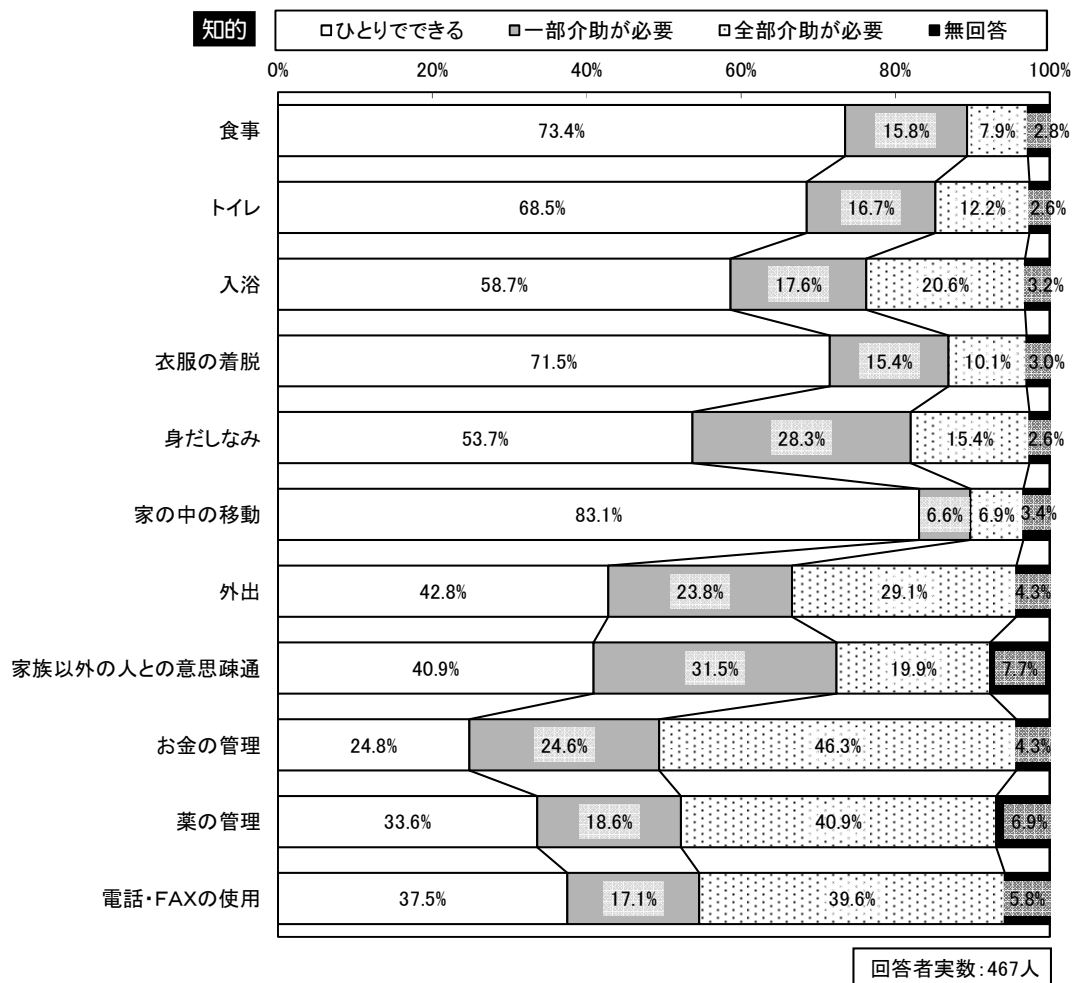
3. 日常生活動作

食事やトイレ、入浴などの日常生活動作について見ると、身体障がい者では、「ひとりでできる」という回答が「食事」、「トイレ」、「家の中の移動」は8割近くで非常に高く、また「入浴」、「衣服の着脱」、「身だしなみ」、「家族以外と意思疎通」が約7割前半となっています。「ひとりでできる」の割合が低いのは、「外出」の58.6% (460人)で、唯一、6割を下回っています。



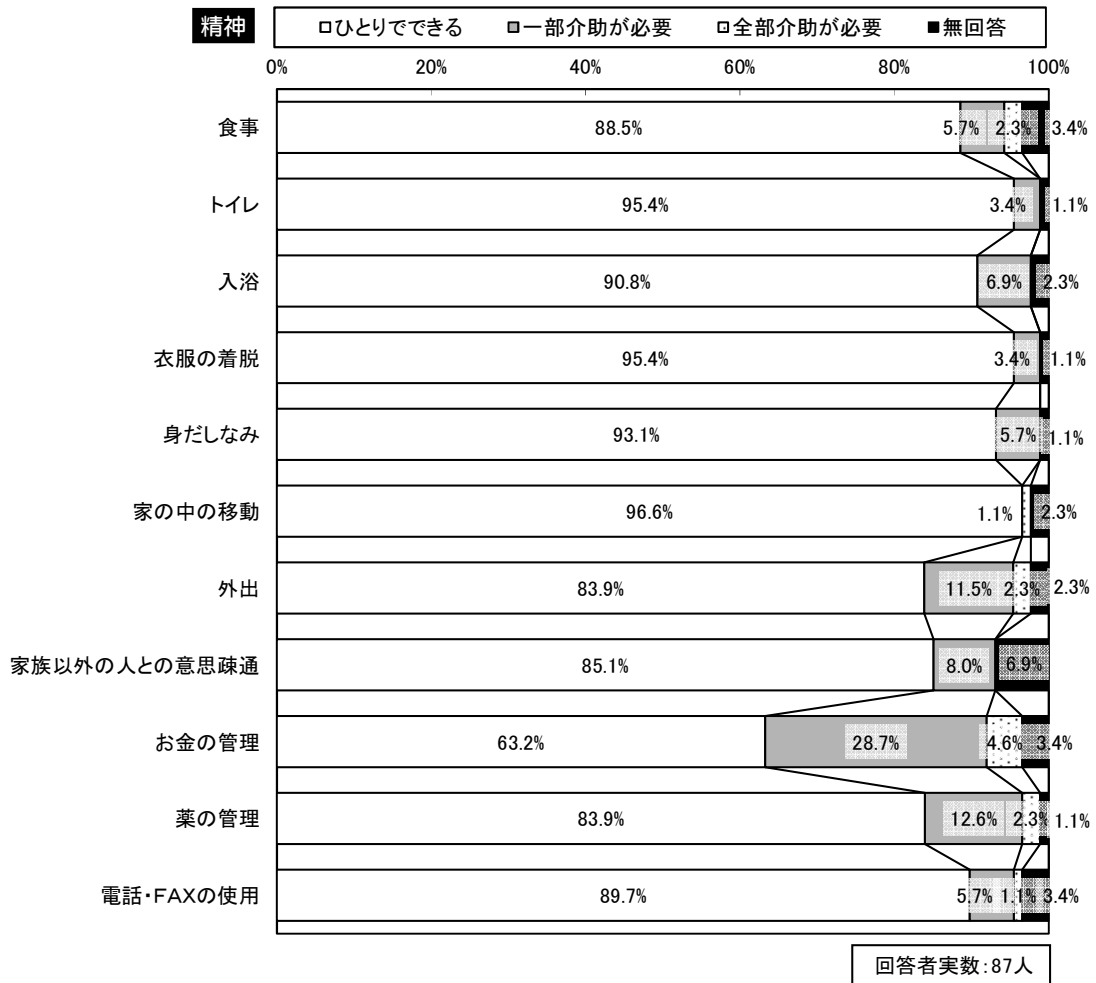
知的障がい者では、「ひとりでできる」の割合は、「家の中の移動」が83.1%(388人)で唯一8割を超えているほか、「食事」、「トイレ」、「衣服の着脱」は約7割、「入浴」、「身だしなみ」が5割台ですが、それ以外は5割未満であり、身体障がい者と比較して「ひとりでできる」割合が低くなっています。中でも「お金の管理」は24.8%(116人)であり、3割に満たないです。また、「電話・FAXの仕様」の37.5%(175人)、「薬の管理」の33.6%(157人)も、身体障がい者と比べ、とても低いです。

日常生活動作



精神障がい者では、ほとんどの項目で「ひとりでできる」という回答が9割程度を占めています。「外出」、「家族以外の人との意思疎通」、「薬の管理」はやや低いものの8割半ばを占めています。また、「ひとりでできる」の割合が低いのは、「お金の管理」の63.2%で、唯一、7割を下回っています。

日常生活動作



「ひとりできる」という回答を身体障害の部位別に見ると、内部障害では全ての動作において、また肢体不自由（下肢）では「入浴」と「外出」を除く項目において7割以上の回答率となっており、日常生活動作を問題なくできている人が非常に多くなっています。

視覚障害と聴覚障害では、屋内の動作や「家族意外との意思疎通」、「薬の管理」では概ね7割以上の回答率となっていますが、「外出」や「お金の管理」、「電話・FAXの使用」は7割を下回っています。

肢体不自由（下肢）では、「食事」、「トイレ」、「家の中の移動」が約7割となっており、視覚障害ではこれら3動作のほか、「家族以外の人との意思疎通」が7割を超えています。

また、音声・言語・そしゃく機能障害と肢体不自由（上肢）、肢体不自由（体幹）では、全ての動作で「ひとりできる」割合が7割未満となっており、特に肢体不自由（体幹）においては概ね4割以下で、もっとも低くなっています。

音声・言語・そしゃく機能障害、肢体不自由（上肢）、肢体不自由（体幹）では「一人でできる」の割合が7割未満の項目がほとんどとなっており、特に肢体不自由（体幹）では、全ての項目が5割未満となっています。

日常生活動作（ひとりできる）（身体障害の部位別）

身体	視覚障害	聴覚障害	音声・言語・そしゃく機能障害	肢体不自由（上肢）	肢体不自由（下肢）	肢体不自由（体幹）	内部障害（1～6以外）
回答者実数	35人	83人	12人	40人	96人	60人	302人
食事	74.3% (26人)	89.2% (74人)	66.7% (8人)	77.5% (31人)	82.3% (79人)	35.0% (21人)	89.4% (270人)
トイレ	82.9% (29人)	89.2% (74人)	75.0% (9人)	75.0% (30人)	77.1% (74人)	33.3% (20人)	91.7% (277人)
入浴	74.3% (26人)	88.0% (73人)	58.3% (7人)	57.5% (23人)	64.6% (62人)	20.0% (12人)	87.4% (264人)
衣服の着脱	82.9% (29人)	88.0% (73人)	66.7% (8人)	57.5% (23人)	71.9% (69人)	23.3% (14人)	88.7% (268人)
身だしなみ	74.3% (26人)	85.5% (71人)	58.3% (7人)	57.5% (23人)	68.8% (66人)	25.0% (15人)	87.7% (265人)
家の中の移動	82.9% (29人)	89.2% (74人)	75.0% (9人)	70.0% (28人)	75.0% (72人)	30.0% (18人)	91.7% (277人)
外出	40.0% (14人)	67.5% (56人)	50.0% (6人)	52.5% (21人)	54.2% (52人)	16.7% (10人)	76.5% (231人)
家族以外の人との意思疎通	71.4% (25人)	65.1% (54人)	41.7% (5人)	67.5% (27人)	69.8% (67人)	46.7% (28人)	86.1% (260人)
お金の管理	57.1% (20人)	67.5% (56人)	50.0% (6人)	52.5% (21人)	70.8% (68人)	31.7% (19人)	80.8% (244人)
薬の管理	65.7% (23人)	74.7% (62人)	41.7% (5人)	62.5% (25人)	74.0% (71人)	35.0% (21人)	82.8% (250人)
電話・FAXの使用	51.4% (18人)	50.6% (42人)	41.7% (5人)	65.0% (26人)	69.8% (67人)	31.7% (19人)	82.8% (250人)

「ひとりでできる」という回答を身体障害の等級別に見ると、4級は全ての動作において7割を超えています。また、3級も「外出」(69.8%)以外では全て7割を超えています。1級、2級では「食事」、「トイレ」、「家の中の移動」がそれぞれ7割を超えています。(5級、6級は回答者数が少ないため上記分析より割愛しています。)

日常生活動作(ひとりでできる)(身体障がい等級別)

身体	1級	2級	3級	4級	5級	6級
回答者実数	266人	123人	129人	140人	25人	39人
食事	70.7% (188人)	71.5% (88人)	89.1% (115人)	92.9% (130人)	68.0% (17人)	92.3% (36人)
トイレ	71.8% (191人)	74.8% (92人)	93.0% (120人)	87.9% (123人)	68.0% (17人)	89.7% (35人)
入浴	65.0% (173人)	58.5% (72人)	83.7% (108人)	84.3% (118人)	60.0% (15人)	92.3% (36人)
衣服の着脱	68.0% (181人)	61.0% (75人)	86.8% (112人)	85.7% (120人)	60.0% (15人)	89.7% (35人)
身だしなみ	65.8% (175人)	59.3% (73人)	84.5% (109人)	85.0% (119人)	60.0% (15人)	87.2% (34人)
家の中の移動	72.6% (193人)	71.5% (88人)	90.7% (117人)	86.4% (121人)	68.0% (17人)	84.6% (33人)
外出	50.8% (135人)	44.7% (55人)	69.8% (90人)	77.1% (108人)	44.0% (11人)	74.4% (29人)
家族以外の人との意思疎通	65.8% (175人)	65.0% (80人)	86.0% (111人)	78.6% (110人)	64.0% (16人)	74.4% (29人)
お金の管理	59.0% (157人)	55.3% (68人)	84.5% (109人)	77.1% (108人)	52.0% (13人)	76.9% (30人)
薬の管理	62.4% (166人)	63.4% (78人)	80.6% (104人)	79.3% (111人)	56.0% (14人)	82.1% (32人)
電話・FAXの使用	58.6% (156人)	53.7% (66人)	79.1% (102人)	77.1% (108人)	48.0% (12人)	74.4% (29人)

「ひとりでできる」という回答を療育手帳の判定別に見ると、7割を超えているのはB2が「食事」、「トイレ」、「入浴」、「衣服の着脱」、「身だしなみ」、「家の中の移動」の6項目に対して、B1では「食事」、「トイレ」、「衣服の着脱」、「家の中の移動」の4項目、A2では「家の中の移動」のみで、A1にはいません。

日常生活動作(ひとりでできる)(知的障がいの判定別)

知的	A 1	A 2	B 1	B 2
回答者実数	43人	89人	114人	175人
食事	30.2% (13人)	57.3% (51人)	77.2% (88人)	91.4% (160人)
トイレ	23.3% (10人)	39.3% (35人)	79.8% (91人)	88.6% (155人)
入浴	11.6% (5人)	22.5% (20人)	64.9% (74人)	83.4% (146人)
衣服の着脱	27.9% (12人)	47.2% (42人)	83.3% (95人)	89.1% (156人)
身だしなみ	14.0% (6人)	16.9% (15人)	57.9% (66人)	77.1% (135人)
家の中の移動	46.5% (20人)	77.5% (69人)	91.2% (104人)	94.9% (166人)
外出	9.3% (4人)	7.9% (7人)	39.5% (45人)	69.7% (122人)
家族以外の人との意思疎通	11.6% (5人)	6.7% (6人)	41.2% (47人)	63.4% (111人)
お金の管理	4.7% (2人)	5.6% (5人)	13.2% (15人)	43.4% (76人)
薬の管理	7.0% (3人)	6.7% (6人)	26.3% (30人)	55.4% (97人)
電話・FAXの使用	11.6% (5人)	3.4% (3人)	31.6% (36人)	62.9% (110人)

「ひとりでできる」という回答を精神障がいの手帳等級及び精神通院公費負担制度利用者別に見ると、3級では全ての項目で8割以上となっていますが、2級では「お金の管理」が5割程度と下がっています。また、1級では「お金の管理」が5割台であるほか、「薬の管理」が7割程度に下がっています。一方、精神通院公費負担制度利用者では、「お金の管理」が5割台で最も低いほか、「外出」が7割弱で比較的低くなっています。

日常生活動作(ひとりでできる)(精神障がいの等級別)

精神	1 級	2 級	3 級	精神通院	持っていない
回答者実数	14人	45人	5人	26人	7人
食事	85.7% (12人)	88.9% (40人)	100.0% (5人)	84.6% (22人)	71.4% (5人)
トイレ	100.0% (14人)	95.6% (43人)	80.0% (4人)	92.3% (24人)	100.0% (7人)
入浴	85.7% (12人)	93.3% (42人)	80.0% (4人)	84.6% (22人)	100.0% (7人)
衣服の着脱	100.0% (14人)	100.0% (45人)	80.0% (4人)	88.5% (23人)	85.7% (6人)
身だしなみ	92.9% (13人)	97.8% (44人)	80.0% (4人)	88.5% (23人)	85.7% (6人)
家の中の移動	85.7% (12人)	97.8% (44人)	100.0% (5人)	92.3% (24人)	100.0% (7人)
外出	78.6% (11人)	80.0% (36人)	80.0% (4人)	69.2% (18人)	100.0% (7人)
家族以外の人との意思疎通	85.7% (12人)	84.4% (38人)	80.0% (4人)	80.8% (21人)	71.4% (5人)
お金の管理	57.1% (8人)	51.1% (23人)	80.0% (4人)	57.7% (15人)	85.7% (6人)
薬の管理	71.4% (10人)	82.2% (37人)	100.0% (5人)	80.8% (21人)	85.7% (6人)
電話・FAXの使用	85.7% (12人)	91.1% (41人)	100.0% (5人)	80.8% (21人)	100.0% (7人)

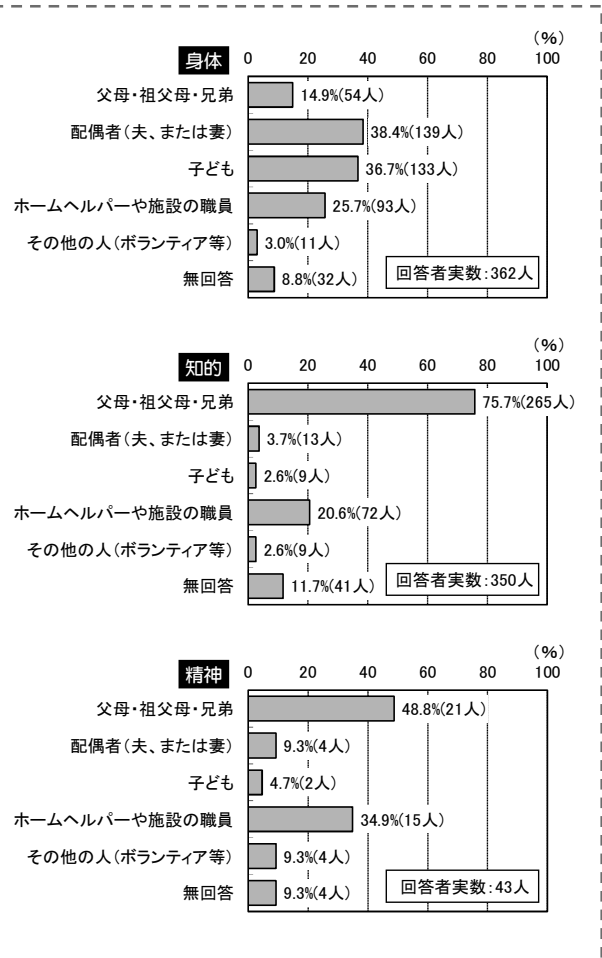
4. 介助者について

介助を必要としている人に対して、介助者の状況を尋ねました。身体障がい者では、「配偶者(夫または妻)」の38.4%(139人)と「子ども」の36.7%(133人)が、それぞれ4割近くを占めとても高くなっています。

知的障がい者では、「父母・祖父母・兄弟」の割合が75.7%(265人)で圧倒的に高く、次いで「ホームヘルパーや施設の職員」の20.6%(72人)となっています。

精神障がい者では、「父母・祖父母・兄弟」の割合が48.8%(21人)で最も高く、次いで「ホームヘルパーや施設の職員」の34.9%(15人)となっています。

介助者について



身体障がいの等級別に見ると、各等級において「配偶者(夫、または妻)」と「子ども」の割合が高く、また「ホームヘルパーや施設の職員」の割合も比較的高い割合となっています。

介助者について (身体障がいの等級別)

身体	1級	2級	3級	4級	5級	6級
回答者実数	139人	83人	46人	42人	12人	14人
父母・祖父母・兄弟	17.3% (24人)	9.6% (8人)	19.6% (9人)	14.3% (6人)	25.0% (3人)	7.1% (1人)
配偶者(夫、または妻)	39.6% (55人)	43.4% (36人)	45.7% (21人)	26.2% (11人)	25.0% (3人)	57.1% (8人)
子ども	30.9% (43人)	37.3% (31人)	45.7% (21人)	31.0% (13人)	33.3% (4人)	28.6% (4人)
ホームヘルパーや施設の職員	33.1% (46人)	24.1% (20人)	15.2% (7人)	23.8% (10人)	41.7% (5人)	14.3% (2人)
その他の人(ボランティア等)	5.0% (7人)	1.2% (1人)	0.0% (0人)	4.8% (2人)	0.0% (0人)	7.1% (1人)
無回答	7.2% (10人)	12.0% (10人)	6.5% (3人)	14.3% (6人)	8.3% (1人)	7.1% (1人)

知的障がい者の判定別に見ると、各判定で「父母・祖父母・兄弟」の割合が最も高く、次に「ホームヘルパーや施設の職員」となります。

介助者について（知的障がいの判定別）

知的	A 1	A 2	B 1	B 2
回答者実数	40人	87人	98人	101人
父母・祖父母・兄弟	87.5% (35人)	83.9% (73人)	68.4% (67人)	73.3% (74人)
配偶者（夫、または妻）	2.5% (1人)	2.3% (2人)	4.1% (4人)	5.0% (5人)
子ども	5.0% (2人)	1.1% (1人)	3.1% (3人)	2.0% (2人)
ホームヘルパーや施設の職員	37.5% (15人)	23.0% (20人)	21.4% (21人)	9.9% (10人)
その他の人(ボランティア等)	2.5% (1人)	1.1% (1人)	2.0% (2人)	4.0% (4人)
無回答	5.0% (2人)	8.0% (7人)	13.3% (13人)	16.8% (17人)

精神障がい者の手帳等級及び精神通院公費負担制度利用者別に見ると、各等級および「精神通院」では「父母・祖父母・兄弟」の割合が最も高く、次に「ホームヘルパーや施設の職員」となります。

介助者について（精神障がいの等級別）

精神	1 級	2 級	3 級	精神通院	持っていない
回答者実数	8人	30人	1人	12人	2人
父母・祖父母・兄弟	87.5% (7人)	40.0% (12人)	100.0% (1人)	41.7% (5人)	0.0% (0人)
配偶者（夫、または妻）	0.0% (0人)	10.0% (3人)	100.0% (1人)	16.7% (2人)	0.0% (0人)
子ども	0.0% (0人)	3.3% (1人)	100.0% (1人)	16.7% (2人)	0.0% (0人)
ホームヘルパーや施設の職員	25.0% (2人)	33.3% (10人)	0.0% (0人)	33.3% (4人)	50.0% (1人)
その他の人(ボランティア等)	0.0% (0人)	10.0% (3人)	0.0% (0人)	16.7% (2人)	50.0% (1人)
無回答	0.0% (0人)	13.3% (4人)	0.0% (0人)	16.7% (2人)	0.0% (0人)

5. 介助者の年齢

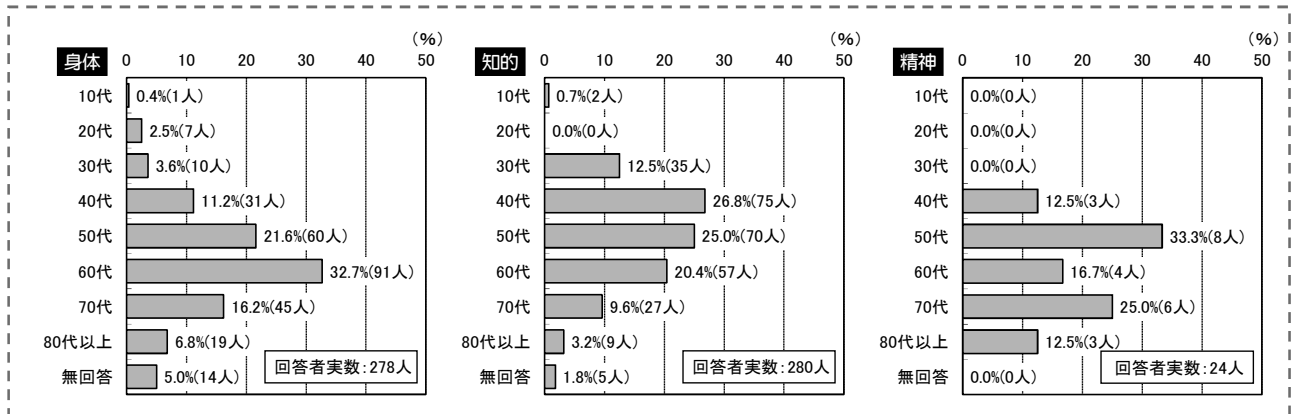
介助者が「父母・祖父母・兄弟」、「配偶者」、「子ども」と回答した人に対し、介助者の年齢を尋ねました。

身体障がい者では、「60代」が最も高く32.7% (91人)であるほか、「50代」が21.6% (60人)で、50代、「60代」の介助者が5割を超えています。また、「70代」が16.2% (45人)となっており、「60代」も含め、高齢での介助者も多くなっています。

知的障がい者では「40代」が26.8% (75人)、「50代」が25.0% (70人)となっており、身体障がい者の介助者より、やや若い世代で多くなっています。また、「60代」も20.4% (57人)であり、これら3つの年代が7割を占めています。

精神障がい者は身体障がい者と同様「50代」から「70代」の割合が高く、全体の75%を占めています。

介助者の年齢



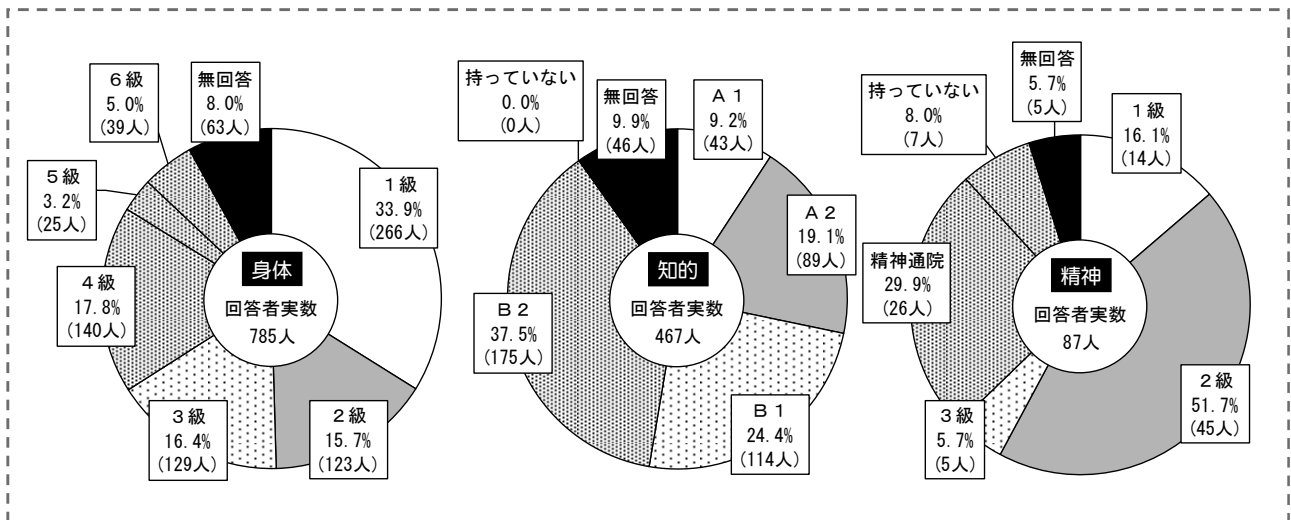
6. 手帳の所持状況

身体障害者手帳の等級を見ると、「1級」が33.9% (266人)で最も高くなっています。また、「2級」の15.7% (123人)を合わせると49.6%となり、約5割が重度障がい者であることがわかります。

療育手帳所持者の判定は、「B 2」の37.5% (175人)が最も高く、次いで「B 1」の24.4% (114人)であり、B判定が全体の6割を占めています。

精神障害者保健福祉手帳の等級は「2級」が52.7% (46人)で半数を占めています。また、手帳所持ではなく、通院公費負担制度利用者が29.9% (26人)で、約3割を占めています。

手帳の所持状況



身体障がいの部位別に見ると、「視覚障がい」、「肢体不自由(体幹)」、「内部障がい(1～6以外)」は「1級」が最も高く、また「聴覚障がい」、「肢体不自由(上肢)」では「2級」、「音声・言語・そしゃく機能障がい」では「3級」、「肢体不自由(下肢)」では「4級」がそれぞれ最も高い割合となります。

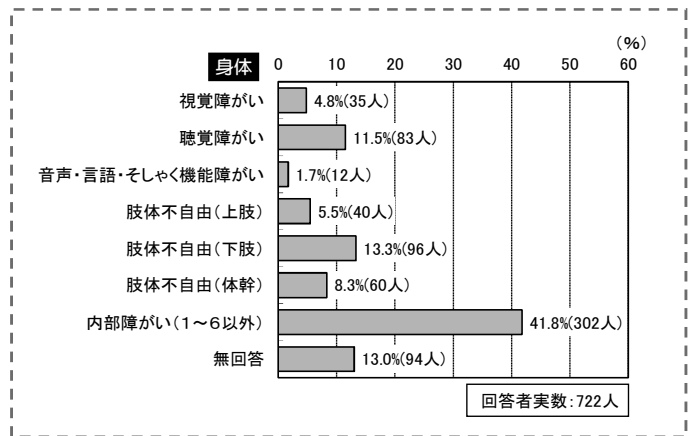
身体障害者手帳の等級 (身体障がいの部位別)

身体	視覚障がい	聴覚障がい	音声・言語・そしゃく機能障がい	肢体不自由(上肢)	肢体不自由(下肢)	肢体不自由(体幹)	内部障がい(1～6以外)
回答者実数	35人	83人	12人	40人	96人	60人	302人
1級	40.0% (14人)	10.8% (9人)	16.7% (2人)	20.0% (8人)	18.8% (18人)	38.3% (23人)	53.3% (161人)
2級	31.4% (11人)	28.9% (24人)	16.7% (2人)	37.5% (15人)	20.8% (20人)	33.3% (20人)	3.0% (9人)
3級	5.7% (2人)	9.6% (8人)	50.0% (6人)	20.0% (8人)	15.6% (15人)	6.7% (4人)	22.2% (67人)
4級	14.3% (5人)	25.3% (21人)	8.3% (1人)	17.5% (7人)	26.0% (25人)	8.3% (5人)	19.9% (60人)
5級	5.7% (2人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	2.5% (1人)	11.5% (11人)	10.0% (6人)	0.3% (1人)
6級	2.9% (1人)	25.3% (21人)	8.3% (1人)	2.5% (1人)	7.3% (7人)	3.3% (2人)	1.3% (4人)

7. 身体障がい者の障害部位

身体障がい者の障害部位では、「内部障がい」が41.8% (302人) で圧倒的に高くなっています。また、肢体不自由については、「上肢」が5.5% (40人)、「下肢」が13.3% (96人)、「体幹」が8.3% (60人) となっており、これらを合わせると27.1%となります。

身体障がい者の障害部位



年代別に見ると、「内部障がい(1～6以外)」は「10歳未満」が75.0% (3人) と最も高く、30代から80代以上においてもそれぞれ30%～50%台となっています。「肢体不自由(下肢)」では10代から40代がそれぞれ20%台と高く、50代以上が10%前後となります。「聴覚障がい」では「10代」が37.5%と最も高く、そのほかの年代では10%前後となっています。「肢体不自由(体幹)」では「20代」が30.0%と最も高く、「10代」と「30代」がそれぞれ20%台となります。

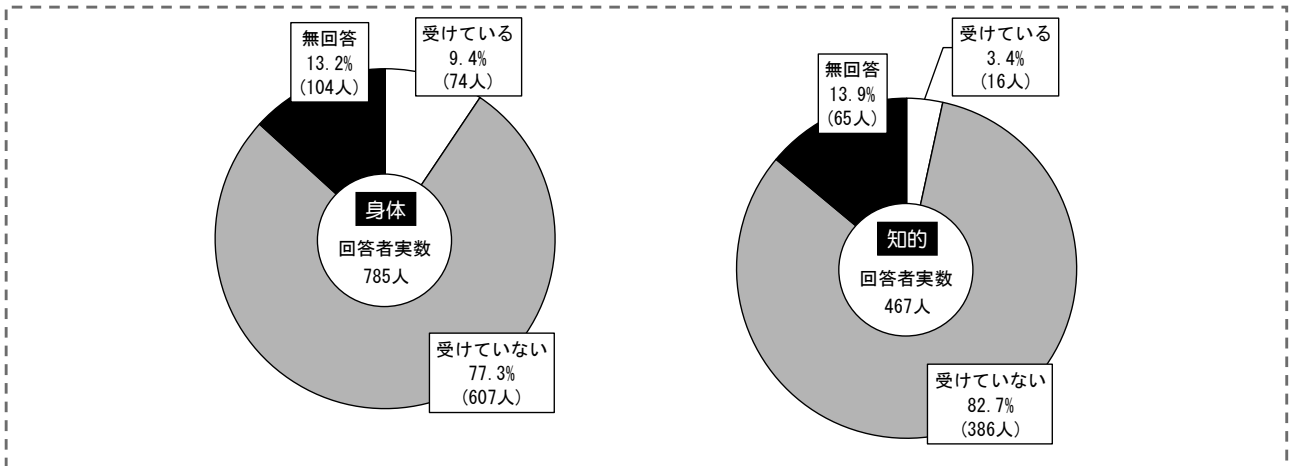
身体障がい者の障害部位 (年代別)

身体	10歳未満	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上
回答者実数	4人	8人	10人	10人	41人	84人	190人	193人	171人
視覚障がい	0.0% (0人)	0.0% (0人)	10.0% (1人)	10.0% (1人)	4.9% (2人)	6.0% (5人)	4.7% (9人)	4.1% (8人)	5.3% (9人)
聴覚障がい	0.0% (0人)	37.5% (3人)	10.0% (1人)	10.0% (1人)	12.2% (5人)	8.3% (7人)	3.7% (7人)	12.4% (24人)	18.1% (31人)
音声・言語・そしゃく機能障がい	0.0% (0人)	0.0% (0人)	10.0% (1人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.5% (1人)	2.1% (4人)	3.5% (6人)
肢体不自由(上肢)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	10.0% (1人)	17.1% (7人)	10.7% (9人)	5.3% (10人)	3.6% (7人)	2.9% (5人)
肢体不自由(下肢)	0.0% (0人)	25.0% (2人)	20.0% (2人)	20.0% (2人)	22.0% (9人)	16.7% (14人)	16.3% (31人)	11.4% (22人)	7.0% (12人)
肢体不自由(体幹)	0.0% (0人)	25.0% (2人)	30.0% (3人)	20.0% (2人)	0.0% (0人)	11.9% (10人)	5.3% (10人)	10.4% (20人)	7.6% (13人)
内部障がい (1～6以外)	75.0% (3人)	0.0% (0人)	20.0% (2人)	30.0% (3人)	36.6% (15人)	34.5% (29人)	50.0% (95人)	44.0% (85人)	39.8% (68人)
無回答	25.0% (1人)	12.5% (1人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	7.3% (3人)	11.9% (10人)	14.2% (27人)	11.9% (23人)	15.8% (27人)

8. 難病(特定疾患)の状況

難病(特定疾患)の認定状況を見ると、認定を「受けている」は身体障がい者で9.4%(74人)、知的障がい者で3.4%(16人)とそれぞれ低率です。なお、精神障がい者には難病の認定を受けている方はいません。

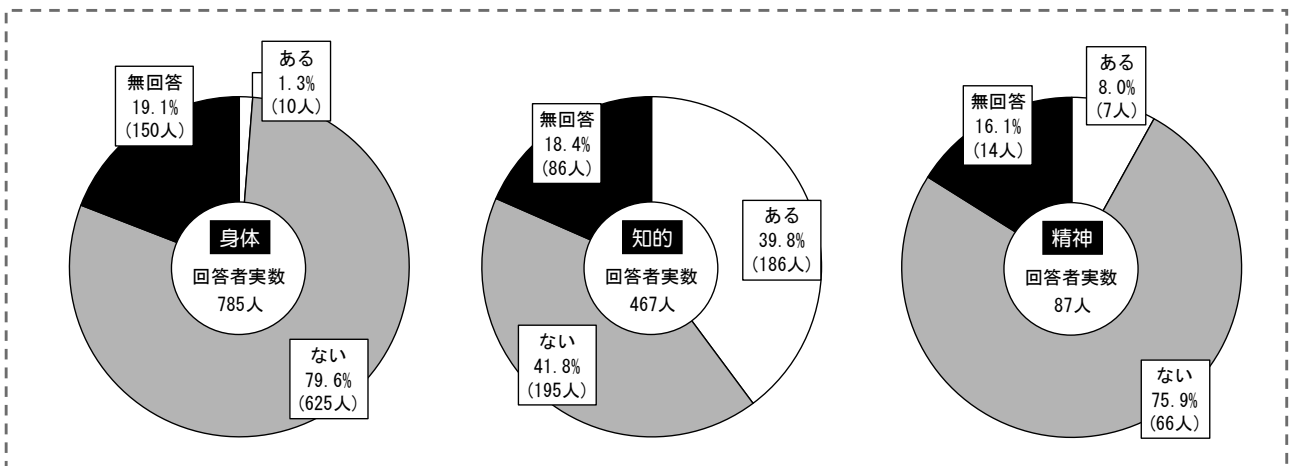
難病(特定疾患)の状況



9. 発達障害の状況

発達障害と診断されたことがあるか尋ねたところ、「ある」と答えたのは、知的障がい者が39.8%(186人)で4割を占めており、身体障がい者の1.3%(10人)、精神障がい者の8.0%(7人)と比べてとても高くなっています。

発達障害の状況



10. 現在受けている医療ケア

「服薬管理」という回答が、身体障がい者の23.8% (187人)、知的障がい者の14.1% (66人)、精神障がい者の34.5% (30人) となっており、ほかの医療ケアより高くなっています。そのほかの医療ケアを受けている人は概ね1割未満です。

現在受けている医療ケア

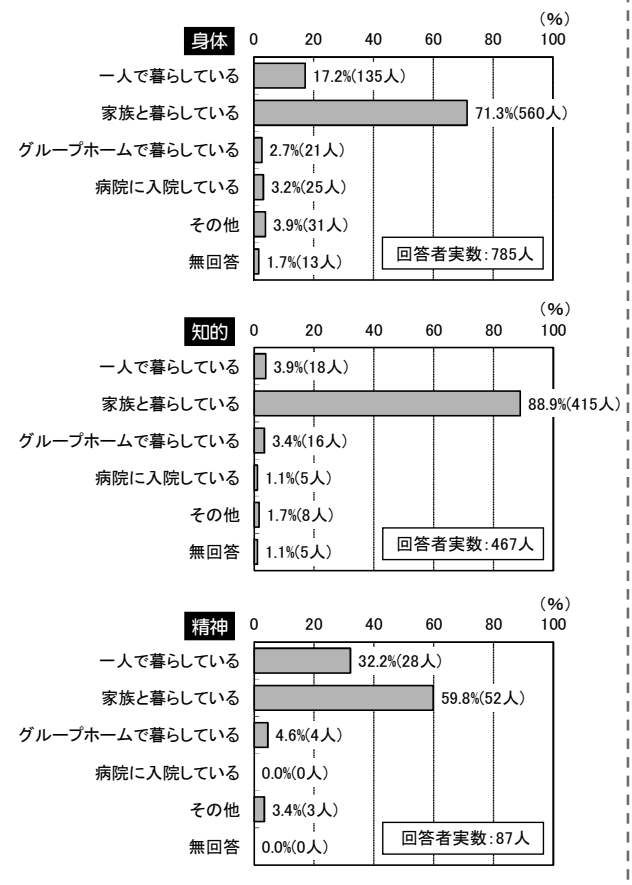
	身体 (785人)	知的 (467人)	精神 (87人)
気管切開	1.7% (13人)	0.9% (4人)	0.0% (0人)
人工呼吸器 (レスピレーター)	1.0% (8人)	0.2% (1人)	0.0% (0人)
吸入	2.5% (20人)	3.4% (16人)	1.1% (1人)
吸引	2.2% (17人)	2.4% (11人)	0.0% (0人)
胃ろう・腸ろう	2.9% (23人)	1.7% (8人)	0.0% (0人)
鼻腔経管栄養	0.8% (6人)	0.6% (3人)	0.0% (0人)
中心静脈栄養 (IVH)	0.1% (1人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
透析	10.1% (79人)	0.4% (2人)	1.1% (1人)
カテーテル留置	7.5% (59人)	0.0% (0人)	1.1% (1人)
ストマ (人工肛門・人工膀胱)	2.8% (22人)	0.0% (0人)	2.3% (2人)
服薬管理	23.8% (187人)	14.1% (66人)	34.5% (30人)
その他	11.6% (91人)	10.3% (48人)	5.7% (5人)
医療ケアを受けていない	25.0% (196人)	43.7% (204人)	37.9% (33人)
無回答	21.0% (165人)	30.8% (144人)	23.0% (20人)

11. 現在の暮らし

身体、知的障がい者とも、「家族と暮らしている」という回答が圧倒的に高く、身体障がい者の71.3% (560人)、知的障がい者の88.9% (415人)を占めています。一方、精神障がい者は59.8% (52人)で身体・知的障がい者と比べて低くなっています。

また、「一人で暮らしている」は精神障がい者が32.2% (28人)、身体障がい者が17.2% (135人)とやや高くなっています。

現在の暮らし



年代別に見ると、身体障がい者で「家族と暮らしている」と答えたのは10歳未満から70代までの各年代で7割以上を占めており、「80代以上」も66.0% (128人)います。

現在の暮らし (年代別)

身体	10歳未満	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上
回答者実数	4人	9人	10人	10人	41人	90人	203人	213人	194人
一人で暮らしている	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	10.0% (1人)	17.1% (7人)	18.9% (17人)	18.7% (38人)	18.8% (40人)	16.0% (31人)
家族と暮らしている	100.0% (4人)	100.0% (9人)	100.0% (10人)	90.0% (9人)	73.2% (30人)	70.0% (63人)	71.9% (146人)	71.8% (153人)	66.0% (128人)
グループホームで暮らしている	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	2.4% (1人)	1.1% (1人)	1.0% (2人)	2.3% (5人)	6.2% (12人)
病院に入院している	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	4.9% (2人)	3.3% (3人)	2.0% (4人)	3.3% (7人)	4.6% (9人)
その他	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	4.4% (4人)	4.9% (10人)	2.8% (6人)	5.2% (10人)
無回答	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	2.4% (1人)	2.2% (2人)	1.5% (3人)	0.9% (2人)	2.1% (4人)

知的障がい者ではほとんどの方が「家族と暮らしている」と答えており、50代、60代以外の年代では8割以上を占めています。

知的	10歳未満	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上
回答者実数	40人	117人	87人	94人	54人	39人	24人	4人	2人
一人で暮らしている	0.0% (0人)	0.0% (0人)	2.3% (2人)	3.2% (3人)	7.4% (4人)	10.3% (4人)	16.7% (4人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
家族と暮らしている	100.0% (40人)	97.4% (114人)	89.7% (78人)	88.3% (83人)	87.0% (47人)	69.2% (27人)	62.5% (15人)	100.0% (4人)	100.0% (2人)
グループホームで暮らしている	0.0% (0人)	0.9% (1人)	3.4% (3人)	2.1% (2人)	3.7% (2人)	15.4% (6人)	8.3% (2人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
病院に入院している	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	2.1% (2人)	0.0% (0人)	5.1% (2人)	4.2% (1人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
その他	0.0% (0人)	0.9% (1人)	3.4% (3人)	2.1% (2人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	8.3% (2人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
無回答	0.0% (0人)	0.9% (1人)	1.1% (1人)	2.1% (2人)	1.9% (1人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)

精神障がい者で「家族と暮らしている」と答えたのは20代、30代、40代、70代が8割以上を占める一方で、50代が50.0%(14人)、60代が36.4%(8人)と他の年代と比べて低率となっています。

また、「一人で暮らしている」と答えたのは60代が54.5%(12人)で最も高く、次いで50代が35.7%(10人)となっています。

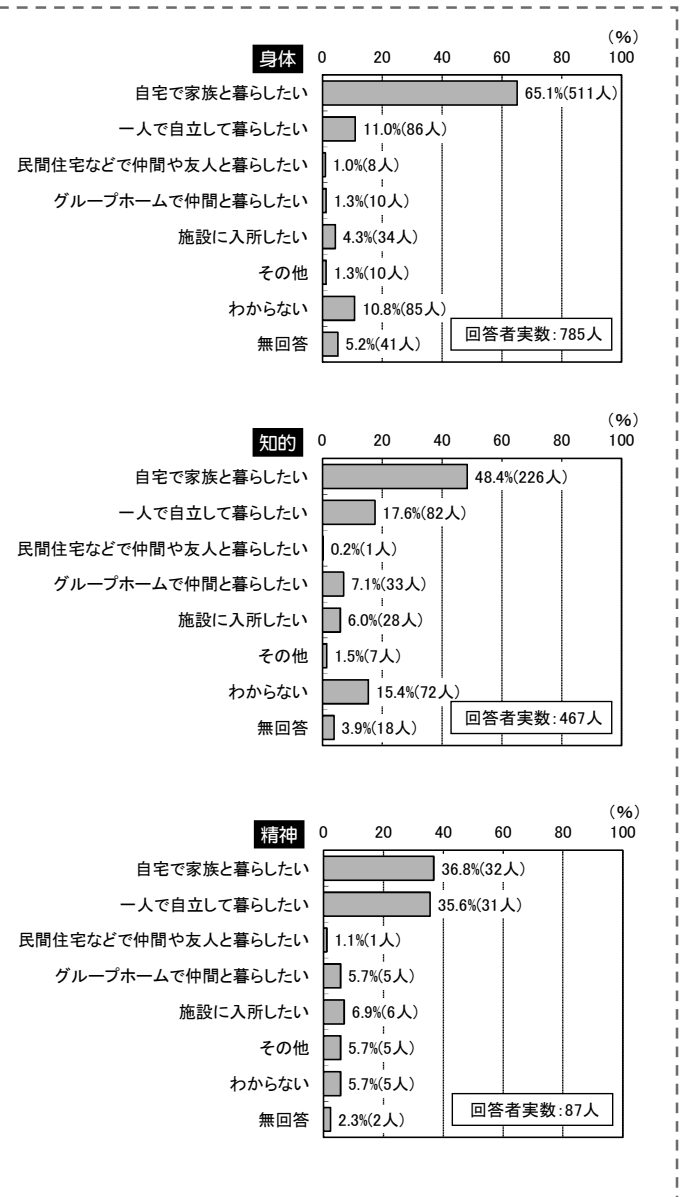
精神	10歳未満	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上
回答者実数	0人	0人	4人	8人	24人	28人	22人	1人	0人
一人で暮らしている	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	12.5% (1人)	20.8% (5人)	35.7% (10人)	54.5% (12人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
家族と暮らしている	0.0% (0人)	0.0% (0人)	75.0% (3人)	87.5% (7人)	79.2% (19人)	50.0% (14人)	36.4% (8人)	100.0% (1人)	0.0% (0人)
グループホームで暮らしている	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	7.1% (2人)	9.1% (2人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
病院に入院している	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
その他	0.0% (0人)	0.0% (0人)	25.0% (1人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	7.1% (2人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
無回答	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)

12. 将来の地域生活の意向

将来の地域生活の意向を尋ねたところ、身体障がい者、知的障がい者では「自宅で家族と暮らしたい」という回答が圧倒的に高く、身体障がい者の65.1%(511人)、知的障がい者の48.4%(226人)を占めています。次いで高いのは「一人で自立して暮らしたい」で、身体障がい者が11.0%(86人)、知的障がい者では17.6%(82人)となっています。

精神障がい者では「自宅で家族と暮らしたい」と「一人で自立して暮らしたい」の割合がそれぞれ3割半ばで、自立生活の意向が身体・知的障害よりも高いことがうかがえます。

将来の地域生活の意向



年代別に見ると、身体障がい者で「自宅で家族と暮らしたい」と答えた方は、30代が70.0%と最も高く、50代以上では各年代6割を超えています。

将来の地域生活の意向（年代別）

身体	10歳未満	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上
回答者実数	4人	9人	10人	10人	41人	90人	203人	213人	194人
自宅で家族と暮らしたい	50.0% (2人)	33.3% (3人)	40.0% (4人)	70.0% (7人)	53.7% (22人)	63.3% (57人)	62.6% (127人)	69.0% (147人)	69.6% (135人)
一人で自立して暮らしたい	0.0% (0人)	33.3% (3人)	40.0% (4人)	20.0% (2人)	22.0% (9人)	16.7% (15人)	11.8% (24人)	7.5% (16人)	6.7% (13人)
民間住宅などで仲間や友人と暮らしたい	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	2.4% (1人)	1.1% (1人)	2.0% (4人)	0.9% (2人)	0.0% (0人)
グループホームで仲間と暮らしたい	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	1.5% (3人)	0.9% (2人)	2.6% (5人)
施設に入所したい	25.0% (1人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	7.3% (3人)	2.2% (2人)	4.9% (10人)	2.3% (5人)	6.7% (13人)
その他	0.0% (0人)	11.1% (1人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	2.4% (1人)	1.1% (1人)	1.0% (2人)	0.9% (2人)	1.0% (2人)
わからない	25.0% (1人)	22.2% (2人)	10.0% (1人)	10.0% (1人)	9.8% (4人)	13.3% (12人)	10.8% (22人)	13.1% (28人)	6.7% (13人)
無回答	0.0% (0人)	0.0% (0人)	10.0% (1人)	0.0% (0人)	2.4% (1人)	2.2% (2人)	5.4% (11人)	5.2% (11人)	6.7% (13人)

知的障がい者で「自宅で家族と暮らしたい」と答えたのは、20代が31.0%(27人)で最も低く、そのほかの年代は4割を超えています。一方、「わからない」と答えた方も60代までの各年代に1割～2割程度います。

知的	10歳未満	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上
回答者実数	40人	117人	87人	94人	54人	39人	24人	4人	2人
自宅で家族と暮らしたい	45.0% (18人)	58.1% (68人)	31.0% (27人)	47.9% (45人)	53.7% (29人)	51.3% (20人)	41.7% (10人)	50.0% (2人)	100.0% (2人)
一人で自立して暮らしたい	20.0% (8人)	14.5% (17人)	27.6% (24人)	12.8% (12人)	16.7% (9人)	15.4% (6人)	16.7% (4人)	25.0% (1人)	0.0% (0人)
民間住宅などで仲間や友人と暮らしたい	0.0% (0人)	0.0% (0人)	1.1% (1人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
グループホームで仲間と暮らしたい	10.0% (4人)	6.0% (7人)	13.8% (12人)	4.3% (4人)	3.7% (2人)	5.1% (2人)	8.3% (2人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
施設に入所したい	0.0% (0人)	3.4% (4人)	9.2% (8人)	9.6% (9人)	7.4% (4人)	2.6% (1人)	8.3% (2人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
その他	5.0% (2人)	0.0% (0人)	2.3% (2人)	2.1% (2人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	4.2% (1人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
わからない	17.5% (7人)	13.7% (16人)	13.8% (12人)	18.1% (17人)	13.0% (7人)	23.1% (9人)	16.7% (4人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
無回答	2.5% (1人)	4.3% (5人)	1.1% (1人)	5.3% (5人)	5.6% (3人)	2.6% (1人)	4.2% (1人)	25.0% (1人)	0.0% (0人)

精神障がい者で「自宅で家族と暮らしたい」と答えたのは40代から60代が比較的高い割合となっています。

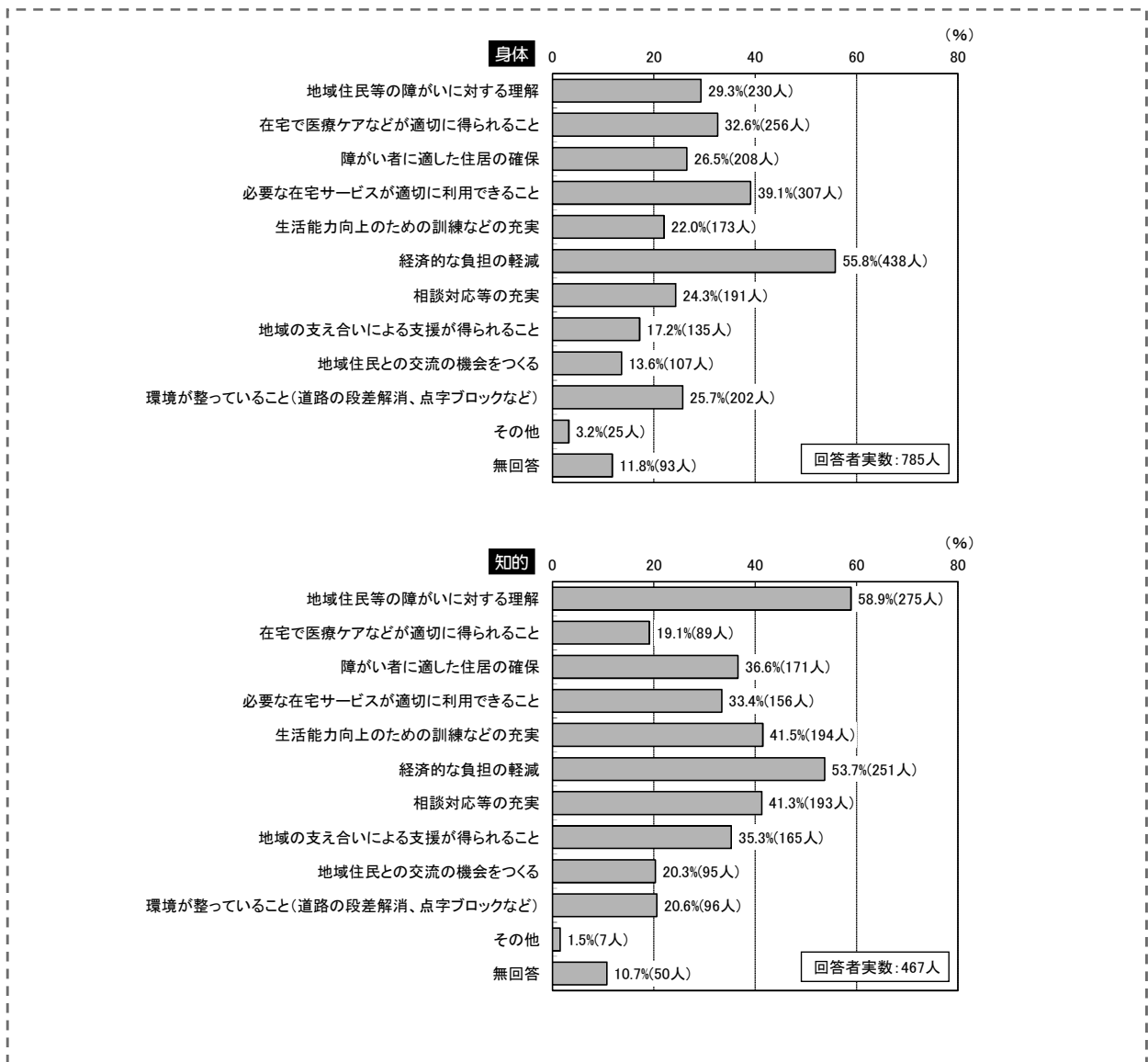
精神	10歳未満	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上
回答者実数	0人	0人	4人	8人	24人	28人	22人	1人	0人
自宅で家族と暮らしたい	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	25.0% (2人)	50.0% (12人)	39.3% (11人)	27.3% (6人)	100.0% (1人)	0.0% (0人)
一人で自立して暮らしたい	0.0% (0人)	0.0% (0人)	75.0% (3人)	50.0% (4人)	29.2% (7人)	39.3% (11人)	27.3% (6人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
民間住宅などで仲間や友人と暮らしたい	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	4.5% (1人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
グループホームで仲間と暮らしたい	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	12.5% (1人)	0.0% (0人)	7.1% (2人)	9.1% (2人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
施設に入所したい	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	7.1% (2人)	18.2% (4人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
その他	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	12.5% (3人)	7.1% (2人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
わからない	0.0% (0人)	0.0% (0人)	25.0% (1人)	0.0% (0人)	8.3% (2人)	0.0% (0人)	9.1% (2人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
無回答	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	12.5% (1人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	4.5% (1人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)

13. 地域で生活するために必要な支援

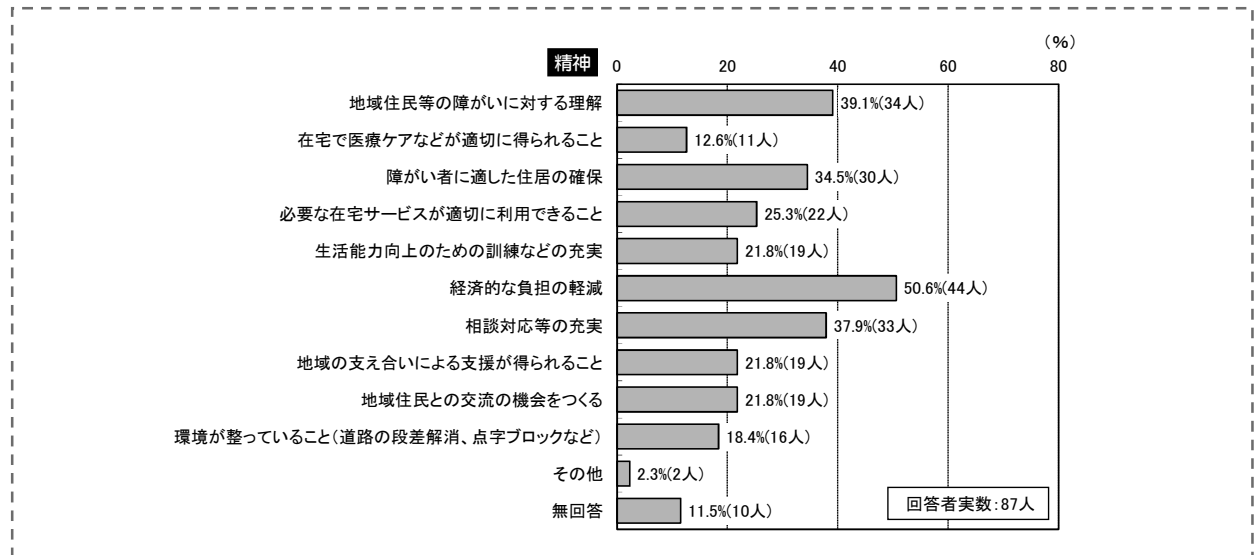
地域で生活するために必要な支援について尋ねたところ、身体障がい者では「経済的な負担の軽減」が55.8% (438人)で最も高く、「必要な在宅サービスが適切に利用できること」の39.1% (307人)、「在宅で医療ケアなどが適切に得られること」の32.6% (256人)が3割台で比較的高いです。

知的障がい者では、「住民の障がいに対する理解」が58.9% (275人)で最も高いほか、「経済的な負担の軽減」が53.7% (251人)で、これら2つが特に高くなっています。このほか、「生活能力向上のための訓練などの充実」、「相談対応等の充実」が4割余り、「障がい者に適した住宅の確保」、「地域の支え合いによる支援が得られること」、「必要な在宅サービスが適切に利用できること」が3割半ばであり、比較的高いです。

地域で生活するために必要な支援



精神障がい者では、「経済的な負担の軽減」が50.6% (44人)で最も高く、次に「地域住民等の障がいに対する理解」が39.1% (34人)となっています。そのほか、「相談対応等の充実」が37.9% (33人)、「障がい者に適した住居の確保」が34.5% (30人)、「必要な在宅サービスが適切に利用できること」が25.3% (22人)と続きます。



性別に見ると、身体障がい者は男女とも「経済的な負担の軽減」がそれぞれ50%台と高く、次に「必要な在宅サービスが適切に利用できること」となっています。

また、精神障がい者も男女とも「経済的な負担の軽減」の割合が最も高く、次に男性では「地域住民等の障がいに対する理解」(42.6%/20人)、女性では「相談対応等の充実」(45.0%/18人)となっています。

一方、知的障がい者は男女とも「地域住民等の障がいに対する理解」がそれぞれ約60%と最も高く、次に「経済的な負担の軽減」となっています。

地域で生活するために必要な支援（性別）

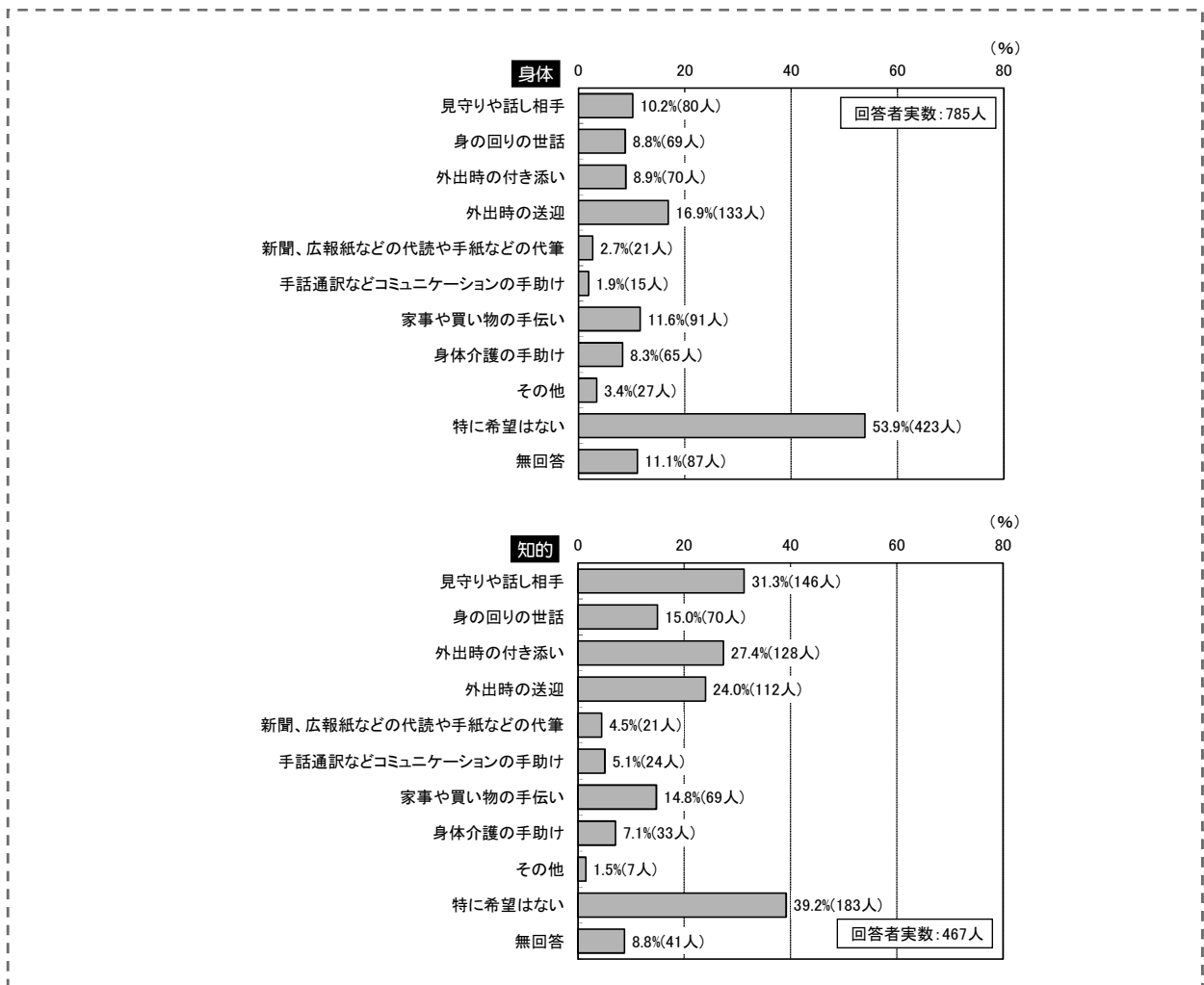
	身体		知的		精神	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性
回答者実数	463人	319人	267人	196人	47人	40人
地域住民等の障がいに対する理解	28.9% (134人)	29.5% (94人)	58.8% (157人)	59.7% (117人)	42.6% (20人)	35.0% (14人)
在宅で医療ケアなどが適切に得られること	30.7% (142人)	35.4% (113人)	17.2% (46人)	21.4% (42人)	6.4% (3人)	20.0% (8人)
障がい者に適した住居の確保	26.1% (121人)	26.6% (85人)	36.0% (96人)	38.3% (75人)	29.8% (14人)	40.0% (16人)
必要な在宅サービスが適切に利用できること	36.7% (170人)	42.6% (136人)	33.0% (88人)	34.2% (67人)	23.4% (11人)	27.5% (11人)
生活能力向上のための訓練などの充実	21.8% (101人)	21.9% (70人)	42.3% (113人)	40.8% (80人)	21.3% (10人)	22.5% (9人)
経済的な負担の軽減	56.4% (261人)	54.9% (175人)	56.9% (152人)	50.5% (99人)	46.8% (22人)	55.0% (22人)
相談対応等の充実	24.0% (111人)	24.8% (79人)	41.6% (111人)	41.8% (82人)	31.9% (15人)	45.0% (18人)
地域の支え合いによる支援が得られること	17.3% (80人)	16.9% (54人)	33.3% (89人)	38.8% (76人)	12.8% (6人)	32.5% (13人)
地域住民との交流の機会をつくる	13.6% (63人)	13.5% (43人)	21.0% (56人)	19.9% (39人)	19.1% (9人)	25.0% (10人)
環境が整っていること（道路の段差解消、点字ブロックなど）	21.6% (100人)	31.7% (101人)	17.6% (47人)	25.0% (49人)	14.9% (7人)	22.5% (9人)
その他	3.0% (14人)	3.4% (11人)	1.5% (4人)	1.5% (3人)	4.3% (2人)	0.0% (0人)
無回答	13.0% (60人)	10.0% (32人)	9.7% (26人)	11.7% (23人)	12.8% (6人)	10.0% (4人)

14. ボランティアに手助けを頼みたいこと

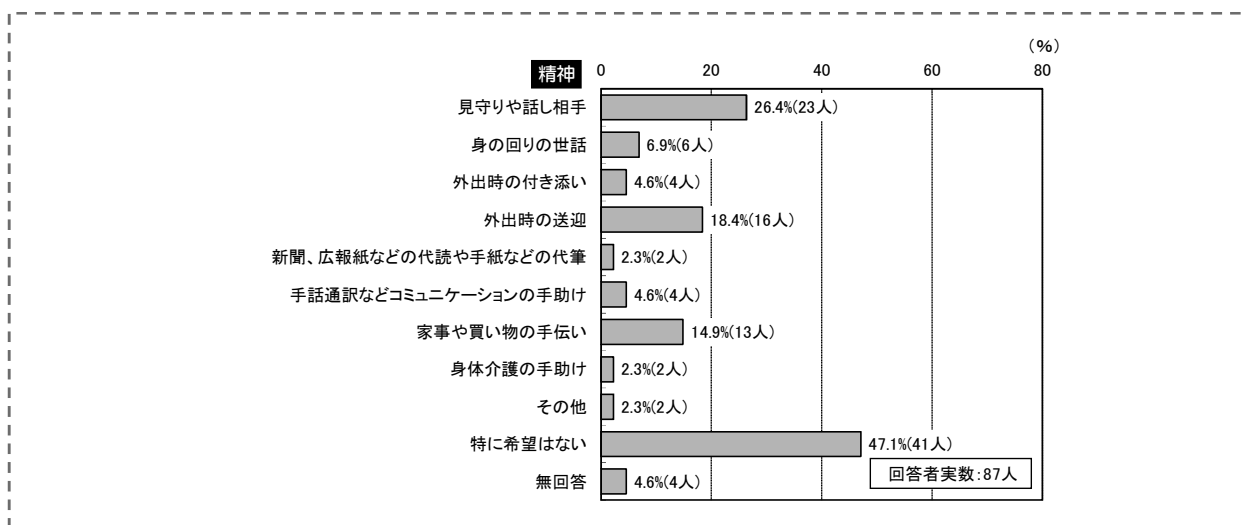
ボランティアに何か手助けを頼みたいことについて尋ねたところ、3障がいとも「特に希望はない」という回答が最も高い割合となっています。一方、頼みたいこととして回答があった中では、身体障がい者は「外出時の送迎」が16.9% (133人)が最も高く、次に「家事や買い物の手伝い」が11.6% (91人)となっています。

知的障がい者では、「見守りや話し相手」が31.3% (146人)と最も高く、次に「外出時の付き添い」が27.4% (128人)、「外出時の送迎」が24.0% (112人)となっています。

ボランティアに手助けを頼みたいこと



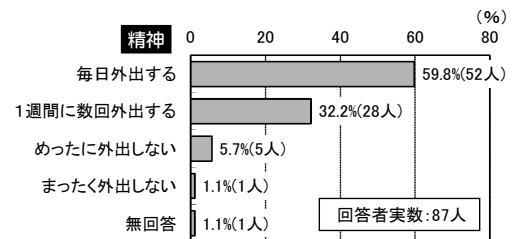
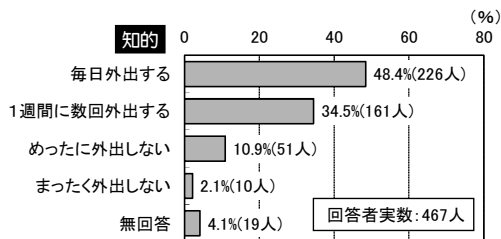
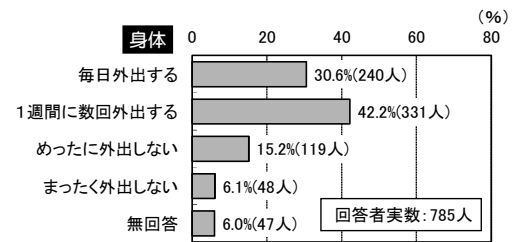
精神障がい者では、「見守りや話し相手」が26.4%(23人)と最も高く、次いで「外出時の送迎」が18.4%(16人)、「家事や買い物の手伝い」が14.9%となっています。



15. 外出頻度

身体障がい者の約7割、知的障がい者の約8割、精神障がい者の約9割で外出頻度が高くなっています。「毎日外出する」という回答は、身体障がい者が30.6% (240人) で3割、知的障がい者が48.4% (226人) で約5割、精神障がい者が59.8% (52人) で約6割となっています。

外出頻度



性別に見ると、3障がいとも男性は「毎日外出する」と答えた方が最も高い割合となっています。また、知的障がい者と精神障がい者の女性も「毎日外出する」と答えた方が最も高い割合となっています。一方、身体障がい者の女性は「1週間に数回外出する」が半数以上を占めており、「毎日外出する」と答えた方は2割弱となっています。

外出頻度 (性別)

	身体		知的		精神	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性
回答者実数	463人	319人	267人	196人	47人	40人
毎日外出する	38.0% (176人)	19.7% (63人)	51.7% (138人)	43.9% (86人)	70.2% (33人)	47.5% (19人)
1週間に数回外出する	36.3% (168人)	50.8% (162人)	33.7% (90人)	35.2% (69人)	25.5% (12人)	40.0% (16人)
めったに外出しない	13.8% (64人)	17.2% (55人)	9.7% (26人)	12.8% (25人)	2.1% (1人)	10.0% (4人)
まったく外出しない	5.4% (25人)	7.2% (23人)	1.9% (5人)	2.6% (5人)	2.1% (1人)	0.0% (0人)
無回答	6.5% (30人)	5.0% (16人)	3.0% (8人)	5.6% (11人)	0.0% (0人)	2.5% (1人)

年代別にみると、身体障がい者では10歳未満から40代まで「毎日外出する」が最も高く、各年代半数以上を占めています。なお、50代からは各年代「1週間に数回外出する」が最も高い割合となっています。

外出頻度（年代別）

身体	10歳未満	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上
回答者実数	4人	9人	10人	10人	41人	90人	203人	213人	194人
毎日外出する	50.0% (2人)	66.7% (6人)	50.0% (5人)	70.0% (7人)	53.7% (22人)	37.8% (34人)	36.0% (73人)	28.6% (61人)	11.9% (23人)
1週間に数回外出する	25.0% (1人)	33.3% (3人)	40.0% (4人)	20.0% (2人)	26.8% (11人)	41.1% (37人)	43.3% (88人)	39.9% (85人)	50.5% (98人)
めったに外出しない	25.0% (1人)	0.0% (0人)	10.0% (1人)	10.0% (1人)	14.6% (6人)	10.0% (9人)	13.8% (28人)	15.0% (32人)	21.1% (41人)
まったく外出しない	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	2.4% (1人)	5.6% (5人)	2.0% (4人)	8.0% (17人)	10.8% (21人)
無回答	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	2.4% (1人)	5.6% (5人)	4.9% (10人)	8.5% (18人)	5.7% (11人)

知的障がい者では、10歳未満から30代まで「毎日外出する」が最も高く、概ね5割前後を占めています。また、50代も「毎日外出する」が38.5%(15人)と最も高くなります。なお、40代と60代は「1週間に数回外出する」が4割前後と最も高くなっています。

知的	10歳未満	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上
回答者実数	40人	117人	87人	94人	54人	39人	24人	4人	2人
毎日外出する	75.0% (30人)	54.7% (64人)	47.1% (41人)	50.0% (47人)	31.5% (17人)	38.5% (15人)	20.8% (5人)	25.0% (1人)	100.0% (2人)
1週間に数回外出する	22.5% (9人)	35.0% (41人)	37.9% (33人)	34.0% (32人)	48.1% (26人)	23.1% (9人)	37.5% (9人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
めったに外出しない	2.5% (1人)	3.4% (4人)	9.2% (8人)	12.8% (12人)	18.5% (10人)	23.1% (9人)	29.2% (7人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
まったく外出しない	0.0% (0人)	0.9% (1人)	1.1% (1人)	1.1% (1人)	1.9% (1人)	7.7% (3人)	8.3% (2人)	25.0% (1人)	0.0% (0人)
無回答	0.0% (0人)	6.0% (7人)	4.6% (4人)	2.1% (2人)	0.0% (0人)	7.7% (3人)	4.2% (1人)	50.0% (2人)	0.0% (0人)

精神障がい者では、30代から60代まで「毎日外出する」が最も高く、各年代において6割前後を占めています。

精神	10歳未満	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上
回答者実数	0人	0人	4人	8人	24人	28人	22人	1人	0人
毎日外出する	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	62.5% (5人)	62.5% (15人)	64.3% (18人)	59.1% (13人)	100.0% (1人)	0.0% (0人)
1週間に数回外出する	0.0% (0人)	0.0% (0人)	100.0% (4人)	12.5% (1人)	29.2% (7人)	35.7% (10人)	27.3% (6人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
めったに外出しない	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	12.5% (1人)	8.3% (2人)	0.0% (0人)	9.1% (2人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
まったく外出しない	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	12.5% (1人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
無回答	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	4.5% (1人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)

身体障がいの部位別に見ると、「毎日外出する」と回答した割合が最も高いのは肢体不自由(下肢)のみとなっています。そのほかの部位については、いずれも「1週間に数回外出する」と回答した割合が最も高くなっています。

外出頻度（身体障がいの部位別）

身体	視覚障がい	聴覚障がい	音声・言語・ そしゃく機能 障がい	肢体不自由 (上肢)	肢体不自由 (下肢)	肢体不自由 (体幹)	内部障がい (1～6以外)
回答者実数	35人	83人	12人	40人	96人	60人	302人
毎日外出する	37.1% (13人)	37.3% (31人)	16.7% (2人)	35.0% (14人)	36.5% (35人)	20.0% (12人)	34.1% (103人)
1週間に数回外出する	48.6% (17人)	39.8% (33人)	41.7% (5人)	40.0% (16人)	35.4% (34人)	33.3% (20人)	44.7% (135人)
めったに外出しない	5.7% (2人)	14.5% (12人)	25.0% (3人)	12.5% (5人)	20.8% (20人)	16.7% (10人)	14.9% (45人)
まったく外出しない	5.7% (2人)	4.8% (4人)	8.3% (1人)	7.5% (3人)	5.2% (5人)	23.3% (14人)	2.3% (7人)
無回答	2.9% (1人)	3.6% (3人)	8.3% (1人)	5.0% (2人)	2.1% (2人)	6.7% (4人)	4.0% (12人)

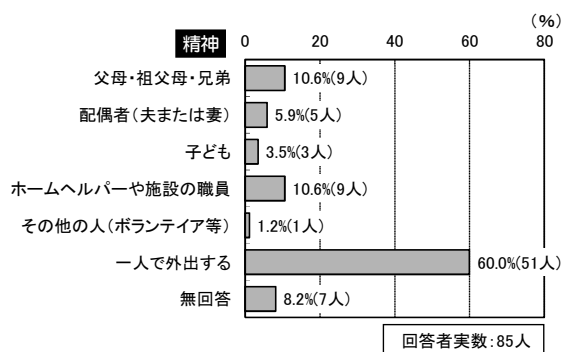
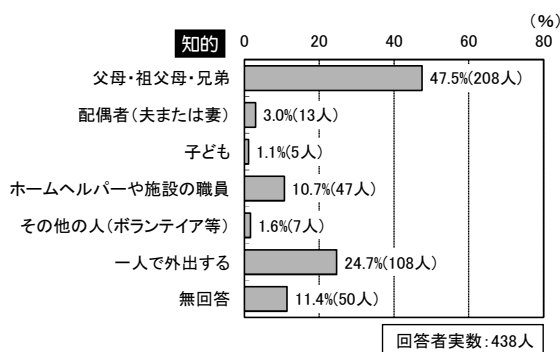
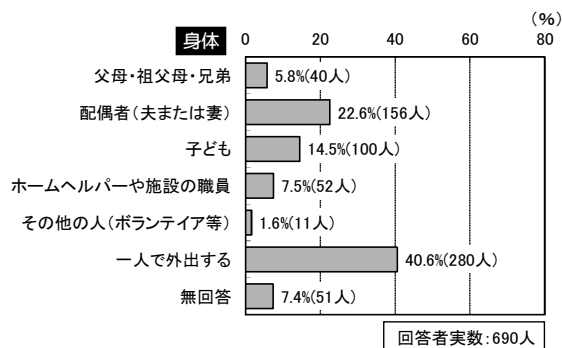
16. 外出時の同伴者

外出すると回答した人に対し、外出する際の主な同伴者について尋ねました。

身体障がい者と精神障がい者では「一人で外出する」という回答が最も高く、身体障がい者が40.6%(280人)で約4割、精神障がい者が60.0%(51人)で6割を占めています。

また、知的障がい者では「父母・祖父母・兄弟」が47.5%(208人)で5割近くを占めており、「一人で外出する」は24.7%(108人)で2割半ばとなっています。

外出時の同伴者



性別に見ると、身体障がい者、精神障がい者は男女とも「一人で外出する」の割合が最も高く、特に、精神障がい者は男女とも半数以上を占めています。一方、知的障がい者は男女とも「父母・祖父母・兄弟」の割合が最も高く、男性が44.1%(112人)、女性が52.2%(94人)となっています。

外出時の同伴者 (性別)

	身体		知的		精神	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性
回答者実数	408人	280人	254人	180人	46人	39人
父母・祖父母・兄弟	6.4% (26人)	5.0% (14人)	44.1% (112人)	52.2% (94人)	8.7% (4人)	12.8% (5人)
配偶者(夫または妻)	26.2% (107人)	17.5% (49人)	1.6% (4人)	5.0% (9人)	6.5% (3人)	5.1% (2人)
子ども	6.4% (26人)	26.4% (74人)	0.8% (2人)	1.7% (3人)	0.0% (0人)	7.7% (3人)
ホームヘルパーや施設の職員	6.6% (27人)	8.6% (24人)	11.0% (28人)	10.6% (19人)	6.5% (3人)	15.4% (6人)
その他の人(ボランティア等)	1.5% (6人)	1.8% (5人)	1.2% (3人)	2.2% (4人)	2.2% (1人)	0.0% (0人)
一人で外出する	46.6% (190人)	32.1% (90人)	29.1% (74人)	17.8% (32人)	67.4% (31人)	51.3% (20人)
無回答	6.4% (26人)	8.6% (24人)	12.2% (31人)	10.6% (19人)	8.7% (4人)	7.7% (3人)

年代別にみると、身体障がい者では10歳未満、10代は「父母・祖父母・兄弟」の割合が大半を占めており、20代から70代にかけて「一人で外出する」が最も高く、各年代4割以上を占めています。

なお、80代以上では「子ども」が32.7% (53人)と最も高くなります。

外出時の同伴者（年代別）

身体	10歳未満	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上
回答者実数	4人	9人	10人	10人	39人	80人	189人	178人	162人
父母・祖父母・兄弟	100.0% (4人)	66.7% (6人)	30.0% (3人)	10.0% (1人)	20.5% (8人)	8.8% (7人)	3.7% (7人)	1.7% (3人)	0.0% (0人)
配偶者 (夫または妻)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	20.0% (2人)	7.7% (3人)	23.8% (19人)	28.0% (53人)	27.5% (49人)	18.5% (30人)
子ども	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	20.0% (2人)	7.7% (3人)	1.3% (1人)	9.5% (18人)	12.9% (23人)	32.7% (53人)
ホームヘルパー や施設の職員	0.0% (0人)	0.0% (0人)	10.0% (1人)	0.0% (0人)	2.6% (1人)	7.5% (6人)	5.3% (10人)	7.9% (14人)	11.7% (19人)
その他の人 (ボランティア等)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	2.5% (2人)	2.1% (4人)	1.1% (2人)	1.9% (3人)
一人で外出する	0.0% (0人)	33.3% (3人)	40.0% (4人)	50.0% (5人)	53.8% (21人)	53.8% (43人)	44.4% (84人)	43.3% (77人)	22.8% (37人)
無回答	0.0% (0人)	0.0% (0人)	20.0% (2人)	0.0% (0人)	7.7% (3人)	2.5% (2人)	6.9% (13人)	5.6% (10人)	12.3% (20人)

知的障がい者では、50代のみ「ホームヘルパーや施設の職員」の割合が30.3% (10人)と最も高く、次いで「父母・祖父母・兄弟」と「一人で外出する」がともに24.2% (8人)となっています。

そのほかの年代においては「父母・祖父母・兄弟」の割合が最も高く、次いで「一人で外出する」となっています。

知的	10歳未満	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上
回答者実数	40人	109人	82人	91人	53人	33人	21人	1人	2人
父母・祖父母・兄弟	82.5% (33人)	57.8% (63人)	34.1% (28人)	44.0% (40人)	41.5% (22人)	24.2% (8人)	42.9% (9人)	0.0% (0人)	100.0% (2人)
配偶者 (夫または妻)	2.5% (1人)	2.8% (3人)	0.0% (0人)	2.2% (2人)	9.4% (5人)	6.1% (2人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
子ども	0.0% (0人)	0.9% (1人)	0.0% (0人)	1.1% (1人)	3.8% (2人)	3.0% (1人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
ホームヘルパー や施設の職員	2.5% (1人)	6.4% (7人)	14.6% (12人)	6.6% (6人)	11.3% (6人)	30.3% (10人)	19.0% (4人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
その他の人 (ボランティア等)	0.0% (0人)	0.9% (1人)	3.7% (3人)	2.2% (2人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
一人で外出する	0.0% (0人)	16.5% (18人)	32.9% (27人)	33.0% (30人)	30.2% (16人)	24.2% (8人)	33.3% (7人)	100.0% (1人)	0.0% (0人)
無回答	12.5% (5人)	14.7% (16人)	14.6% (12人)	11.0% (10人)	3.8% (2人)	12.1% (4人)	4.8% (1人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)

精神障がい者では、30代から60代まで「一人で外出する」の割合が最も高くなっています。

精神	10歳未満	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上
回答者実数	0人	0人	4人	7人	24人	28人	21人	1人	0人
父母・祖父母・兄弟	0.0% (0人)	0.0% (0人)	50.0% (2人)	0.0% (0人)	12.5% (3人)	3.6% (1人)	14.3% (3人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
配偶者 (夫または妻)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	14.3% (1人)	4.2% (1人)	7.1% (2人)	4.8% (1人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
子ども	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	4.2% (1人)	3.6% (1人)	4.8% (1人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
ホームヘルパー や施設の職員	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	14.3% (1人)	8.3% (2人)	10.7% (3人)	14.3% (3人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
その他の人 (ボランティア等)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	14.3% (1人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
一人で外出する	0.0% (0人)	0.0% (0人)	50.0% (2人)	42.9% (3人)	58.3% (14人)	71.4% (20人)	52.4% (11人)	100.0% (1人)	0.0% (0人)
無回答	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	14.3% (1人)	12.5% (3人)	3.6% (1人)	9.5% (2人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)

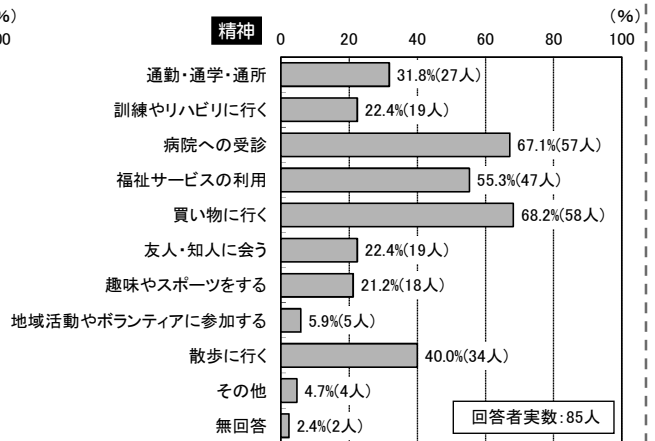
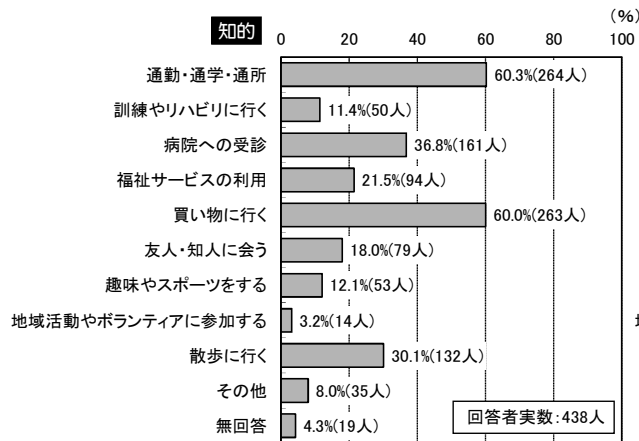
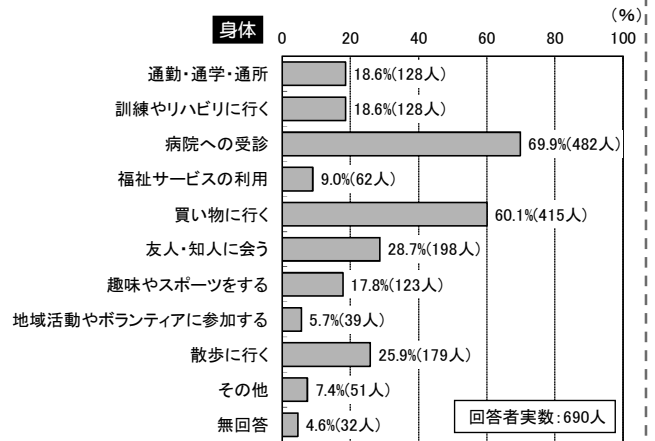
17. 外出の目的

外出すると回答した人に対し、外出の目的を尋ねました。

身体障がい者、精神障がい者では「病院への受診」と「買い物に行く」がそれぞれ60%以上で、これら2つが特に高くなっています。また、精神障がい者においては「福祉サービスの利用」も55.3%(47人)と高い割合となっています。

知的障がい者では「通勤・通学・通所」が60.3%(264人)、「買い物に行く」が60.0%(263人)であり、これら2つが特に高くなっています。

外出の目的



年代別に見ると、身体障がい者では10代から30代は「通勤・通学・通所」の割合が高くなっています。また、30代においては「買い物に行く」の割合も高く、40代、50代を含めて、それぞれ60%以上の割合となっています。なお、60代以上では各年代「病院への受診」の割合が70%を超えています。

外出の目的（年代別）

身体	10歳未満	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上
回答者実数	4人	9人	10人	10人	39人	80人	189人	178人	162人
通勤・通学・通所	50.0% (2人)	100.0% (9人)	50.0% (5人)	70.0% (7人)	48.7% (19人)	30.0% (24人)	19.0% (36人)	7.9% (14人)	6.8% (11人)
訓練やリハビリに行く	0.0% (0人)	33.3% (3人)	20.0% (2人)	0.0% (0人)	15.4% (6人)	15.0% (12人)	16.9% (32人)	22.5% (40人)	19.1% (31人)
病院への受診	75.0% (3人)	33.3% (3人)	30.0% (3人)	40.0% (4人)	48.7% (19人)	66.3% (53人)	72.5% (137人)	72.5% (129人)	77.8% (126人)
福祉サービスの利用	0.0% (0人)	0.0% (0人)	20.0% (2人)	0.0% (0人)	5.1% (2人)	2.5% (2人)	5.8% (11人)	7.9% (14人)	17.9% (29人)
買い物に行く	100.0% (4人)	44.4% (4人)	40.0% (4人)	70.0% (7人)	64.1% (25人)	70.0% (56人)	59.3% (112人)	64.6% (115人)	52.5% (85人)
友人・知人に会う	0.0% (0人)	22.2% (2人)	40.0% (4人)	20.0% (2人)	28.2% (11人)	31.3% (25人)	31.7% (60人)	30.9% (55人)	23.5% (38人)
趣味やスポーツをする	0.0% (0人)	0.0% (0人)	40.0% (4人)	20.0% (2人)	15.4% (6人)	23.8% (19人)	14.8% (28人)	22.5% (40人)	12.3% (20人)
地域活動やボランティアに参加する	0.0% (0人)	0.0% (0人)	10.0% (1人)	0.0% (0人)	2.6% (1人)	2.5% (2人)	5.3% (10人)	10.1% (18人)	4.3% (7人)
散歩に行く	25.0% (1人)	11.1% (1人)	20.0% (2人)	20.0% (2人)	15.4% (6人)	27.5% (22人)	28.0% (53人)	28.7% (51人)	22.8% (37人)
その他	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	2.6% (1人)	5.0% (4人)	6.9% (13人)	9.0% (16人)	10.5% (17人)
無回答	0.0% (0人)	0.0% (0人)	20.0% (2人)	10.0% (1人)	5.1% (2人)	6.3% (5人)	5.3% (10人)	2.8% (5人)	3.1% (5人)

知的障がい者では、10歳未満から20代までは「通勤・通学・通所」の割合が最も高く、30代から50代では「買い物に行く」の割合が最も高くなっています。なお、60代では「病院への受診」が52.4%（11人）で最も高くなっています。

知的	10歳未満	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上
回答者実数	40人	109人	82人	91人	53人	33人	21人	1人	2人
通勤・通学・通所	90.0% (36人)	83.5% (91人)	67.1% (55人)	47.3% (43人)	37.7% (20人)	36.4% (12人)	14.3% (3人)	0.0% (0人)	100.0% (2人)
訓練やリハビリに行く	40.0% (16人)	14.7% (16人)	12.2% (10人)	2.2% (2人)	1.9% (1人)	12.1% (4人)	4.8% (1人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
病院への受診	55.0% (22人)	28.4% (31人)	35.4% (29人)	38.5% (35人)	39.6% (21人)	36.4% (12人)	52.4% (11人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
福祉サービスの利用	25.0% (10人)	26.6% (29人)	23.2% (19人)	16.5% (15人)	22.6% (12人)	18.2% (6人)	14.3% (3人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
買い物に行く	72.5% (29人)	49.5% (54人)	62.2% (51人)	62.6% (57人)	75.5% (40人)	57.6% (19人)	47.6% (10人)	0.0% (0人)	50.0% (1人)
友人・知人に会う	10.0% (4人)	20.2% (22人)	26.8% (22人)	13.2% (12人)	17.0% (9人)	18.2% (6人)	14.3% (3人)	100.0% (1人)	0.0% (0人)
趣味やスポーツをする	5.0% (2人)	17.4% (19人)	11.0% (9人)	14.3% (13人)	11.3% (6人)	6.1% (2人)	4.8% (1人)	0.0% (0人)	50.0% (1人)
地域活動やボランティアに参加する	0.0% (0人)	1.8% (2人)	3.7% (3人)	4.4% (4人)	5.7% (3人)	6.1% (2人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
散歩に行く	45.0% (18人)	28.4% (31人)	29.3% (24人)	28.6% (26人)	37.7% (20人)	18.2% (6人)	28.6% (6人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
その他	7.5% (3人)	8.3% (9人)	3.7% (3人)	8.8% (8人)	11.3% (6人)	9.1% (3人)	14.3% (3人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
無回答	0.0% (0人)	2.8% (3人)	4.9% (4人)	6.6% (6人)	1.9% (1人)	6.1% (2人)	9.5% (2人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)

精神障がい者では、「病院への受診」と「買い物に行く」の割合が各年代において比較的高い割合となっています。

精神	10歳未満	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上
回答者実数	0人	0人	4人	7人	24人	28人	21人	1人	0人
通勤・通学・通所	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	71.4% (5人)	12.5% (3人)	42.9% (12人)	33.3% (7人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
訓練やリハビリに行く	0.0% (0人)	0.0% (0人)	50.0% (2人)	14.3% (1人)	20.8% (5人)	21.4% (6人)	23.8% (5人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
病院への受診	0.0% (0人)	0.0% (0人)	100.0% (4人)	42.9% (3人)	75.0% (18人)	60.7% (17人)	66.7% (14人)	100.0% (1人)	0.0% (0人)
福祉サービスの利用	0.0% (0人)	0.0% (0人)	50.0% (2人)	42.9% (3人)	58.3% (14人)	46.4% (13人)	66.7% (14人)	100.0% (1人)	0.0% (0人)
買い物に行く	0.0% (0人)	0.0% (0人)	75.0% (3人)	71.4% (5人)	83.3% (20人)	64.3% (18人)	52.4% (11人)	100.0% (1人)	0.0% (0人)
友人・知人に会う	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	57.1% (4人)	25.0% (6人)	21.4% (6人)	9.5% (2人)	100.0% (1人)	0.0% (0人)
趣味やスポーツをする	0.0% (0人)	0.0% (0人)	25.0% (1人)	42.9% (3人)	25.0% (6人)	14.3% (4人)	14.3% (3人)	100.0% (1人)	0.0% (0人)
地域活動やボランティアに参加する	0.0% (0人)	0.0% (0人)	25.0% (1人)	0.0% (0人)	4.2% (1人)	10.7% (3人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
散歩に行く	0.0% (0人)	0.0% (0人)	25.0% (1人)	42.9% (3人)	45.8% (11人)	32.1% (9人)	42.9% (9人)	100.0% (1人)	0.0% (0人)
その他	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	12.5% (3人)	3.6% (1人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
無回答	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	4.2% (1人)	3.6% (1人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)

暮らしの状況別に見ると、身体障がい者ではどの暮らし方でも「病院への受診」の割合が高く、次いでグループホームで暮らしている人以外では「買い物に行く」の割合が高くなっています。

外出の目的（暮らしの状況別）

身体	一人で暮らしている	家族と暮らしている	グループホームで暮らしている	病院に入院している	その他
回答者実数	127人	514人	9人	4人	25人
通勤・通学・通所	11.8% (15人)	21.0% (108人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	16.0% (4人)
訓練やリハビリに行く	22.0% (28人)	17.3% (89人)	33.3% (3人)	25.0% (1人)	24.0% (6人)
病院への受診	73.2% (93人)	70.4% (362人)	66.7% (6人)	75.0% (3人)	52.0% (13人)
福祉サービスの利用	11.8% (15人)	7.8% (40人)	33.3% (3人)	25.0% (1人)	8.0% (2人)
買い物に行く	67.7% (86人)	60.5% (311人)	0.0% (0人)	75.0% (3人)	40.0% (10人)
友人・知人に会う	30.7% (39人)	29.2% (150人)	0.0% (0人)	25.0% (1人)	24.0% (6人)
趣味やスポーツをする	18.9% (24人)	18.3% (94人)	0.0% (0人)	25.0% (1人)	12.0% (3人)
地域活動やボランティアに参加する	4.7% (6人)	6.2% (32人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
散歩に行く	26.8% (34人)	26.1% (134人)	22.2% (2人)	25.0% (1人)	24.0% (6人)
その他	7.9% (10人)	6.6% (34人)	11.1% (1人)	0.0% (0人)	20.0% (5人)
無回答	3.1% (4人)	4.9% (25人)	11.1% (1人)	0.0% (0人)	4.0% (1人)

知的障がい者では、病院に入院している方以外「買い物に行く」の割合が高く、中でもグループホームで暮らしている人は7割を超える割合となっています。また、家族と暮らしている人、グループホームで暮らしている人は、「通勤・通学・通所」の割合が4割～6割程度、一人で暮らしている人は「病院への受診」の割合が5割程度となっています。

知的	一人で暮らしている	家族と暮らしている	グループホームで暮らしている	病院に入院している	その他
回答者実数	16人	394人	15人	3人	8人
通勤・通学・通所	18.8% (3人)	64.5% (254人)	40.0% (6人)	0.0% (0人)	12.5% (1人)
訓練やリハビリに行く	6.3% (1人)	11.7% (46人)	13.3% (2人)	0.0% (0人)	12.5% (1人)
病院への受診	56.3% (9人)	36.3% (143人)	26.7% (4人)	33.3% (1人)	50.0% (4人)
福祉サービスの利用	18.8% (3人)	21.6% (85人)	26.7% (4人)	0.0% (0人)	25.0% (2人)
買い物に行く	68.8% (11人)	60.2% (237人)	73.3% (11人)	33.3% (1人)	37.5% (3人)
友人・知人に会う	25.0% (4人)	18.3% (72人)	13.3% (2人)	0.0% (0人)	12.5% (1人)
趣味やスポーツをする	25.0% (4人)	11.9% (47人)	13.3% (2人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
地域活動やボランティアに参加する	6.3% (1人)	2.8% (11人)	13.3% (2人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
散歩に行く	37.5% (6人)	29.4% (116人)	26.7% (4人)	66.7% (2人)	50.0% (4人)
その他	25.0% (4人)	6.9% (27人)	0.0% (0人)	66.7% (2人)	12.5% (1人)
無回答	18.8% (3人)	3.6% (14人)	6.7% (1人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)

精神障がい者では、どの暮らし方でも「病院への受診」、「福祉サービスの利用」、「買い物に行く」が比較的高い割合となっています。

精神	一人で暮らしている	家族と暮らしている	グループホームで暮らしている	病院に入院している	その他
回答者実数	26人	52人	4人	0人	3人
通勤・通学・通所	26.9% (7人)	38.5% (20人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
訓練やリハビリに行く	26.9% (7人)	21.2% (11人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	33.3% (1人)
病院への受診	57.7% (15人)	73.1% (38人)	50.0% (2人)	0.0% (0人)	66.7% (2人)
福祉サービスの利用	61.5% (16人)	53.8% (28人)	50.0% (2人)	0.0% (0人)	33.3% (1人)
買い物に行く	57.7% (15人)	75.0% (39人)	25.0% (1人)	0.0% (0人)	100.0% (3人)
友人・知人に会う	11.5% (3人)	30.8% (16人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
趣味やスポーツをする	11.5% (3人)	28.8% (15人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
地域活動やボランティアに参加する	7.7% (2人)	5.8% (3人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
散歩に行く	30.8% (8人)	50.0% (26人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
その他	3.8% (1人)	5.8% (3人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
無回答	0.0% (0人)	1.9% (1人)	25.0% (1人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)

18. 外出時に困ること

身体障がい者では「障がい者用の駐車スペースへの不満(少ない、健常者が止めている)」の20.4% (141人)や「道路に階段や段差が多い」の20.3%(140人)が2割で最も高いほか、「外出先の建物の設備が不便(通路、トイレ、エレベーターなど)」16.4%(113人)といったバリアフリーに関する困り事があげられています。

知的障がい者では「困った時にどうすればいいのか心配」が32.4%(142人)で最も高いほか、「周囲の目が気になる」の19.4%(85人)、「公共交通機関が少ない(ない)」の18.7%(82人)が比較的高いです。

精神障がい者では「外出にお金がかかる」が41.2%(35人)と最も高く、次いで「公共交通機関が少ない(ない)」が30.6%(26人)となっています。

外出時に困ること

	身体 (690人)	知的 (438人)	精神 (85人)
公共交通機関が少ない(ない)	14.5% (100人)	18.7% (82人)	30.6% (26人)
バスの乗り降りが困難	13.6% (94人)	10.7% (47人)	15.3% (13人)
障がい者用の駐車スペースへの不満(少ない、健常者が止めている)	20.4% (141人)	9.1% (40人)	1.2% (1人)
道路に階段や段差が多い	20.3% (140人)	11.0% (48人)	11.8% (10人)
外出先の建物の設備が不便(通路、トイレ、エレベーターなど)	16.4% (113人)	9.6% (42人)	8.2% (7人)
介助者が確保できない	3.8% (26人)	5.5% (24人)	5.9% (5人)
外出にお金がかかる	18.1% (125人)	16.7% (73人)	41.2% (35人)
周囲の目が気になる	6.4% (44人)	19.4% (85人)	21.2% (18人)
発作など突然の身体の変化が心配	19.4% (134人)	13.9% (61人)	16.5% (14人)
困った時にどうすればいいのか心配	15.7% (108人)	32.4% (142人)	22.4% (19人)
その他	7.8% (54人)	6.2% (27人)	12.9% (11人)
無回答	25.4% (175人)	23.3% (102人)	21.2% (18人)

年代別にみると、身体障がい者の50代、60代では「障がい者用の駐車スペースへの不満(少ない、健常者が止めている)」の割合が比較的高く、また70代、80代以上では「道路に階段や段差が多い」が比較的高い割合となっています。

外出時に困ること（年代別）

身体	10歳未満	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上
回答者実数	4人	9人	10人	10人	39人	80人	189人	178人	162人
公共交通機関が少ない(ない)	0.0% (0人)	11.1% (1人)	20.0% (2人)	10.0% (1人)	15.4% (6人)	12.5% (10人)	14.8% (28人)	12.9% (23人)	15.4% (25人)
バスの乗り降りが困難	0.0% (0人)	22.2% (2人)	20.0% (2人)	10.0% (1人)	12.8% (5人)	8.8% (7人)	10.1% (19人)	13.5% (24人)	20.4% (33人)
障がい者用の駐車スペースへの不満(少ない、健常者が止めている)	25.0% (1人)	22.2% (2人)	30.0% (3人)	30.0% (3人)	23.1% (9人)	33.8% (27人)	20.6% (39人)	15.2% (27人)	17.3% (28人)
道路に階段や段差が多い	0.0% (0人)	44.4% (4人)	20.0% (2人)	0.0% (0人)	17.9% (7人)	25.0% (20人)	16.4% (31人)	19.1% (34人)	25.3% (41人)
外出先の建物の設備が不便(通路、トイレ、エレベーターなど)	50.0% (2人)	22.2% (2人)	30.0% (3人)	0.0% (0人)	12.8% (5人)	20.0% (16人)	13.2% (25人)	17.4% (31人)	17.3% (28人)
介助者が確保できない	0.0% (0人)	11.1% (1人)	10.0% (1人)	10.0% (1人)	0.0% (0人)	1.3% (1人)	3.2% (6人)	3.9% (7人)	5.6% (9人)
外出にお金がかかる	50.0% (2人)	0.0% (0人)	10.0% (1人)	10.0% (1人)	28.2% (11人)	22.5% (18人)	15.9% (30人)	17.4% (31人)	18.5% (30人)
周囲の目が気になる	0.0% (0人)	22.2% (2人)	10.0% (1人)	20.0% (2人)	7.7% (3人)	11.3% (9人)	6.9% (13人)	3.4% (6人)	4.9% (8人)
発作など突然の身体の変化が心配	75.0% (3人)	0.0% (0人)	10.0% (1人)	30.0% (3人)	30.8% (12人)	16.3% (13人)	17.5% (33人)	17.4% (31人)	22.2% (36人)
困った時にどうすればいいのかが心配	25.0% (1人)	33.3% (3人)	30.0% (3人)	10.0% (1人)	7.7% (3人)	16.3% (13人)	13.2% (25人)	11.8% (21人)	21.6% (35人)
その他	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	2.6% (1人)	8.8% (7人)	7.4% (14人)	10.1% (18人)	8.0% (13人)
無回答	25.0% (1人)	22.2% (2人)	40.0% (4人)	30.0% (3人)	28.2% (11人)	27.5% (22人)	29.1% (55人)	24.2% (43人)	20.4% (33人)

知的障がい者では、各年代で「困った時にどうすればいいのか心配」が比較的高い割合となっています。そのほか、各年代において「公共交通機関が少ない(ない)」、「外出にお金がかかる」、「周囲の目が気になる」がそれぞれ10%～20%程度の割合となっています。

知的	10歳未満	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上
回答者実数	40人	109人	82人	91人	53人	33人	21人	1人	2人
公共交通機関が少ない(ない)	20.0% (8人)	20.2% (22人)	18.3% (15人)	14.3% (13人)	20.8% (11人)	18.2% (6人)	33.3% (7人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
バスの乗り降りが困難	7.5% (3人)	10.1% (11人)	12.2% (10人)	7.7% (7人)	5.7% (3人)	24.2% (8人)	19.0% (4人)	0.0% (0人)	50.0% (1人)
障がい者用の駐車スペースへの不満(少ない、健常者が止めている)	15.0% (6人)	14.7% (16人)	8.5% (7人)	4.4% (4人)	7.5% (4人)	6.1% (2人)	4.8% (1人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
道路に階段や段差が多い	5.0% (2人)	8.3% (9人)	13.4% (11人)	8.8% (8人)	17.0% (9人)	12.1% (4人)	19.0% (4人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
外出先の建物の設備が不便(通路、トイレ、エレベーターなど)	20.0% (8人)	8.3% (9人)	15.9% (13人)	6.6% (6人)	9.4% (5人)	3.0% (1人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
介助者が確保できない	0.0% (0人)	9.2% (10人)	6.1% (5人)	4.4% (4人)	1.9% (1人)	6.1% (2人)	9.5% (2人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
外出にお金がかかる	12.5% (5人)	14.7% (16人)	22.0% (18人)	15.4% (14人)	22.6% (12人)	12.1% (4人)	14.3% (3人)	0.0% (0人)	50.0% (1人)
周囲の目が気になる	17.5% (7人)	17.4% (19人)	24.4% (20人)	25.3% (23人)	13.2% (7人)	15.2% (5人)	14.3% (3人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
発作など突然の身体の変化が心配	12.5% (5人)	12.8% (14人)	19.5% (16人)	16.5% (15人)	15.1% (8人)	0.0% (0人)	14.3% (3人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
困った時にどうすればいいのか心配	20.0% (8人)	42.2% (46人)	34.1% (28人)	33.0% (30人)	30.2% (16人)	27.3% (9人)	19.0% (4人)	0.0% (0人)	50.0% (1人)
その他	7.5% (3人)	8.3% (9人)	8.5% (7人)	5.5% (5人)	3.8% (2人)	0.0% (0人)	4.8% (1人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
無回答	30.0% (12人)	19.3% (21人)	14.6% (12人)	23.1% (21人)	26.4% (14人)	30.3% (10人)	28.6% (6人)	100.0% (1人)	50.0% (1人)

精神障がい者では、各年代において「公共交通機関が少ない(ない)」、「外出にお金がかかる」、「発作など突然の身体の変化が心配」が比較的高い割合となっています。

精神	10歳未満	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上
回答者実数	0人	0人	4人	7人	24人	28人	21人	1人	0人
公共交通機関が少ない(ない)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	50.0% (2人)	14.3% (1人)	45.8% (11人)	25.0% (7人)	23.8% (5人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
バスの乗り降りが困難	0.0% (0人)	0.0% (0人)	25.0% (1人)	0.0% (0人)	12.5% (3人)	17.9% (5人)	19.0% (4人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
障がい者用の駐車スペースへの不満(少ない、健常者が止めている)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	4.8% (1人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
道路に階段や段差が多い	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	12.5% (3人)	10.7% (3人)	19.0% (4人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
外出先の建物の設備が不便(通路、トイレ、エレベーターなど)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	25.0% (1人)	0.0% (0人)	8.3% (2人)	3.6% (1人)	14.3% (3人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
介助者が確保できない	0.0% (0人)	0.0% (0人)	25.0% (1人)	0.0% (0人)	4.2% (1人)	3.6% (1人)	9.5% (2人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
外出にお金がかかる	0.0% (0人)	0.0% (0人)	50.0% (2人)	28.6% (2人)	50.0% (12人)	35.7% (10人)	38.1% (8人)	100.0% (1人)	0.0% (0人)
周囲の目が気になる	0.0% (0人)	0.0% (0人)	75.0% (3人)	42.9% (3人)	16.7% (4人)	17.9% (5人)	14.3% (3人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
発作など突然の身体の変化が心配	0.0% (0人)	0.0% (0人)	50.0% (4人)	14.3% (7人)	45.8% (24人)	25.0% (28人)	23.8% (21人)	0.0% (1人)	0.0% (0人)
困った時にどうすればいいのかが心配	0.0% (0人)	0.0% (0人)	25.0% (1人)	0.0% (0人)	12.5% (3人)	17.9% (5人)	19.0% (4人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
その他	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	4.8% (1人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
無回答	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	12.5% (3人)	10.7% (3人)	19.0% (4人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)

19. 日中の過ごし方

身体障がい者では「自宅で過ごしている」が圧倒的に高く、39.1%(307人)を占めています。次いで、「会社勤めや自営業、家業などで収入を得て仕事をしている」の13.5%(106人)が高いです。

知的障がい者では「障がい者の福祉サービス、就労支援事業所を利用している」が最も高く29.8%(139人)となっています。そのほか、「会社勤めや自営業、家業などで収入を得て仕事をしている」の14.1%(66人)、「自宅で過ごしている」の12.8%(60人)、「特別支援学校(小中高等部)に通っている」の12.0%(56人)が比較的高いです。

精神障がい者では「障がい者の福祉サービス、就労支援事業所を利用している」が77.0%(67人)で大半を占めています。

日中の過ごし方

	身体 (785人)	知的 (467人)	精神 (87人)
会社勤めや、自営業、家業などで収入を得て仕事をしている	13.5% (106人)	14.1% (66人)	1.1% (1人)
ボランティアなど、収入を得ない仕事をしている	1.3% (10人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
専業主婦(主夫)をしている	7.5% (59人)	1.9% (9人)	1.1% (1人)
障がい者の福祉サービス・就労支援事業所を利用している	3.2% (25人)	29.8% (139人)	77.0% (67人)
介護保険のサービスを利用している	6.2% (49人)	0.4% (2人)	0.0% (0人)
病院などのデイケアに通っている	3.7% (29人)	0.4% (2人)	1.1% (1人)
リハビリテーションを受けている	2.5% (20人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
自宅で過ごしている	39.1% (307人)	12.8% (60人)	4.6% (4人)
入所している施設や病院等で過ごしている	4.6% (36人)	1.9% (9人)	0.0% (0人)
特別支援学校(小中高等部)に通っている	0.9% (7人)	12.0% (56人)	0.0% (0人)
一般の高校、小中高校に通っている	0.6% (5人)	6.0% (28人)	0.0% (0人)
幼稚園、保育所などに通っている	0.0% (0人)	1.7% (8人)	0.0% (0人)
放課後等デイサービスや児童発達支援・日中一時支援に通っている	0.1% (1人)	3.6% (17人)	0.0% (0人)
その他	4.3% (34人)	2.1% (10人)	0.0% (0人)
無回答	12.4% (97人)	13.1% (61人)	14.9% (13人)

年代別に見ると、身体障がい者では20代から50代の各年代で「会社務めや、自営業、家業などで収入を得て仕事をしている」の割合が高く、60代以上では「自宅で過ごしている」の割合が各年代4割以上を占めています。

日中の過ごし方（年代別）

身体	10歳未満	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上
回答者実数	4人	9人	10人	10人	41人	90人	203人	213人	194人
会社務めや、自営業、家業などで収入を得て仕事をしている	0.0% (0人)	0.0% (0人)	30.0% (3人)	70.0% (7人)	41.5% (17人)	31.1% (28人)	18.7% (38人)	4.7% (10人)	1.0% (2人)
ボランティアなど、収入を得ない仕事をしている	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	2.2% (2人)	2.5% (5人)	0.9% (2人)	0.5% (1人)
専業主婦(主夫)をしている	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	4.9% (2人)	10.0% (9人)	9.9% (20人)	9.4% (20人)	4.1% (8人)
障がい者の福祉サービス・就労支援事業所を利用している	0.0% (0人)	0.0% (0人)	20.0% (2人)	10.0% (1人)	9.8% (4人)	7.8% (7人)	2.5% (5人)	1.4% (3人)	1.0% (2人)
介護保険のサービスを利用している	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	6.7% (6人)	3.9% (8人)	5.2% (11人)	12.4% (24人)
病院などのデイケアに通っている	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	2.4% (1人)	1.1% (1人)	3.4% (7人)	2.8% (6人)	7.2% (14人)
リハビリテーションを受けている	0.0% (0人)	0.0% (0人)	10.0% (1人)	0.0% (0人)	4.9% (2人)	0.0% (0人)	2.0% (4人)	3.8% (8人)	2.6% (5人)
自宅で過ごしている	25.0% (1人)	0.0% (0人)	20.0% (2人)	10.0% (1人)	26.8% (11人)	26.7% (24人)	40.4% (82人)	45.5% (97人)	43.3% (84人)
入所している施設や病院等で過ごしている	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	4.9% (2人)	3.3% (3人)	1.5% (3人)	5.2% (11人)	8.8% (17人)
特別支援学校(小中高等部)に通っている	0.0% (0人)	66.7% (6人)	10.0% (1人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
一般の高校、小中高校に通っている	50.0% (2人)	33.3% (3人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
幼稚園、保育所などに通っている	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
放課後等デイサービスや児童発達支援・日中一時支援に通っている	25.0% (1人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
その他	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	3.3% (3人)	3.9% (8人)	7.0% (15人)	3.6% (7人)
無回答	0.0% (0人)	0.0% (0人)	10.0% (1人)	10.0% (1人)	4.9% (2人)	7.8% (7人)	11.3% (23人)	14.1% (30人)	15.5% (30人)

知的障がい者では、20代から50代の各年代で「障がい者の福祉サービス・就労支援事業所を利用している」が最も高く、それぞれ3割～4割を占めています。また、30代から60代では「自宅で過ごしている」がそれぞれ20%前後の割合となっています。

知的	10歳未満	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上
回答者実数	40人	117人	87人	94人	54人	39人	24人	4人	2人
会社務めや、自営業、家業などで収入を得て仕事をしている	0.0% (0人)	6.0% (7人)	31.0% (27人)	17.0% (16人)	20.4% (11人)	10.3% (4人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
ボランティアなど、収入を得ない仕事をしている	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
専業主婦(主夫)をしている	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	2.1% (2人)	7.4% (4人)	2.6% (1人)	8.3% (2人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
障がい者の福祉サービス・就労支援事業所を利用している	0.0% (0人)	10.3% (12人)	48.3% (42人)	43.6% (41人)	33.3% (18人)	41.0% (16人)	25.0% (6人)	25.0% (1人)	50.0% (1人)
介護保険のサービスを利用している	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	1.1% (1人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	50.0% (1人)
病院などのデイケアに通っている	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	4.2% (1人)	25.0% (1人)	0.0% (0人)
リハビリテーションを受けている	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
自宅で過ごしている	0.0% (0人)	5.1% (6人)	4.6% (4人)	18.1% (17人)	29.6% (16人)	20.5% (8人)	29.2% (7人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
入所している施設や病院等で過ごしている	0.0% (0人)	0.0% (0人)	2.3% (2人)	3.2% (3人)	0.0% (0人)	5.1% (2人)	8.3% (2人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
特別支援学校(小中高等部)に通っている	22.5% (9人)	40.2% (47人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
一般の高校、小中高校に通っている	22.5% (9人)	16.2% (19人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
幼稚園、保育所などに通っている	17.5% (7人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	1.9% (1人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
放課後等デイサービスや児童発達支援・日中一時支援に通っている	20.0% (8人)	4.3% (5人)	0.0% (0人)	2.1% (2人)	1.9% (1人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	25.0% (1人)	0.0% (0人)
その他	2.5% (1人)	1.7% (2人)	1.1% (1人)	5.3% (5人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	4.2% (1人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
無回答	15.0% (6人)	16.2% (19人)	12.6% (11人)	7.4% (7人)	5.6% (3人)	20.5% (8人)	20.8% (5人)	25.0% (1人)	0.0% (0人)

精神障がい者では、20代から60代の各年代で「障がい者の福祉サービス・就労支援事業所を利用している」が大半を占めています。

精神	10歳未満	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上
回答者実数	0人	0人	4人	8人	24人	28人	22人	1人	0人
会社務めや、自営業、家業などで収入を得て仕事をしている	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	4.5% (1人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
ボランティアなど、収入を得ない仕事をしている	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
専業主婦(主夫)をしている	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	3.6% (1人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
障がい者の福祉サービス・就労支援事業所を利用している	0.0% (0人)	0.0% (0人)	100.0% (4人)	62.5% (5人)	87.5% (21人)	71.4% (20人)	72.7% (16人)	100.0% (1人)	0.0% (0人)
介護保険のサービスを利用している	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
病院などのデイケアに通っている	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	3.6% (1人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
リハビリテーションを受けている	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
自宅で過ごしている	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	12.5% (1人)	8.3% (2人)	0.0% (0人)	4.5% (1人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
入所している施設や病院等で過ごしている	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
特別支援学校(小中高等部)に通っている	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
一般の高校、小中高校に通っている	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
幼稚園、保育所などに通っている	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
放課後等デイサービスや児童発達支援・日中一時支援に通っている	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
その他	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
無回答	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	25.0% (2人)	4.2% (1人)	21.4% (6人)	18.2% (4人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)

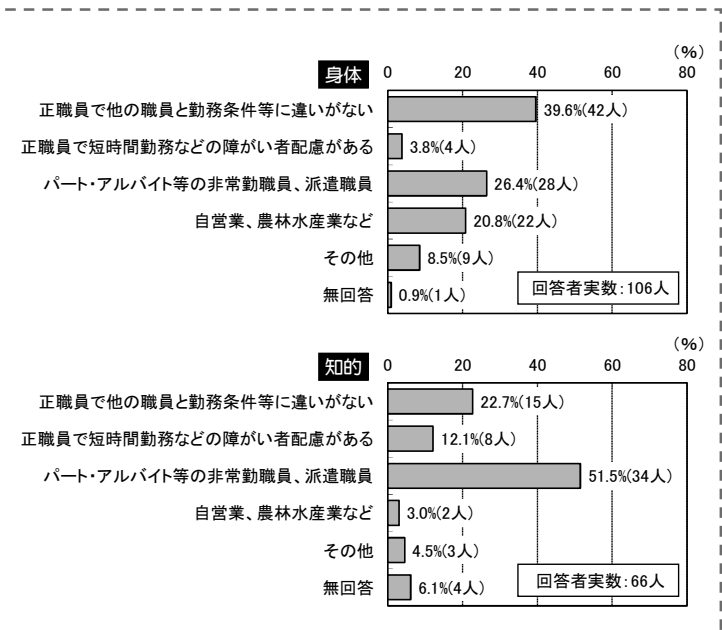
20. 就労の状況

仕事をしている人に就労形態を尋ねたところ、身体障がい者では、「正職員で他の職員と勤務条件等に違いがない」（フルタイム勤務）が39.6%（42人）で最も高く、「パート・アルバイト等の非常勤職員、派遣職員」の26.4%（28人）、「自営業、農林水産業など」の20.8%（22人）がそれぞれ2割台となっています。

知的障がい者では「パート・アルバイト等の非常勤職員、派遣職員」が51.5%（34人）で約半数を占め非常に高くなっています。また、「正職員で他の職員と勤務条件等に違いがない」が22.7%（15人）となっています。

なお、精神障がい者は回答者が1人のみとなっており、「正職員で他の職員と勤務条件等に違いがない」と答えています。

就労の状況



性別に見ると、身体障がい者の男性は「正職員で他の職員と勤務条件等に違いがない」が43.9%（36人）で最も高く、女性では「パート・アルバイト等の非常勤職員、派遣職員」が50.0%で最も高い割合となっています。

知的障がい者では、男女とも「パート・アルバイト等の非常勤職員、派遣職員」が最も高く、男性で47.7%（21人）、女性で61.9%（13人）となっています。

就労の状況（性別）

	身体		知的	
	男性	女性	男性	女性
回答者実数	82人	24人	44人	21人
正職員で他の職員と勤務条件等に違いがない	43.9% (36人)	25.0% (6人)	25.0% (11人)	19.0% (4人)
正職員で短時間勤務などの障がい者配慮がある	3.7% (3人)	4.2% (1人)	15.9% (7人)	4.8% (1人)
パート・アルバイト等の非常勤職員、派遣職員	19.5% (16人)	50.0% (12人)	47.7% (21人)	61.9% (13人)
自営業、農林水産業など	23.2% (19人)	12.5% (3人)	4.5% (2人)	0.0% (0人)
その他	8.5% (7人)	8.3% (2人)	2.3% (1人)	9.5% (2人)
無回答	1.2% (1人)	0.0% (0人)	4.5% (2人)	4.8% (1人)

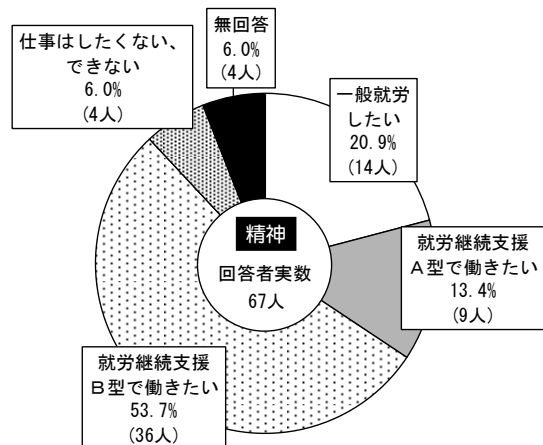
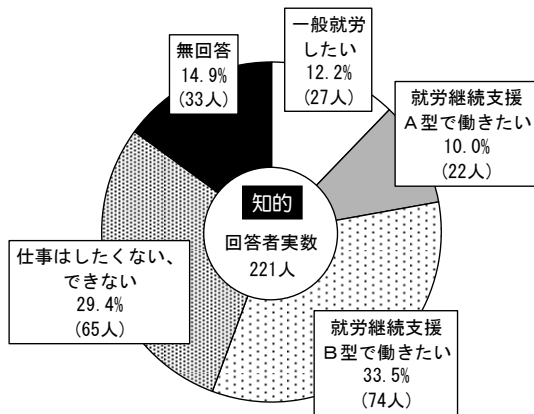
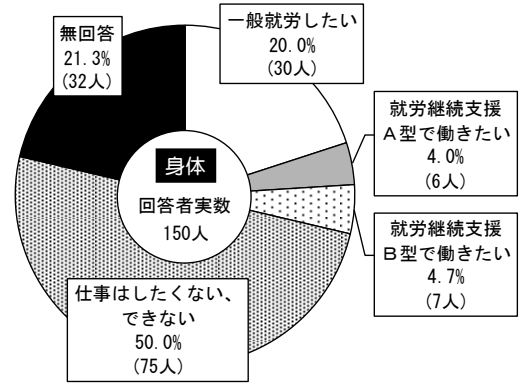
21. 就労意向

会社勤めや自営業などの仕事をしていない人に対し、就労の意向を尋ねました。

「一般就労したい」という回答は、身体障がい者と精神障がい者がそれぞれ約2割、知的障がい者が約1割となっています。

一方、就労継続支援で働きたい(利用したい)という回答は、知的障がい者で4割余り、精神障がい者では7割近くあり、福祉的就労への意向が高くなっています。なお、身体障がい者の半数以上は「仕事はしたくない、できない」と答えています。

就労意向



年代別に見ると、身体障がい者では50代、60代に「仕事はしたくない、できない」と答えた方が多い結果となっています。

就労意向（年代別）

身体	10歳未満	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上
回答者実数	0人	1人	6人	2人	22人	55人	64人	0人	0人
一般就労したい	0.0% (0人)	100.0% (1人)	16.7% (1人)	50.0% (1人)	40.9% (9人)	21.8% (12人)	9.4% (6人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
就労継続支援A型で働きたい	0.0% (0人)	0.0% (0人)	16.7% (1人)	50.0% (1人)	4.5% (1人)	1.8% (1人)	3.1% (2人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
就労継続支援B型で働きたい	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	4.5% (1人)	5.5% (3人)	4.7% (3人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
仕事はしたくない、できない	0.0% (0人)	0.0% (0人)	16.7% (1人)	0.0% (0人)	31.8% (7人)	47.3% (26人)	64.1% (41人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
無回答	0.0% (0人)	0.0% (0人)	50.0% (3人)	0.0% (0人)	18.2% (4人)	23.6% (13人)	18.8% (12人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)

知的障がい者では、10代の35.0%(7人)が「就労継続支援A型で働きたい」と答えています。
また、20代～50代の3割以上が「就労継続支援B型で働きたい」と答えています。

知的	10歳未満	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上
回答者実数	0人	20人	49人	71人	40人	27人	14人	0人	0人
一般就労したい	0.0% (0人)	20.0% (4人)	18.4% (9人)	14.1% (10人)	7.5% (3人)	3.7% (1人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
就労継続支援A型で働きたい	0.0% (0人)	35.0% (7人)	12.2% (6人)	7.0% (5人)	7.5% (3人)	0.0% (0人)	7.1% (1人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
就労継続支援B型で働きたい	0.0% (0人)	15.0% (3人)	40.8% (20人)	33.8% (24人)	35.0% (14人)	37.0% (10人)	21.4% (3人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
仕事はしたくない、できない	0.0% (0人)	10.0% (2人)	24.5% (12人)	26.8% (19人)	32.5% (13人)	40.7% (11人)	57.1% (8人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
無回答	0.0% (0人)	20.0% (4人)	4.1% (2人)	18.3% (13人)	17.5% (7人)	18.5% (5人)	14.3% (2人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)

精神障がい者では、20代、30代の6割以上が「一般就労したい」と答えており、40代以上では「就労継続支援B型で働きたい」と答えた方の割合が最も高くなっています。

精神	10歳未満	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上
回答者実数	0人	0人	4人	6人	23人	22人	12人	0人	0人
一般就労したい	0.0% (0人)	0.0% (0人)	75.0% (3人)	66.7% (4人)	4.3% (1人)	22.7% (5人)	8.3% (1人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
就労継続支援A型で働きたい	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	17.4% (4人)	18.2% (4人)	8.3% (1人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
就労継続支援B型で働きたい	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	33.3% (2人)	60.9% (14人)	45.5% (10人)	83.3% (10人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
仕事はしたくない、できない	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	4.3% (1人)	13.6% (3人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
無回答	0.0% (0人)	0.0% (0人)	25.0% (1人)	0.0% (0人)	13.0% (3人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)

身体障がいの部位別に見ると、聴覚障がいのみ「一般就労したい」の割合が最も高く、そのほかの部位ではいずれも「仕事はしたくない、できない」の割合が最も高くなっています。

就労意向（身体障がいの部位別）

身体	視覚障がい	聴覚障がい	音声・言語・ そしゃく機能 障がい	肢体不自由 （上肢）	肢体不自由 （下肢）	肢体不自由 （体幹）	内部障がい （1～6以外）
回答者実数	8人	8人	2人	12人	25人	12人	57人
一般就労したい	37.5% （ 3人）	50.0% （ 4人）	0.0% （ 0人）	8.3% （ 1人）	20.0% （ 5人）	8.3% （ 1人）	24.6% （ 14人）
就労継続支援A 型で働きたい	12.5% （ 1人）	12.5% （ 1人）	0.0% （ 0人）	8.3% （ 1人）	0.0% （ 0人）	0.0% （ 0人）	5.3% （ 3人）
就労継続支援B 型で働きたい	0.0% （ 0人）	12.5% （ 1人）	0.0% （ 0人）	0.0% （ 0人）	12.0% （ 3人）	0.0% （ 0人）	0.0% （ 0人）
仕事はしたくない、 できない	50.0% （ 4人）	25.0% （ 2人）	50.0% （ 1人）	50.0% （ 6人）	36.0% （ 9人）	66.7% （ 8人）	49.1% （ 28人）
無回答	0.0% （ 0人）	0.0% （ 0人）	50.0% （ 1人）	33.3% （ 4人）	32.0% （ 8人）	25.0% （ 3人）	21.1% （ 12人）

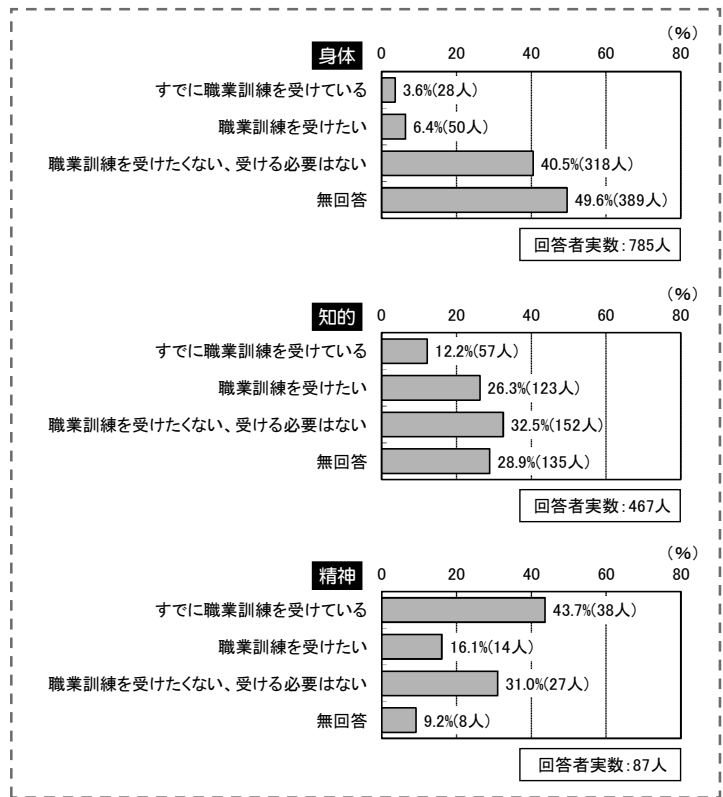
22. 職業訓練の受講の意向

現在仕事をしていない人に対し、職業訓練の受講の意向を尋ねました。

「職業訓練を受けたい」という回答は、身体障がい者で6.4%(50人)、知的障がい者で26.3%(123人)、精神障がい者で16.1%(14人)となっています。

また、「すでに職業訓練を受けている」という回答は、身体障がい者で3.6%(28人)、知的障がい者で12.2%(57人)とそれぞれ最も低い割合となっていますが、精神障がい者では43.7%(38人)と最も高い割合となっています。

職業訓練の受講の意向



年代別に見ると、身体障がい者では10歳未満から60代までの各年代で「職業訓練を受けたくない、受ける必要はない」の割合が最も高くなっています。

職業訓練の受講の意向 (年代別)

身体	10歳未満	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上
回答者実数	4人	9人	10人	10人	41人	90人	203人	213人	194人
すでに職業訓練を受けている	0.0% (0人)	11.1% (1人)	10.0% (1人)	10.0% (1人)	14.6% (6人)	6.7% (6人)	3.4% (7人)	2.3% (5人)	0.5% (1人)
職業訓練を受けたい	25.0% (1人)	22.2% (2人)	10.0% (1人)	20.0% (2人)	14.6% (6人)	13.3% (12人)	7.4% (15人)	2.8% (6人)	1.5% (3人)
職業訓練を受けたくない、受ける必要はない	50.0% (2人)	66.7% (6人)	40.0% (4人)	60.0% (6人)	39.0% (16人)	51.1% (46人)	46.8% (95人)	36.2% (77人)	32.5% (63人)
無回答	25.0% (1人)	0.0% (0人)	40.0% (4人)	10.0% (1人)	31.7% (13人)	28.9% (26人)	42.4% (86人)	58.7% (125人)	65.5% (127人)

知的障がい者では、10代まで「職業訓練を受けたい」の割合が最も高く、20代以上では「訓練を受けたくない、受ける必要はない」の割合が最も高くなっています。

知的	10歳未満	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上
回答者実数	40人	117人	87人	94人	54人	39人	24人	4人	2人
すでに職業訓練を受けている	0.0% (0人)	10.3% (12人)	27.6% (24人)	13.8% (13人)	7.4% (4人)	5.1% (2人)	4.2% (1人)	0.0% (0人)	50.0% (1人)
職業訓練を受けたい	45.0% (18人)	48.7% (57人)	23.0% (20人)	10.6% (10人)	20.4% (11人)	10.3% (4人)	8.3% (2人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
職業訓練を受けたくない、受ける必要はない	5.0% (2人)	14.5% (17人)	31.0% (27人)	41.5% (39人)	51.9% (28人)	53.8% (21人)	58.3% (14人)	25.0% (1人)	0.0% (0人)
無回答	50.0% (20人)	26.5% (31人)	18.4% (16人)	34.0% (32人)	20.4% (11人)	30.8% (12人)	29.2% (7人)	75.0% (3人)	50.0% (1人)

精神障がい者では40代の66.7% (16人)が「すでに職業訓練を受けている」と答えており、50代、60代では4割以上が「職業訓練を受けたくない、受ける必要がない」と答えています。

精神	10歳未満	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上
回答者実数	0人	0人	4人	8人	24人	28人	22人	1人	0人
すでに職業訓練を受けている	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	37.5% (3人)	66.7% (16人)	35.7% (10人)	36.4% (8人)	100.0% (1人)	0.0% (0人)
職業訓練を受けたい	0.0% (0人)	0.0% (0人)	75.0% (3人)	12.5% (1人)	20.8% (5人)	14.3% (4人)	4.5% (1人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
職業訓練を受けたくない、受ける必要はない	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	25.0% (2人)	12.5% (3人)	42.9% (12人)	45.5% (10人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
無回答	0.0% (0人)	0.0% (0人)	25.0% (1人)	25.0% (2人)	0.0% (0人)	7.1% (2人)	13.6% (3人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)

23. 障がい者の就労支援で必要なこと

障がい者が就労する上で必要なこととして、身体障がい者、知的障がい者では「職場の上司や同僚に障がいの理解があること」が最も高く、身体障がい者の28.5% (224人)、知的障がい者の54.2% (253人)となっています。また、知的障がい者では、「通勤手段の確保」(39.8%/186人)や「就労後のフォローなど職場と支援機関の連携」(38.5%/180人)も高くなっています。

精神障がい者は「通勤手段の確保」が54.0% (47人)で最も高く、次いで「職場の上司や同僚に障がいの理解があること」が47.1% (41人)となっています

障がい者の就労支援で必要なこと

	身体 (785人)	知的 (467人)	精神 (87人)
通勤手段の確保	22.7% (178人)	39.8% (186人)	54.0% (47人)
勤務場所におけるバリアフリー等の配慮	17.1% (134人)	14.3% (67人)	8.0% (7人)
短時間勤務や勤務日数等の配慮	23.2% (182人)	33.8% (158人)	29.9% (26人)
在宅勤務の拡充	16.4% (129人)	12.6% (59人)	9.2% (8人)
職場の上司や同僚に障がいの理解があること	28.5% (224人)	54.2% (253人)	47.1% (41人)
職場で介助や援助等が受けられること	13.5% (106人)	31.3% (146人)	19.5% (17人)
就労後のフォローなど職場と支援機関の連携	14.6% (115人)	38.5% (180人)	21.8% (19人)
企業ニーズに合った就労訓練	12.9% (101人)	24.6% (115人)	16.1% (14人)
仕事についての職場外での相談対応、支援	13.2% (104人)	31.9% (149人)	31.0% (27人)
その他	5.5% (43人)	3.6% (17人)	5.7% (5人)
無回答	49.8% (391人)	25.9% (121人)	14.9% (13人)

年代別に見ると、身体障がい者では10代から50代の各年代において「職場の上司や同僚に障がいの理解があること」が最も高い割合となっています。なお、60歳以上では「無回答」の割合が最も高く、70代以上では6割を超えています。年齢の関係で特に就労支援を必要としていない方が多いことによるものと考えられます。

障がい者の就労支援で必要なこと（年代別）

身体	10歳未満	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上
回答者実数	4人	9人	10人	10人	41人	90人	203人	213人	194人
通勤手段の確保	75.0% (3人)	33.3% (3人)	20.0% (2人)	10.0% (1人)	34.1% (14人)	36.7% (33人)	20.7% (42人)	18.3% (39人)	20.6% (40人)
勤務場所におけるバリアフリー等の配慮	25.0% (1人)	33.3% (3人)	10.0% (1人)	20.0% (2人)	22.0% (9人)	32.2% (29人)	17.2% (35人)	11.7% (25人)	13.9% (27人)
短時間勤務や勤務日数等の配慮	25.0% (1人)	0.0% (0人)	30.0% (3人)	60.0% (6人)	34.1% (14人)	34.4% (31人)	28.1% (57人)	16.9% (36人)	15.5% (30人)
在宅勤務の拡充	25.0% (1人)	11.1% (1人)	10.0% (1人)	10.0% (1人)	31.7% (13人)	34.4% (31人)	16.7% (34人)	11.3% (24人)	10.8% (21人)
職場の上司や同僚に障がいの理解があること	50.0% (2人)	66.7% (6人)	40.0% (4人)	80.0% (8人)	65.9% (27人)	46.7% (42人)	27.6% (56人)	17.8% (38人)	19.6% (38人)
職場で介助や援助等が受けられること	25.0% (1人)	11.1% (1人)	10.0% (1人)	10.0% (1人)	26.8% (11人)	20.0% (18人)	10.3% (21人)	11.3% (24人)	13.9% (27人)
就労後のフォローなど職場と支援機関の連携	25.0% (1人)	44.4% (4人)	30.0% (3人)	10.0% (1人)	34.1% (14人)	23.3% (21人)	10.8% (22人)	11.3% (24人)	12.4% (24人)
企業ニーズに合った就労訓練	25.0% (1人)	11.1% (1人)	10.0% (1人)	10.0% (1人)	17.1% (7人)	24.4% (22人)	13.8% (28人)	8.5% (18人)	9.8% (19人)
仕事についての職場外での相談対応、支援	25.0% (1人)	22.2% (2人)	10.0% (1人)	30.0% (3人)	22.0% (9人)	26.7% (24人)	12.3% (25人)	6.6% (14人)	11.3% (22人)
その他	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	10.0% (1人)	4.9% (2人)	2.2% (2人)	7.4% (15人)	6.1% (13人)	5.2% (10人)
無回答	25.0% (1人)	22.2% (2人)	40.0% (4人)	0.0% (0人)	12.2% (5人)	22.2% (20人)	44.3% (90人)	61.0% (130人)	68.0% (132人)

知的障がい者では、10歳未満から40代まで「職場の上司や同僚に障がいの理解があること」の割合が最も高くなっています。また、10代未満から20代では「通勤手段の確保」、「短時間勤務や勤務日数等の配慮」、「就労後のフォローなど職場と支援機関の連携」、「仕事についての職場外での相談対応、支援」の4項目が概ね4割を超えています。30代から50代においては「通勤手段の確保」が30%以上と比較的高い割合となっています。

知的	10歳未満	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上
回答者実数	40人	117人	87人	94人	54人	39人	24人	4人	2人
通勤手段の確保	50.0% (20人)	44.4% (52人)	51.7% (45人)	33.0% (31人)	31.5% (17人)	35.9% (14人)	20.8% (5人)	25.0% (1人)	0.0% (0人)
勤務場所におけるバリアフリー等の配慮	12.5% (5人)	14.5% (17人)	17.2% (15人)	17.0% (16人)	13.0% (7人)	15.4% (6人)	4.2% (1人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
短時間勤務や勤務日数等の配慮	52.5% (21人)	39.3% (46人)	36.8% (32人)	27.7% (26人)	33.3% (18人)	23.1% (9人)	20.8% (5人)	0.0% (0人)	50.0% (1人)
在宅勤務の拡充	20.0% (8人)	17.1% (20人)	17.2% (15人)	12.8% (12人)	3.7% (2人)	5.1% (2人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
職場の上司や同僚に障がいの理解があること	70.0% (28人)	66.7% (78人)	62.1% (54人)	47.9% (45人)	57.4% (31人)	23.1% (9人)	29.2% (7人)	25.0% (1人)	0.0% (0人)
職場で介助や援助等が受けられること	40.0% (16人)	43.6% (51人)	28.7% (25人)	25.5% (24人)	27.8% (15人)	23.1% (9人)	16.7% (4人)	25.0% (1人)	50.0% (1人)
就労後のフォローなど職場と支援機関の連携	62.5% (25人)	46.2% (54人)	49.4% (43人)	27.7% (26人)	31.5% (17人)	25.6% (10人)	16.7% (4人)	0.0% (0人)	50.0% (1人)
企業ニーズに合った就労訓練	35.0% (14人)	38.5% (45人)	29.9% (26人)	17.0% (16人)	13.0% (7人)	12.8% (5人)	8.3% (2人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
仕事についての職場外での相談対応、支援	42.5% (17人)	43.6% (51人)	39.1% (34人)	23.4% (22人)	29.6% (16人)	12.8% (5人)	8.3% (2人)	25.0% (1人)	0.0% (0人)
その他	2.5% (1人)	4.3% (5人)	4.6% (4人)	4.3% (4人)	0.0% (0人)	5.1% (2人)	0.0% (0人)	25.0% (1人)	0.0% (0人)
無回答	27.5% (11人)	17.1% (20人)	13.8% (12人)	30.9% (29人)	25.9% (14人)	38.5% (15人)	54.2% (13人)	50.0% (2人)	50.0% (1人)

精神障がい者では、30代と40代で「職場の上司や同僚に障がいの理解があること」が最も高く、特に30代は8割を超えています。また、30代から60代では「通勤手段の確保」が5割前後を占めています。

精神	10歳未満	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上
回答者実数	0人	0人	4人	8人	24人	28人	22人	1人	0人
通勤手段の確保	0.0% (0人)	0.0% (0人)	75.0% (3人)	50.0% (4人)	54.2% (13人)	46.4% (13人)	59.1% (13人)	100.0% (1人)	0.0% (0人)
勤務場所におけるバリアフリー等の配慮	0.0% (0人)	0.0% (0人)	25.0% (1人)	0.0% (0人)	8.3% (2人)	10.7% (3人)	4.5% (1人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
短時間勤務や勤務日数等の配慮	0.0% (0人)	0.0% (0人)	75.0% (3人)	25.0% (2人)	41.7% (10人)	28.6% (8人)	13.6% (3人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
在宅勤務の拡充	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	12.5% (3人)	14.3% (4人)	4.5% (1人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
職場の上司や同僚に障がいの理解があること	0.0% (0人)	0.0% (0人)	75.0% (3人)	87.5% (7人)	54.2% (13人)	35.7% (10人)	36.4% (8人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
職場で介助や援助等が受けられること	0.0% (0人)	0.0% (0人)	75.0% (3人)	25.0% (2人)	12.5% (3人)	25.0% (7人)	9.1% (2人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
就労後のフォローなど職場と支援機関の連携	0.0% (0人)	0.0% (0人)	50.0% (2人)	25.0% (2人)	25.0% (6人)	21.4% (6人)	13.6% (3人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
企業ニーズに合った就労訓練	0.0% (0人)	0.0% (0人)	25.0% (1人)	12.5% (1人)	25.0% (6人)	17.9% (5人)	4.5% (1人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
仕事についての職場外での相談対応、支援	0.0% (0人)	0.0% (0人)	50.0% (2人)	62.5% (5人)	41.7% (10人)	28.6% (8人)	9.1% (2人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
その他	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	4.2% (1人)	3.6% (1人)	13.6% (3人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
無回答	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	12.5% (1人)	8.3% (2人)	32.1% (9人)	4.5% (1人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)

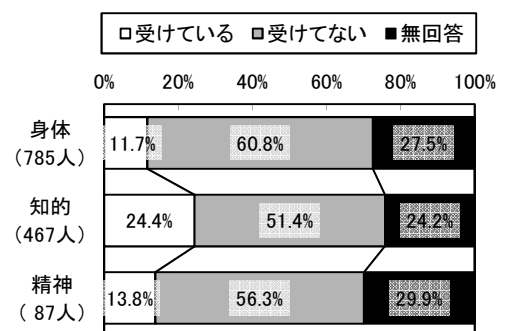
24. 区分認定を受けているか

区分認定を受けている人は、身体障がい者、精神障がい者では1割、知的障がい者では2割半ばとなっています。

区分認定を受けているか

	身体 (785人)	知的 (467人)	精神 (87人)
区分1	2.9% (23人)	2.4% (11人)	0.0% (0人)
区分2	2.3% (18人)	4.3% (20人)	8.0% (7人)
区分3	1.5% (12人)	6.6% (31人)	5.7% (5人)
区分4	1.8% (14人)	4.3% (20人)	0.0% (0人)
区分5	1.4% (11人)	2.4% (11人)	0.0% (0人)
区分6	1.8% (14人)	4.5% (21人)	0.0% (0人)
受けてない	60.8% (477人)	51.4% (240人)	56.3% (49人)
無回答	27.5% (216人)	24.2% (113人)	29.9% (26人)

区分認定を受けているか



25. 障がい福祉サービスの利用状況と利用意向

身体障がい者の利用状況を見ると、「利用している」という回答は、全て1割未満であり、「相談支援(計画相談も含む)」が7.4%であるほか、「居宅介護」、「生活介護」、「自立訓練(機能訓練)」が他のサービスより比較的高くなっています。

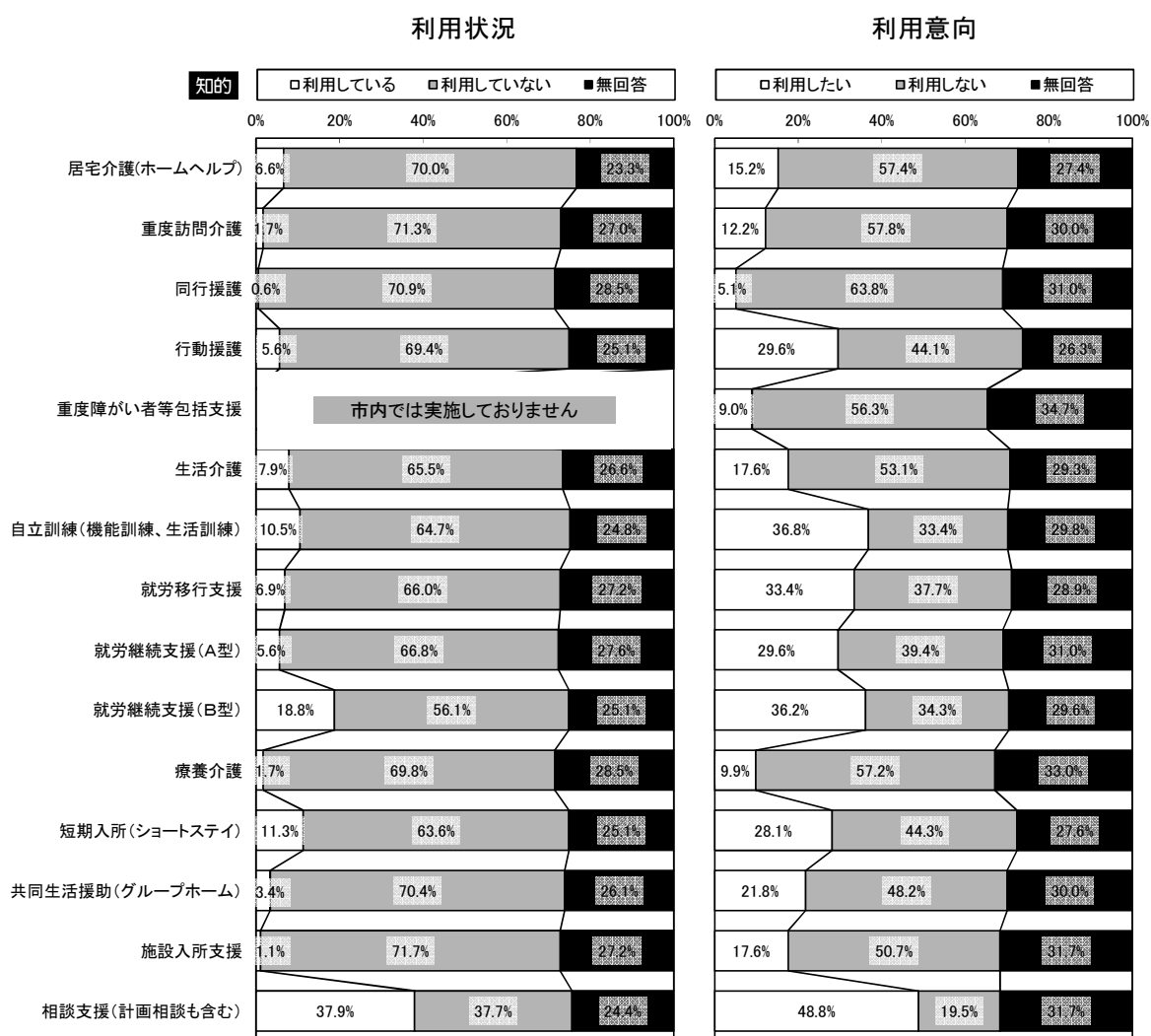
今後の利用意向では「利用したい」という回答が各サービスとも現在の「利用している」割合を上回っています。最も利用意向が高いのは「相談支援(計画相談も含む)」の28.0%で、そのほか「居宅介護」、「自立訓練」、「生活介護」、「重度訪問介護」、「自立訓練(機能訓練)」が比較的高いです。



回答者実数：785人

知的障がい者の利用状況を見ると、「利用している」という回答は、「相談支援(計画相談も含む)」が37.9%でとても高いほか、「就労継続支援(B型)」の18.8%が約2割で高くなっています。また、「自立訓練(生活訓練)」、「短期入所」、「生活介護」が1割程度であり、ほかのサービスより、比較的高くなっています。

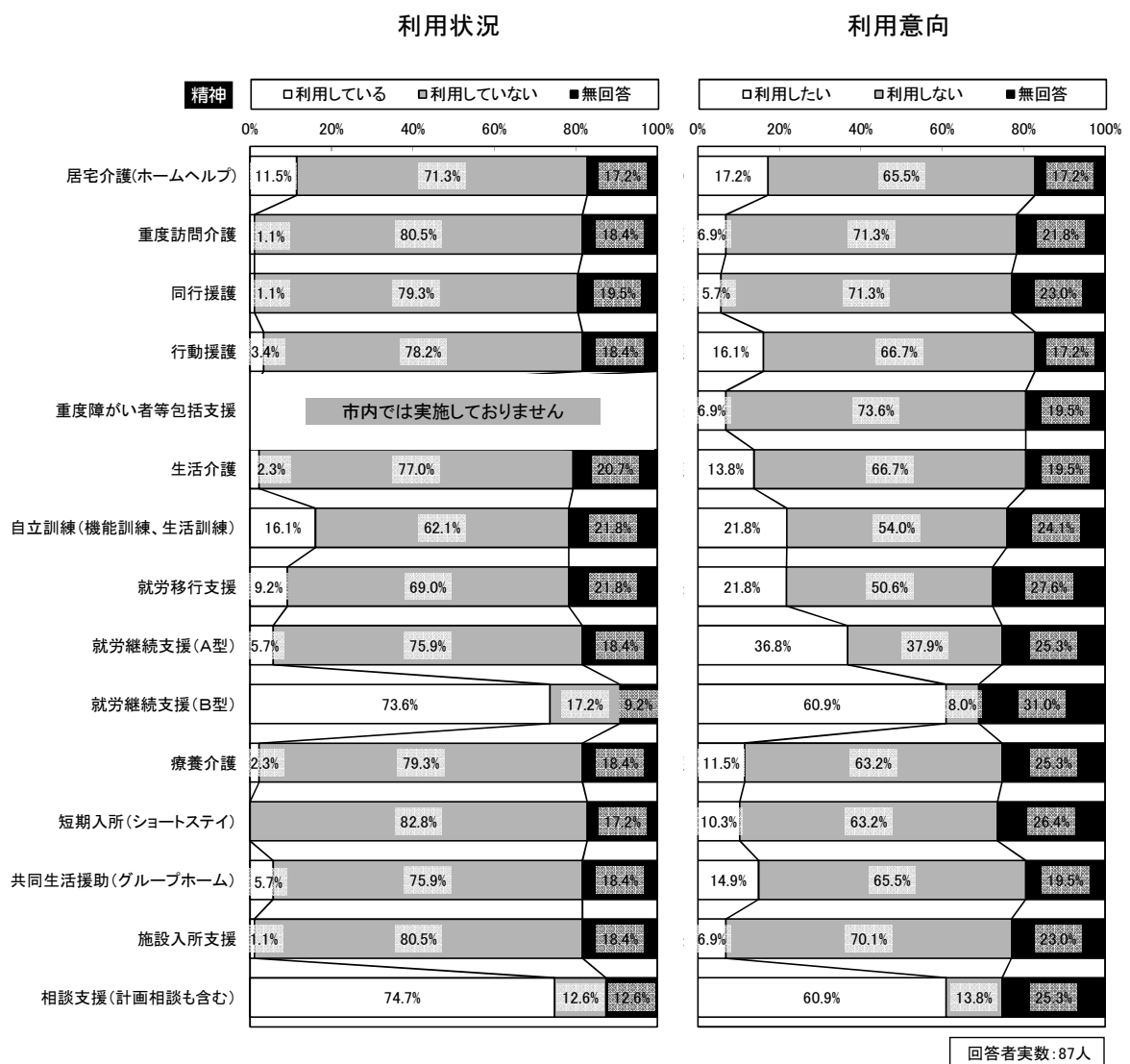
今後の利用意向では「利用したい」という回答が各サービスとも現在の「利用している」割合を上回っています。最も意向が高いのは「相談支援(計画相談も含む)」の48.8%で、そのほか「自立訓練(生活訓練)」、「就労継続支援(B型)」、「就労移行支援」のニーズが高いです。また、「就労継続支援(A型)」、「行動援護」、「短期入所」も比較的高くなっています。



回答者実数: 467人

精神障がい者の利用状況を見ると、「利用している」という回答は、「相談支援(計画相談も含む)」と「就労継続支援(B型)」が7割を超えており、非常に高くなっています。

今後の利用意向について「利用したい」という回答は、「就労継続支援(B型)」と「相談支援(計画相談も含む)」が、ともに60.9%と現在の利用状況と比べて、いずれも13ポイント近く下がっています。なお、そのほかのサービスについては現在の「利用している」割合を上回っています。



26. 障がい児サービスの利用状況と利用意向

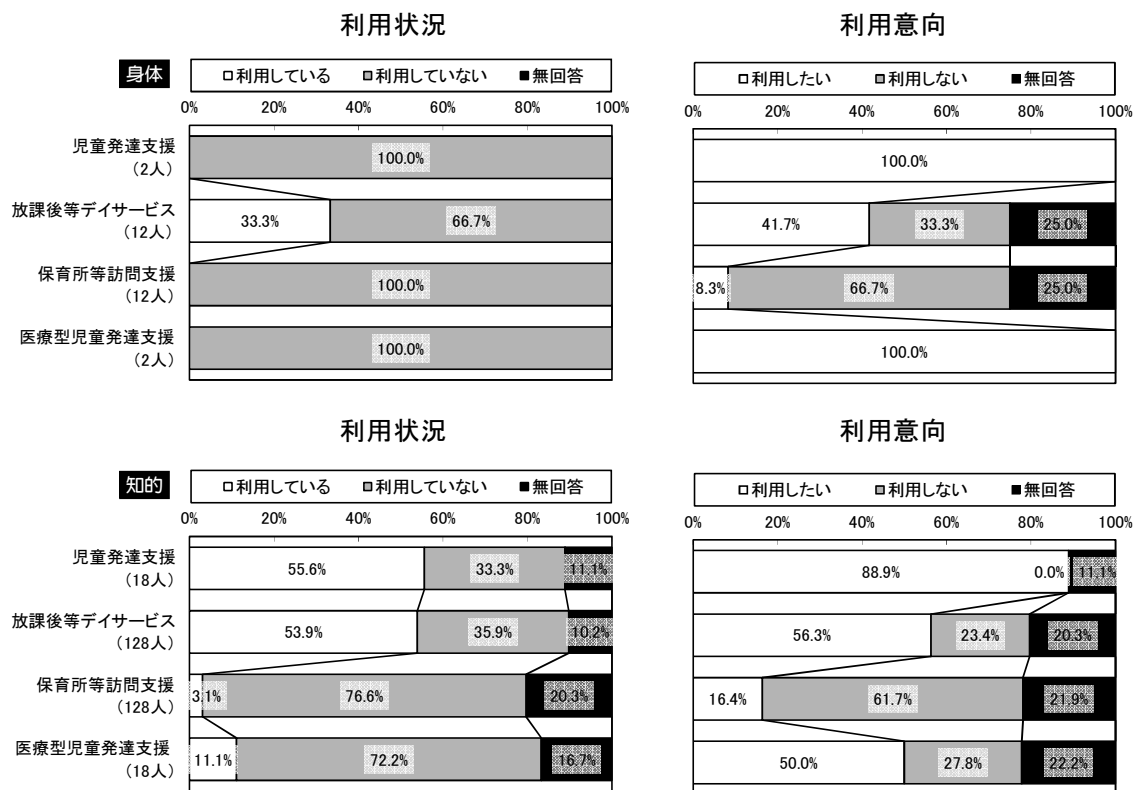
身体障がい児では、「児童発達支援」（未就学児童が対象）は、利用対象者（回答者）が非常に少ないが、100%の利用となっています。「保育所等訪問支援」、「医療型児童発達支援」も利用対象者（回答者）が非常に少ないですが利用割合は100%となっています。

「放課後等デイサービス」（18歳未満が対象）は33.3%利用となっています。

今後の利用意向では「利用したい」という回答は、「児童発達支援」と「医療型児童発達支援」は100%、放課後等デイサービスは41.7%、「保育所等訪問支援」は8.3%となっています。（調査のサンプル数が少ないため、この調査結果は参考値として見る必要があります。）

知的障がい児では、「児童発達支援」は55.6%、「医療型児童発達支援」は11.1%、放課後等デイサービスは53.9%が利用しています。また、「保育所等訪問支援」は3.1%の利用にとどまっています。

今後の利用意向では、「児童発達支援」は88.9%、「医療型児童発達支援」は50.0%、「放課後等デイサービス」は56.3%、「保育所等訪問支援」は16.4%が利用したいと回答しています。（児童発達支援と医療型児童発達支援は調査のサンプル数が少ないため、この調査結果は参考値として見る必要があります。）

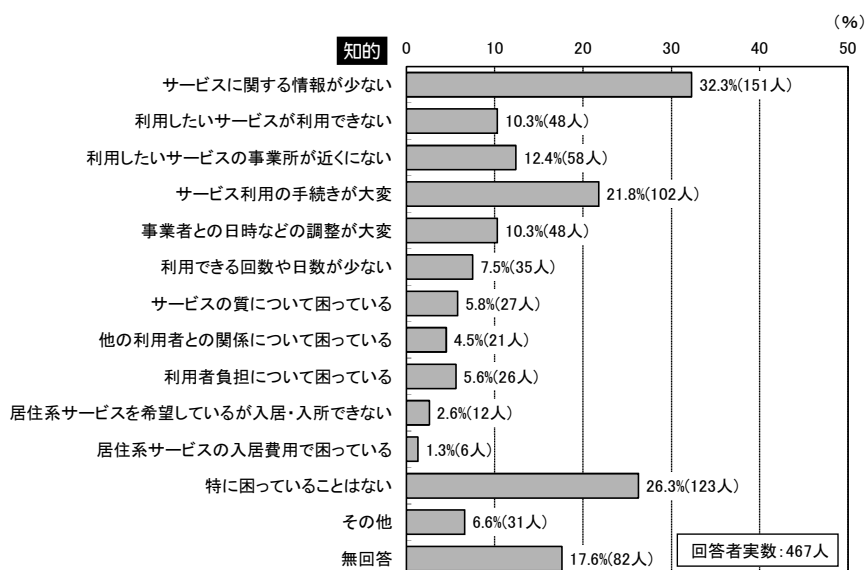
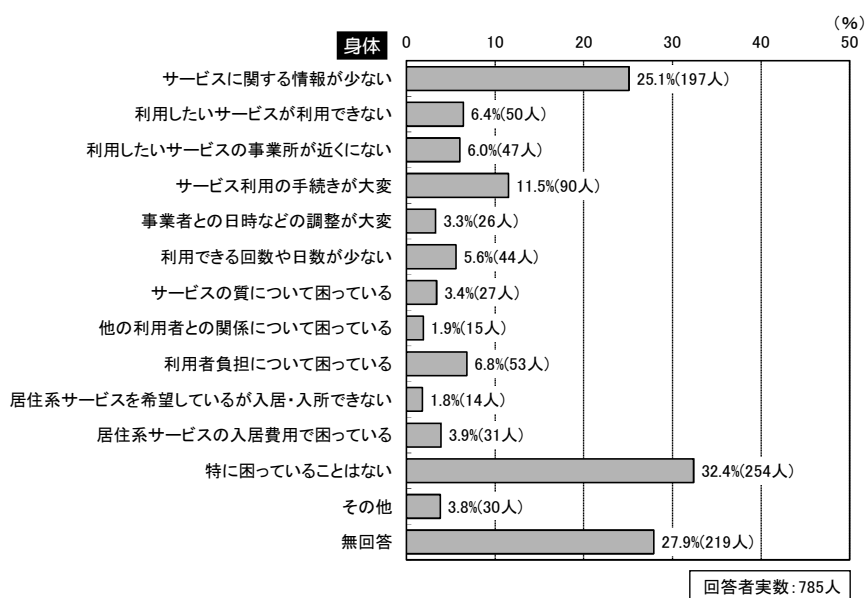


27. 障がい福祉サービスの利用に関して困っていること

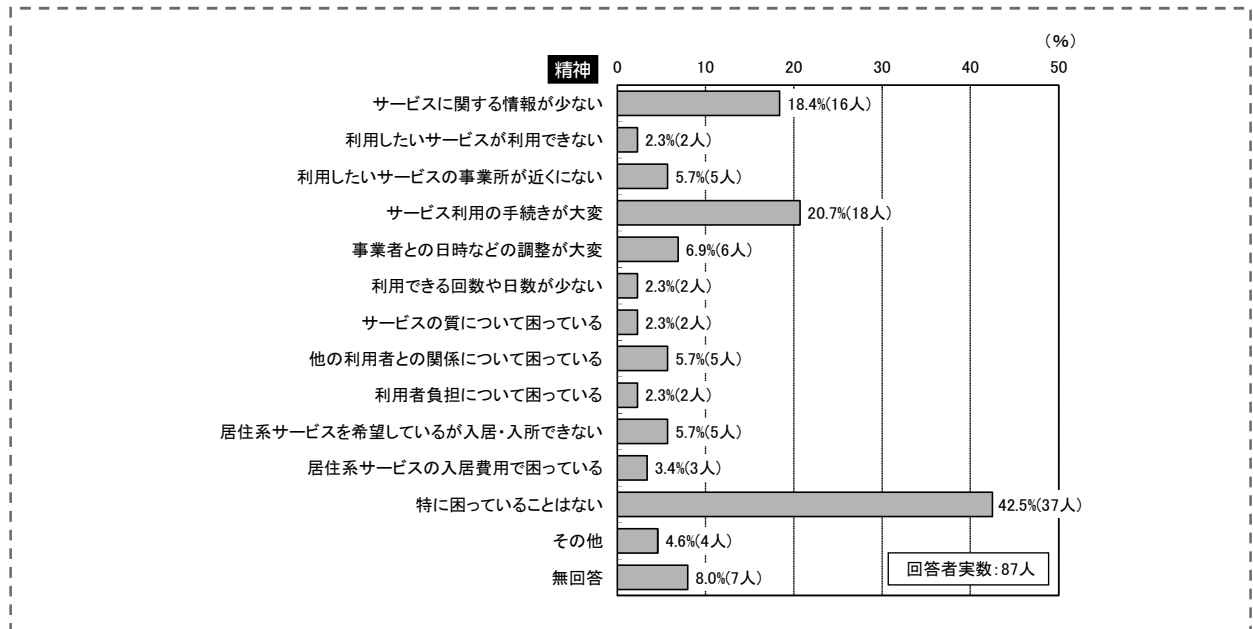
障がい福祉サービスの利用に関して困っていることは、身体障がい者の37.9%(312人)が何かしら困っていると答えており、中でも「サービスに関する情報が少ない」が25.1%(197人)で最も高く、次いで「サービス利用の手続きが大変」が11.5%(90人)となっています。

知的障がい者では、56.1%(262人)が何かしら困っていると答えており、中でも「サービスに関する情報が少ない」が32.3%(151人)で最も高く、次いで「サービス利用の手続きが大変」が21.8%(102人)となっています。そのほか、「利用したサービスが利用できない」、「利用したいサービスの事業所が近くにない」、「事業者との日時などの調整が大変」の3項目がそれぞれ10%台で比較的高い割合となっています。

障がい福祉サービスの利用に関して困っていること



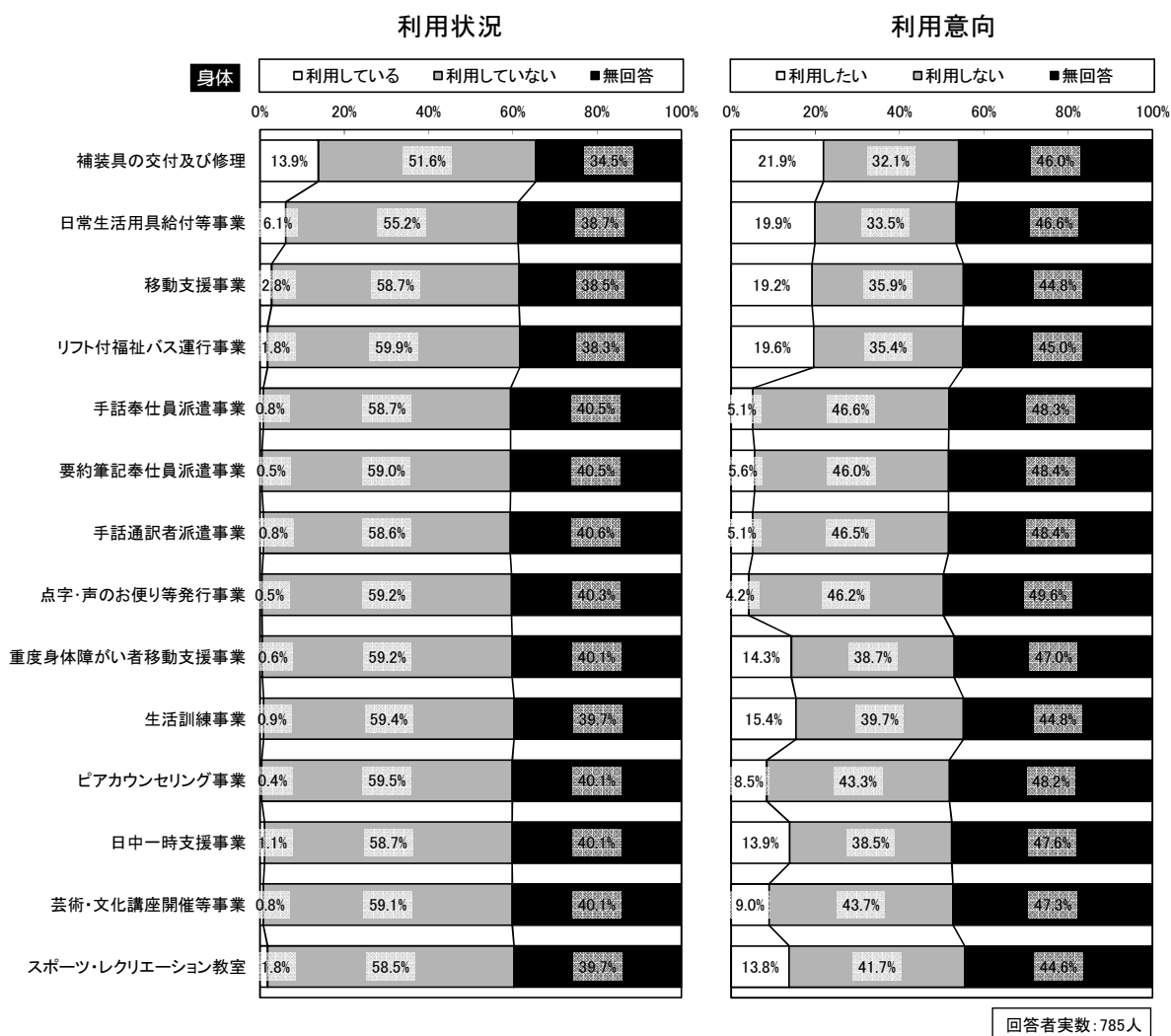
精神障がい者では、49.5% (43人)が何かしら困っている答えており、中でも「サービス利用の手続きが大変」が20.7% (18人)で最も高く、次いで「サービスに関する情報が少ない」が18.4% (16人)となっています。



28. その他のサービスの利用状況と利用意向

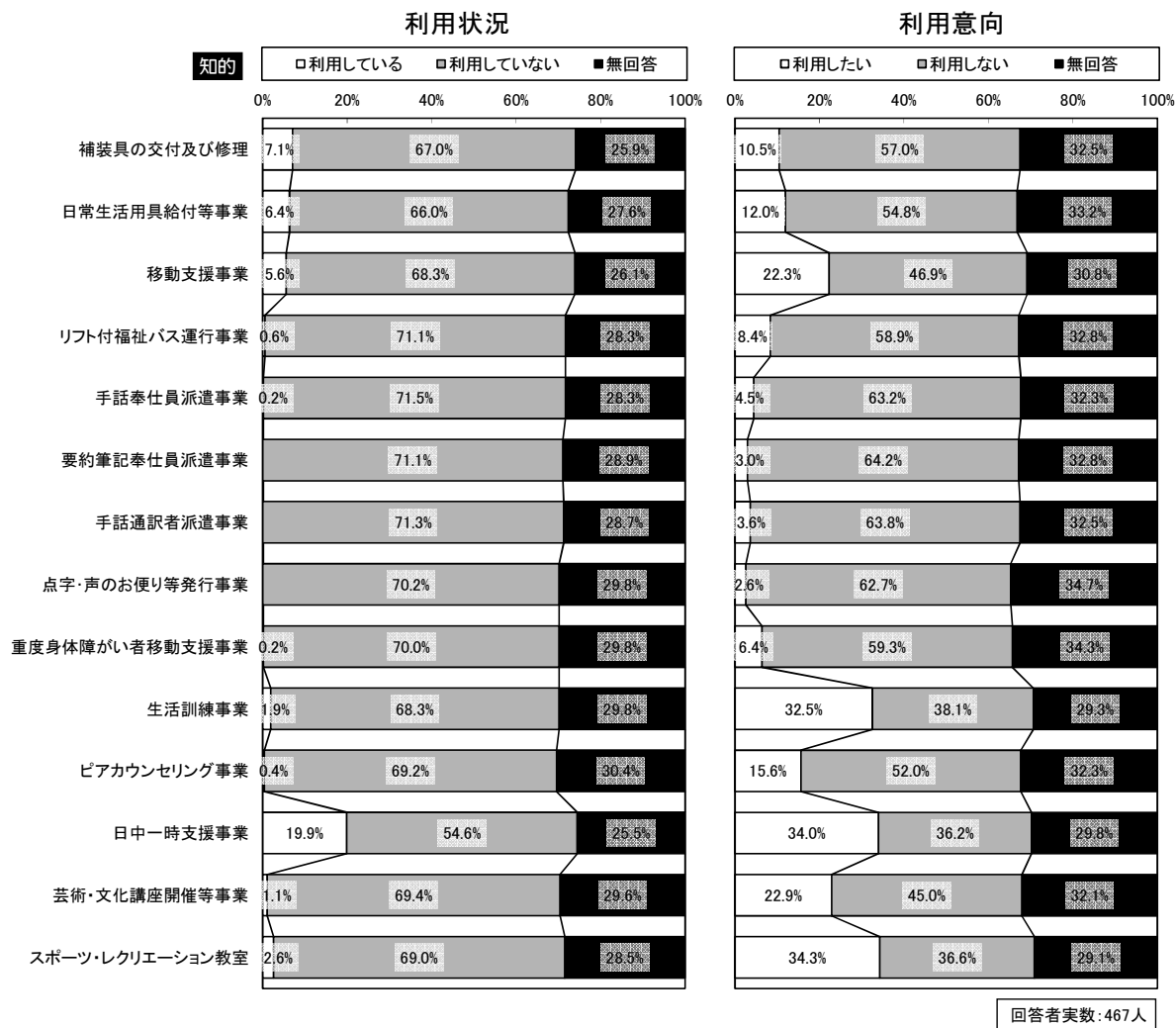
地域支援事業によるサービスの利用について見ると、身体障がい者では、「補装具の交付及び修理」の13.9%、「日常生活用具給付等事業」の6.1%が最も高いほかは、全て5%未満の利用割合となっています。

今後の利用意向としては、「補装具の交付及び修理」、「日常生活用具給付等事業」、「リフト付き福祉バス運行事業」、「移動支援事業」が2割程度で比較的高くなっています。



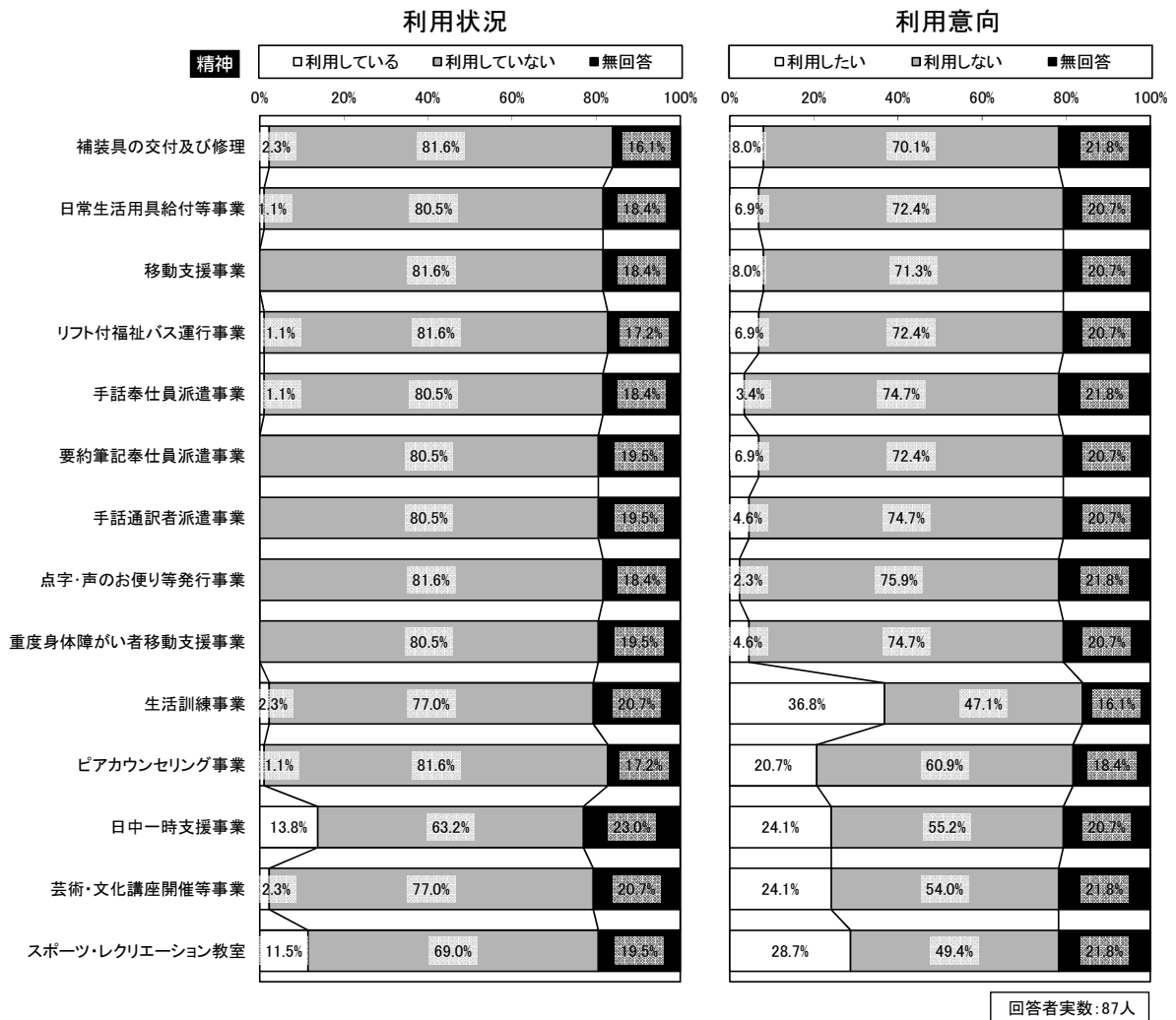
知的障がい者では、「日中一時支援事業」の19.9%が最も高く、そのほか「補装具の交付及び修理」、「日常生活用具給付等事業」、「移動支援事業」が5%前後であるほかは、全て僅かな利用割合となっています。

今後の利用意向としては、「スポーツ・レクリエーション教室」、「日中一時支援事業」、「生活訓練事業」が高く、3割半ばとなっています。



精神障がい者では、「日中一時支援事業」の13.8%が最も高く、次いで「スポーツ・レクリエーション教室」が11.5%となっており、そのほかのサービスは全て僅かな利用割合となっています。

今後の利用意向としては、「利用したい」という回答が各サービスとも現在の「利用している」割合を上回っています。最も利用意向が高いのは「生活訓練事業」の36.8%で、そのほか「ピアカウンセリング事業」、「日中一時支援事業」、「芸術・文化講座開催等事業」、「スポーツ・レクリエーション教室」もそれぞれ2割を超えています。



29. 相談先

相談先としては、「家族や親せき」という回答が最も高く、身体障がい者、知的障がい者ともに約7割、精神障がい者が6割を占めています。また、3障がいとも「友人・知人」の割合が3割前後で比較的高く、身近な人に相談する傾向が見られます。

そのほか、身体障がい者では「かかりつけの医師や看護師」33.5%(263人)、知的障がい者では「施設の指導員など」が24.6%(115人)で、比較的高くなっています。精神障がい者においては「施設の指導員など」、「かかりつけの医師や看護師」、「相談支援事業所」が4割前後となっています。

相談先

	身体 (785人)	知的 (467人)	精神 (87人)
家族や親せき	71.2% (559人)	70.2% (328人)	63.2% (55人)
友人・知人	29.4% (231人)	25.3% (118人)	36.8% (32人)
近所の人	4.6% (36人)	1.9% (9人)	6.9% (6人)
職場の上司や同僚	4.1% (32人)	7.5% (35人)	19.5% (17人)
施設の指導員など	6.6% (52人)	24.6% (115人)	44.8% (39人)
ホームヘルパーなどサービス事業所の人	6.6% (52人)	12.2% (57人)	13.8% (12人)
障がい者団体や家族会	0.6% (5人)	3.2% (15人)	1.1% (1人)
かかりつけの医師や看護師	33.5% (263人)	15.8% (74人)	39.1% (34人)
病院のケースワーカーや介護保険のケアマネージャー	13.2% (104人)	3.0% (14人)	11.5% (10人)
民生委員・児童委員	1.0% (8人)	0.9% (4人)	1.1% (1人)
保育所、幼稚園、学校の先生	0.8% (6人)	11.8% (55人)	0.0% (0人)
相談支援事業所	2.5% (20人)	18.6% (87人)	37.9% (33人)
行政機関の相談窓口	5.1% (40人)	4.1% (19人)	12.6% (11人)
その他	3.2% (25人)	5.4% (25人)	3.4% (3人)
無回答	10.8% (85人)	10.3% (48人)	4.6% (4人)

年代別に見ると、身体障がい者では各年代で「家族や親せき」の割合が最も高く、次いで10歳未満から50代までは「友人・知人」、60代以上では「かかりつけの医師や看護師」の割合が高くなっています。

相談先（年代別）

身体	10歳未満	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上
回答者実数	4人	9人	10人	10人	41人	90人	203人	213人	194人
家族や親せき	100.0% (4人)	77.8% (7人)	80.0% (8人)	50.0% (5人)	61.0% (25人)	73.3% (66人)	71.4% (145人)	68.5% (146人)	76.3% (148人)
友人・知人	50.0% (2人)	66.7% (6人)	40.0% (4人)	40.0% (4人)	48.8% (20人)	31.1% (28人)	31.0% (63人)	28.6% (61人)	21.1% (41人)
近所の人	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	1.1% (1人)	2.0% (4人)	7.5% (16人)	7.2% (14人)
職場の上司や同僚	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	30.0% (3人)	14.6% (6人)	12.2% (11人)	3.0% (6人)	1.4% (3人)	1.0% (2人)
施設の指導員など	25.0% (1人)	11.1% (1人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	9.8% (4人)	4.4% (4人)	3.0% (6人)	5.2% (11人)	12.9% (25人)
ホームヘルパーなど サービス事業所の人	0.0% (0人)	11.1% (1人)	10.0% (1人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	7.8% (7人)	6.9% (14人)	8.0% (17人)	6.2% (12人)
障がい者団体や家族会	0.0% (0人)	0.0% (0人)	10.0% (1人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.5% (1人)	0.5% (1人)	1.0% (2人)
かかりつけの医師や 看護師	50.0% (2人)	11.1% (1人)	10.0% (1人)	20.0% (2人)	34.1% (14人)	28.9% (26人)	35.5% (72人)	37.1% (79人)	32.5% (63人)
病院のケースワーカーや介 護保険のケアマネージャー	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	9.8% (4人)	8.9% (8人)	9.9% (20人)	16.9% (36人)	18.0% (35人)
民生委員・児童委員	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	2.2% (2人)	1.5% (3人)	0.9% (2人)	0.5% (1人)
保育所、幼稚園、学校の 先生	25.0% (1人)	55.6% (5人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
相談支援事業所	25.0% (1人)	0.0% (0人)	10.0% (1人)	10.0% (1人)	4.9% (2人)	3.3% (3人)	3.9% (8人)	0.5% (1人)	1.5% (3人)
行政機関の相談窓口	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	2.4% (1人)	3.3% (3人)	6.4% (13人)	5.2% (11人)	6.2% (12人)
その他	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	9.8% (4人)	3.3% (3人)	2.5% (5人)	2.8% (6人)	3.1% (6人)
無回答	0.0% (0人)	11.1% (1人)	0.0% (0人)	20.0% (2人)	4.9% (2人)	7.8% (7人)	9.9% (20人)	12.2% (26人)	11.9% (23人)

知的障がい者においても、各年代で「家族や親せき」の割合が最も高くなっています。

そのほか、10歳未満では「かかりつけの医師や看護師」、「保育所、幼稚園、学校の先生」の割合が40%～50%台と高く、10代、20代では「友人・知人」がともに30%台、30代以上では「施設の指導員など」が比較的高い割合となっています。

知的	10歳未満	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上
回答者実数	40人	117人	87人	94人	54人	39人	24人	4人	2人
家族や親せき	90.0% (36人)	78.6% (92人)	71.3% (62人)	64.9% (61人)	64.8% (35人)	59.0% (23人)	58.3% (14人)	50.0% (2人)	50.0% (1人)
友人・知人	32.5% (13人)	32.5% (38人)	32.2% (28人)	18.1% (17人)	22.2% (12人)	15.4% (6人)	8.3% (2人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
近所の人	0.0% (0人)	0.9% (1人)	2.3% (2人)	0.0% (0人)	3.7% (2人)	5.1% (2人)	8.3% (2人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
職場の上司や同僚	2.5% (1人)	1.7% (2人)	12.6% (11人)	9.6% (9人)	16.7% (9人)	7.7% (3人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
施設の指導員など	27.5% (11人)	17.9% (21人)	26.4% (23人)	28.7% (27人)	24.1% (13人)	33.3% (13人)	16.7% (4人)	50.0% (2人)	0.0% (0人)
ホームヘルパーなど サービス事業所の人	17.5% (7人)	12.8% (15人)	16.1% (14人)	4.3% (4人)	11.1% (6人)	17.9% (7人)	16.7% (4人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
障がい者団体や家族会	10.0% (4人)	1.7% (2人)	2.3% (2人)	1.1% (1人)	7.4% (4人)	2.6% (1人)	0.0% (0人)	25.0% (1人)	0.0% (0人)
かかりつけの医師や 看護師	42.5% (17人)	12.0% (14人)	16.1% (14人)	16.0% (15人)	7.4% (4人)	15.4% (6人)	16.7% (4人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
病院のケースワーカーや介 護保険のケアマネージャー	10.0% (4人)	2.6% (3人)	1.1% (1人)	4.3% (4人)	0.0% (0人)	2.6% (1人)	4.2% (1人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
民生委員・児童委員	0.0% (0人)	0.9% (1人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	3.7% (2人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	25.0% (1人)	0.0% (0人)
保育所、幼稚園、学校 の先生	55.0% (22人)	27.4% (32人)	1.1% (1人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
相談支援事業所	30.0% (12人)	17.9% (21人)	23.0% (20人)	17.0% (16人)	16.7% (9人)	15.4% (6人)	12.5% (3人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
行政機関の相談窓口	7.5% (3人)	5.1% (6人)	3.4% (3人)	2.1% (2人)	3.7% (2人)	5.1% (2人)	4.2% (1人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
その他	2.5% (1人)	6.8% (8人)	5.7% (5人)	6.4% (6人)	3.7% (2人)	5.1% (2人)	4.2% (1人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
無回答	2.5% (1人)	8.5% (10人)	9.2% (8人)	12.8% (12人)	9.3% (5人)	12.8% (5人)	12.5% (3人)	25.0% (1人)	50.0% (1人)

精神障がい者においても、各年代で「家族や親せき」の割合が高くなっています。そのほか、30代では「友人・知人」、「職場の上司や同僚」の割合が高く、40代では「友人・知人」、「相談支援事業所」、50代と60代ではともに「施設の指導員など」がそれぞれ2番目に高い割合となっています。

精神	10歳未満	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上
回答者実数	0人	0人	4人	8人	24人	28人	22人	1人	0人
家族や親せき	0.0% (0人)	0.0% (0人)	75.0% (3人)	75.0% (6人)	83.3% (20人)	50.0% (14人)	50.0% (11人)	100.0% (1人)	0.0% (0人)
友人・知人	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	75.0% (6人)	50.0% (12人)	32.1% (9人)	22.7% (5人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
近所の人	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	8.3% (2人)	7.1% (2人)	9.1% (2人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
職場の上司や同僚	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	62.5% (5人)	12.5% (3人)	21.4% (6人)	13.6% (3人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
施設の指導員など	0.0% (0人)	0.0% (0人)	25.0% (1人)	37.5% (3人)	37.5% (9人)	50.0% (14人)	50.0% (11人)	100.0% (1人)	0.0% (0人)
ホームヘルパーなど サービス事業所の人	0.0% (0人)	0.0% (0人)	25.0% (1人)	0.0% (0人)	12.5% (3人)	7.1% (2人)	27.3% (6人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
障がい者団体や家族会	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	3.6% (1人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
かかりつけの医師や 看護師	0.0% (0人)	0.0% (0人)	75.0% (3人)	37.5% (3人)	45.8% (11人)	39.3% (11人)	27.3% (6人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
病院のケースワーカーや介 護保険のケアマネージャー	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	12.5% (1人)	16.7% (4人)	17.9% (5人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
民生委員・児童委員	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	4.2% (1人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
保育所、幼稚園、学校 の先生	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
相談支援事業所	0.0% (0人)	0.0% (0人)	50.0% (2人)	12.5% (1人)	50.0% (12人)	35.7% (10人)	31.8% (7人)	100.0% (1人)	0.0% (0人)
行政機関の相談窓口	0.0% (0人)	0.0% (0人)	25.0% (1人)	12.5% (1人)	16.7% (4人)	14.3% (4人)	4.5% (1人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
その他	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	13.6% (3人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
無回答	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	8.3% (2人)	3.6% (1人)	4.5% (1人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)

30. 情報の入手方法

情報の入手方法では、「家族や親戚、友人・知人」という回答が身体障がい者の40.6% (319人)、知的障がい者の44.8% (209人)で、それぞれ4割余りを占めています。一方、精神障がい者では「サービス事業所の人や施設職員」が52.9% (46人)で最も高くなっています。

そのほか、身体障がい者では「本や新聞、雑誌の記事、テレビやラジオのニュース」の39.7% (312人)、知的障がい者では「サービス事業所の人や施設職員」の35.1% (164人)、精神障がい者では「相談支援事業所」の37.9% (33人)も高くなっています。

情報の入手方法

	身体 (785人)	知的 (467人)	精神 (87人)
本や新聞、雑誌の記事、テレビやラジオのニュース	39.7% (312人)	26.8% (125人)	23.0% (20人)
行政機関の広報紙	25.6% (201人)	17.1% (80人)	13.8% (12人)
インターネット	7.9% (62人)	11.3% (53人)	12.6% (11人)
家族や親せき、友人・知人	40.6% (319人)	44.8% (209人)	29.9% (26人)
サービス事業所の人や施設職員	14.0% (110人)	35.1% (164人)	52.9% (46人)
障がい者団体や家族会 (団体の機関誌など)	2.5% (20人)	8.8% (41人)	4.6% (4人)
かかりつけの医師や看護師	26.1% (205人)	12.4% (58人)	21.8% (19人)
病院のケースワーカーや介護保険のケアマネージャー	18.5% (145人)	5.4% (25人)	12.6% (11人)
民生委員・児童委員	1.4% (11人)	1.7% (8人)	1.1% (1人)
保育所、幼稚園、学校の先生	0.5% (4人)	13.1% (61人)	0.0% (0人)
相談支援事業所	2.9% (23人)	23.6% (110人)	37.9% (33人)
行政機関の相談窓口	10.1% (79人)	9.6% (45人)	13.8% (12人)
その他	2.2% (17人)	1.5% (7人)	3.4% (3人)
無回答	12.4% (97人)	11.1% (52人)	2.3% (2人)

性別に見ると、身体障がい者では男女ともに「本や新聞、雑誌の記事、テレビやラジオのニュース」、「家族や親せき、友人・知人」がそれぞれ4割前後と高く、そのほか「行政機関の広報紙」、「かかりつけの医師や看護師」の割合がともに20%台となっています。

知的障がい者では男女ともに「家族や親せき、友人・知人」の割合がそれぞれ40%台と高く、次いで「サービス事業所の人や施設職員」の割合が30%台となっています。

精神障がい者では男女ともに「サービス事業所の人や施設職員」の割合がそれぞれ50%台と高く、次いで「相談支援事業所」の割合が高く、男性で31.9%(15人)、女性で45.0%(18人)となっています。

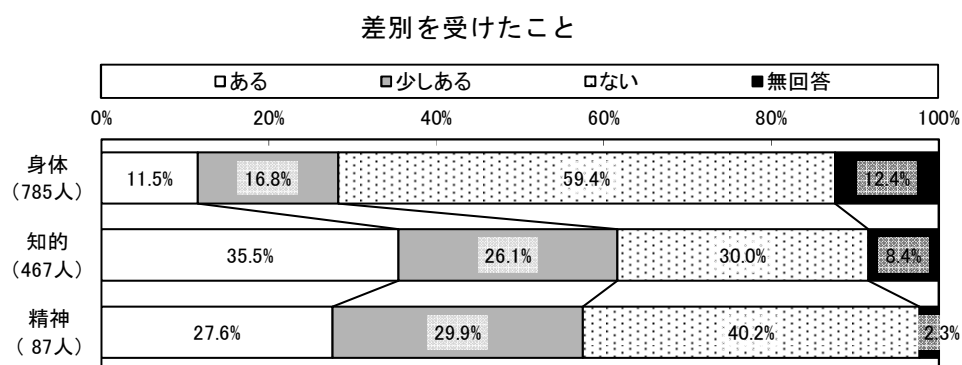
情報の入手方法（性別）

	身体		知的		精神	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性
回答者実数	463人	319人	267人	196人	47人	40人
本や新聞、雑誌の記事、テレビやラジオのニュース	40.2% (186人)	38.6% (123人)	25.5% (68人)	28.6% (56人)	25.5% (12人)	20.0% (8人)
行政機関の広報紙	26.8% (124人)	23.8% (76人)	18.7% (50人)	15.3% (30人)	12.8% (6人)	15.0% (6人)
インターネット	9.5% (44人)	5.6% (18人)	11.6% (31人)	11.2% (22人)	17.0% (8人)	7.5% (3人)
家族や親せき、友人・知人	38.2% (177人)	44.2% (141人)	47.2% (126人)	42.3% (83人)	29.8% (14人)	30.0% (12人)
サービス事業所の人や施設職員	12.7% (59人)	15.7% (50人)	37.8% (101人)	31.6% (62人)	55.3% (26人)	50.0% (20人)
障がい者団体や家族会（団体の機関誌など）	1.9% (9人)	3.4% (11人)	9.7% (26人)	7.7% (15人)	6.4% (3人)	2.5% (1人)
かかりつけの医師や看護師	26.3% (122人)	25.4% (81人)	10.1% (27人)	15.8% (31人)	14.9% (7人)	30.0% (12人)
病院のケースワーカーや介護保険のケアマネージャー	19.0% (88人)	17.9% (57人)	5.6% (15人)	5.1% (10人)	14.9% (7人)	10.0% (4人)
民生委員・児童委員	1.9% (9人)	0.6% (2人)	1.1% (3人)	2.6% (5人)	0.0% (0人)	2.5% (1人)
保育所、幼稚園、学校の先生	0.2% (1人)	0.9% (3人)	12.4% (33人)	14.3% (28人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
相談支援事業所	4.3% (20人)	0.9% (3人)	23.2% (62人)	24.5% (48人)	31.9% (15人)	45.0% (18人)
行政機関の相談窓口	10.8% (50人)	9.1% (29人)	7.9% (21人)	12.2% (24人)	12.8% (6人)	15.0% (6人)
その他	2.2% (10人)	2.2% (7人)	1.9% (5人)	1.0% (2人)	2.1% (1人)	5.0% (2人)
無回答	12.7% (59人)	11.9% (38人)	10.9% (29人)	10.7% (21人)	0.0% (0人)	5.0% (2人)

31. 差別を受けたこと

身体障がい者では約3割、知的障がい者では6割余り、精神障がい者では6割近くが差別を経験しています。

身体障がい者に比べて、知的障がい者と精神障がい者で差別を感じている割合が非常に高く、知的障がい、精神障がいについての理解等が必要です。



年代別に見ると、身体障がい者では10代と30代の約8割の方が「ある」または「少しある」と答えています。また、20代、40代では約5割、50代では約4割の方が「ある」または「少しある」と答えています。一方、60代以上では「ない」と答えた方が6割以上を占めています。

差別を受けたこと（年代別）

身体	10歳未満	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上
回答者実数	4人	9人	10人	10人	41人	90人	203人	213人	194人
ある	0.0% (0人)	55.6% (5人)	30.0% (3人)	40.0% (4人)	22.0% (9人)	15.6% (14人)	10.3% (21人)	9.4% (20人)	6.7% (13人)
少しある	50.0% (2人)	22.2% (2人)	20.0% (2人)	40.0% (4人)	26.8% (11人)	25.6% (23人)	17.2% (35人)	17.4% (37人)	7.2% (14人)
ない	50.0% (2人)	11.1% (1人)	50.0% (5人)	20.0% (2人)	46.3% (19人)	48.9% (44人)	61.6% (125人)	61.5% (131人)	68.6% (133人)
無回答	0.0% (0人)	11.1% (1人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	4.9% (2人)	10.0% (9人)	10.8% (22人)	11.7% (25人)	17.5% (34人)

知的障がい者では、「ある」または「少しある」と答えた方は10歳未満から30代までの各年代に約6割います。また、40代、50代では約5割、60代では約4割の方が「ある」または「少しある」と答えています。

知的	10歳未満	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上
回答者実数	40人	117人	87人	94人	54人	39人	24人	4人	2人
ある	27.5% (11人)	40.2% (47人)	42.5% (37人)	41.5% (39人)	29.6% (16人)	15.4% (6人)	25.0% (6人)	25.0% (1人)	100.0% (2人)
少しある	30.0% (12人)	25.6% (30人)	21.8% (19人)	25.5% (24人)	25.9% (14人)	38.5% (15人)	20.8% (5人)	50.0% (2人)	0.0% (0人)
ない	42.5% (17人)	27.4% (32人)	24.1% (21人)	28.7% (27人)	33.3% (18人)	30.8% (12人)	41.7% (10人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
無回答	0.0% (0人)	6.8% (8人)	11.5% (10人)	4.3% (4人)	11.1% (6人)	15.4% (6人)	12.5% (3人)	25.0% (1人)	0.0% (0人)

精神障がい者では、「ある」または「少しある」と答えた方は30代から60代までの各年代に5割～6割います。

精神	10歳未満	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上
回答者実数	0人	0人	4人	8人	24人	28人	22人	1人	0人
ある	0.0% (0人)	0.0% (0人)	50.0% (2人)	37.5% (3人)	8.3% (2人)	28.6% (8人)	40.9% (9人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
少しある	0.0% (0人)	0.0% (0人)	25.0% (1人)	12.5% (1人)	50.0% (12人)	32.1% (9人)	13.6% (3人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
ない	0.0% (0人)	0.0% (0人)	25.0% (1人)	50.0% (4人)	37.5% (9人)	35.7% (10人)	45.5% (10人)	100.0% (1人)	0.0% (0人)
無回答	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	4.2% (1人)	3.6% (1人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)

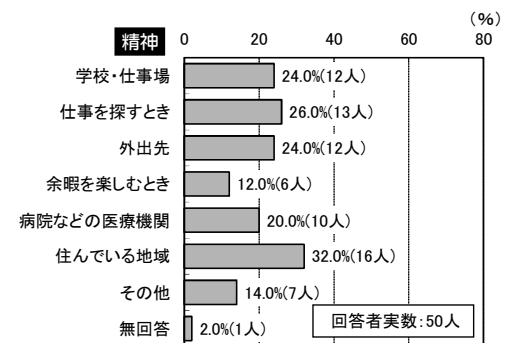
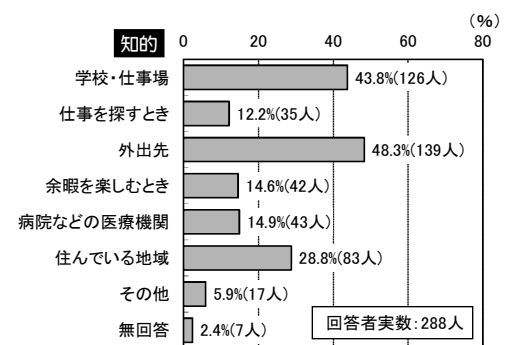
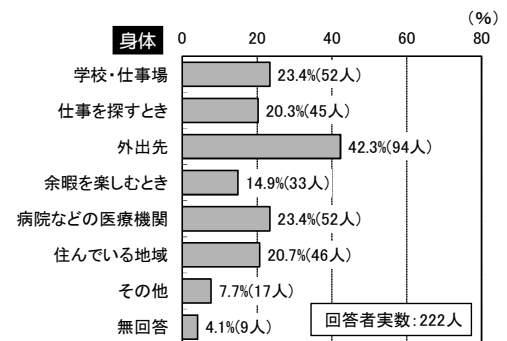
32. 差別を受けた場所

差別を経験した人に対して、差別を受けた場所を尋ねました。

差別を受けたのは「外出先」が身体障がい者で42.3%(94人)、知的障がい者で48.3%(139人)とそれぞれ5割程度を占めています。また知的障がい者では「学校・仕事場」という回答も43.8%(126人)を超えており、外出先と同程度の割合となっています。

一方、精神障がい者では「住んでいる地域」が32.0%(16人)で最も高く、そのほか「学校・仕事場」、「仕事を探すとき」、「外出先」、「病院などの医療機関」と答えた方がそれぞれ20%台と比較的高い割合となっています。

差別を受けた場所



性別に見ると、身体障がい者、知的障がい者では男女ともに「外出先」の割合がそれぞれ最も高くなっています。また、知的障がい者では男女とも「学校・仕事場」も4割半ばで比較的高い割合となっています。一方、精神障がい者では、「住んでいる地域」の割合が男女とも3割前後と高く、また、男性では「学校・仕事場」、女性においては「仕事を探すとき」の割合もそれぞれ約3割を占めています。

差別を受けた場所（性別）

	身体		知的		精神	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性
回答者実数	128人	93人	178人	107人	23人	27人
学校・仕事場	23.4% (30人)	23.7% (22人)	43.8% (78人)	44.9% (48人)	30.4% (7人)	18.5% (5人)
仕事を探すとき	19.5% (25人)	21.5% (20人)	12.9% (23人)	11.2% (12人)	21.7% (5人)	29.6% (8人)
外出先	38.3% (49人)	48.4% (45人)	50.0% (89人)	46.7% (50人)	21.7% (5人)	25.9% (7人)
余暇を楽しむとき	14.8% (19人)	15.1% (14人)	14.6% (26人)	15.0% (16人)	17.4% (4人)	7.4% (2人)
病院などの医療機関	25.0% (32人)	21.5% (20人)	14.0% (25人)	16.8% (18人)	17.4% (4人)	22.2% (6人)
住んでいる地域	18.8% (24人)	23.7% (22人)	34.3% (61人)	19.6% (21人)	34.8% (8人)	29.6% (8人)
その他	7.8% (10人)	7.5% (7人)	5.1% (9人)	6.5% (7人)	17.4% (4人)	11.1% (3人)
無回答	3.1% (4人)	4.3% (4人)	1.7% (3人)	2.8% (3人)	0.0% (0人)	3.7% (1人)

年代別に見ると、身体障がい者では30代まで「学校・仕事場」の割合が比較的高く、40代以上では「外出先」が比較的高い割合となっています。なお、40代では「仕事を探すとき」が45.0%で最も高くなっています。

差別を受けた場所（年代別）

身体	10歳未満	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上
回答者実数	2人	7人	5人	8人	20人	37人	56人	57人	27人
学校・仕事場	50.0% (1人)	57.1% (4人)	60.0% (3人)	87.5% (7人)	20.0% (4人)	37.8% (14人)	19.6% (11人)	10.5% (6人)	3.7% (1人)
仕事を探すとき	0.0% (0人)	14.3% (1人)	40.0% (2人)	50.0% (4人)	45.0% (9人)	24.3% (9人)	17.9% (10人)	17.5% (10人)	0.0% (0人)
外出先	100.0% (2人)	57.1% (4人)	40.0% (2人)	25.0% (2人)	40.0% (8人)	37.8% (14人)	39.3% (22人)	56.1% (32人)	25.9% (7人)
余暇を楽しむとき	0.0% (0人)	14.3% (1人)	20.0% (1人)	12.5% (1人)	15.0% (3人)	10.8% (4人)	14.3% (8人)	14.0% (8人)	25.9% (7人)
病院などの医療機関	50.0% (1人)	0.0% (0人)	40.0% (2人)	12.5% (1人)	35.0% (7人)	13.5% (5人)	19.6% (11人)	31.6% (18人)	25.9% (7人)
住んでいる地域	0.0% (0人)	14.3% (1人)	20.0% (1人)	12.5% (1人)	10.0% (2人)	16.2% (6人)	16.1% (9人)	29.8% (17人)	33.3% (9人)
その他	0.0% (0人)	14.3% (1人)	20.0% (1人)	0.0% (0人)	5.0% (1人)	5.4% (2人)	12.5% (7人)	1.8% (1人)	14.8% (4人)
無回答	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	2.7% (1人)	7.1% (4人)	1.8% (1人)	7.4% (2人)

知的障がい者では、各年代で「外出先」の割合が高く、特に10未満から40代では50%前後と半数近くいます。また、10代、20代では「学校・仕事場」の割合も高く、30代から50代にかけては「住んでいる地域」が比較的高い割合となっています。

知的	10歳未満	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上
回答者実数	23人	77人	56人	63人	30人	21人	11人	3人	2人
学校・仕事場	39.1% (9人)	59.7% (46人)	46.4% (26人)	30.2% (19人)	43.3% (13人)	38.1% (8人)	27.3% (3人)	33.3% (1人)	50.0% (1人)
仕事を探すとき	0.0% (0人)	2.6% (2人)	19.6% (11人)	20.6% (13人)	13.3% (4人)	19.0% (4人)	9.1% (1人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
外出先	47.8% (11人)	50.6% (39人)	48.2% (27人)	52.4% (33人)	50.0% (15人)	38.1% (8人)	45.5% (5人)	33.3% (1人)	0.0% (0人)
余暇を楽しむとき	13.0% (3人)	19.5% (15人)	16.1% (9人)	12.7% (8人)	16.7% (5人)	9.5% (2人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
病院などの医療機関	13.0% (3人)	16.9% (13人)	12.5% (7人)	19.0% (12人)	16.7% (5人)	4.8% (1人)	9.1% (1人)	33.3% (1人)	0.0% (0人)
住んでいる地域	8.7% (2人)	23.4% (18人)	17.9% (10人)	39.7% (25人)	40.0% (12人)	42.9% (9人)	27.3% (3人)	66.7% (2人)	50.0% (1人)
その他	8.7% (2人)	2.6% (2人)	8.9% (5人)	7.9% (5人)	3.3% (1人)	0.0% (0人)	9.1% (1人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
無回答	4.3% (1人)	0.0% (0人)	1.8% (1人)	3.2% (2人)	3.3% (1人)	9.5% (2人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)

精神障がい者では、40代の35.7%(5人)が「学校・仕事場」を答えており、50代、60代では「住んでいる地域」と答えた方がそれぞれ最も高い割合となっています。

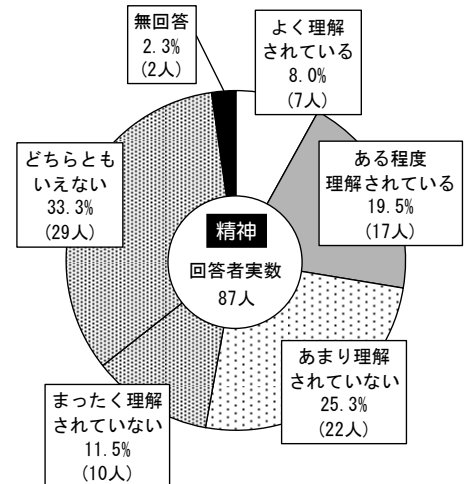
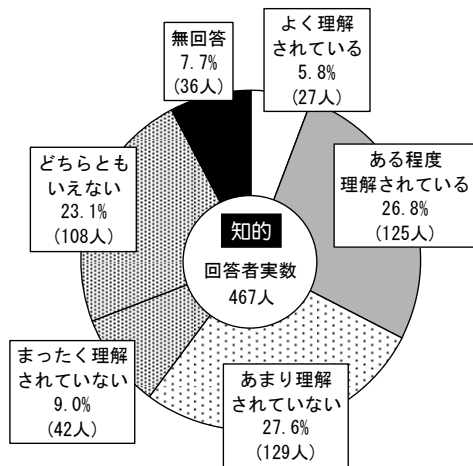
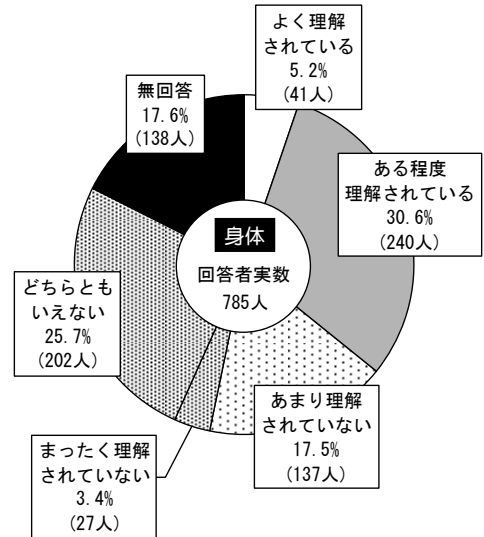
精神	10歳未満	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上
回答者実数	0人	0人	3人	4人	14人	17人	12人	0人	0人
学校・仕事場	0.0% (0人)	0.0% (0人)	33.3% (1人)	50.0% (2人)	35.7% (5人)	23.5% (4人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
仕事を探すとき	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	75.0% (3人)	21.4% (3人)	23.5% (4人)	25.0% (3人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
外出先	0.0% (0人)	0.0% (0人)	33.3% (1人)	50.0% (2人)	14.3% (2人)	29.4% (5人)	16.7% (2人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
余暇を楽しむとき	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	50.0% (2人)	7.1% (1人)	17.6% (3人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
病院などの医療機関	0.0% (0人)	0.0% (0人)	66.7% (2人)	0.0% (0人)	28.6% (4人)	5.9% (1人)	25.0% (3人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
住んでいる地域	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	25.0% (1人)	28.6% (4人)	41.2% (7人)	33.3% (4人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
その他	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	14.3% (2人)	17.6% (3人)	16.7% (2人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
無回答	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	8.3% (1人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)

33. 障がいのある方に対する市民の理解

障がいのある方に対する市民の理解について、どう感じているか尋ねました。

「よく理解されている」または「ある程度理解されている」と答えた方は、身体障がい者が35.8% (281人)、知的障がい者が32.6% (152人)、精神障がい者が27.5% (24人)で、3障がいとも3割程度となっています。

障がいのある方に対する市民の理解



34. 障がい者に対する理解を深めるために必要なこと

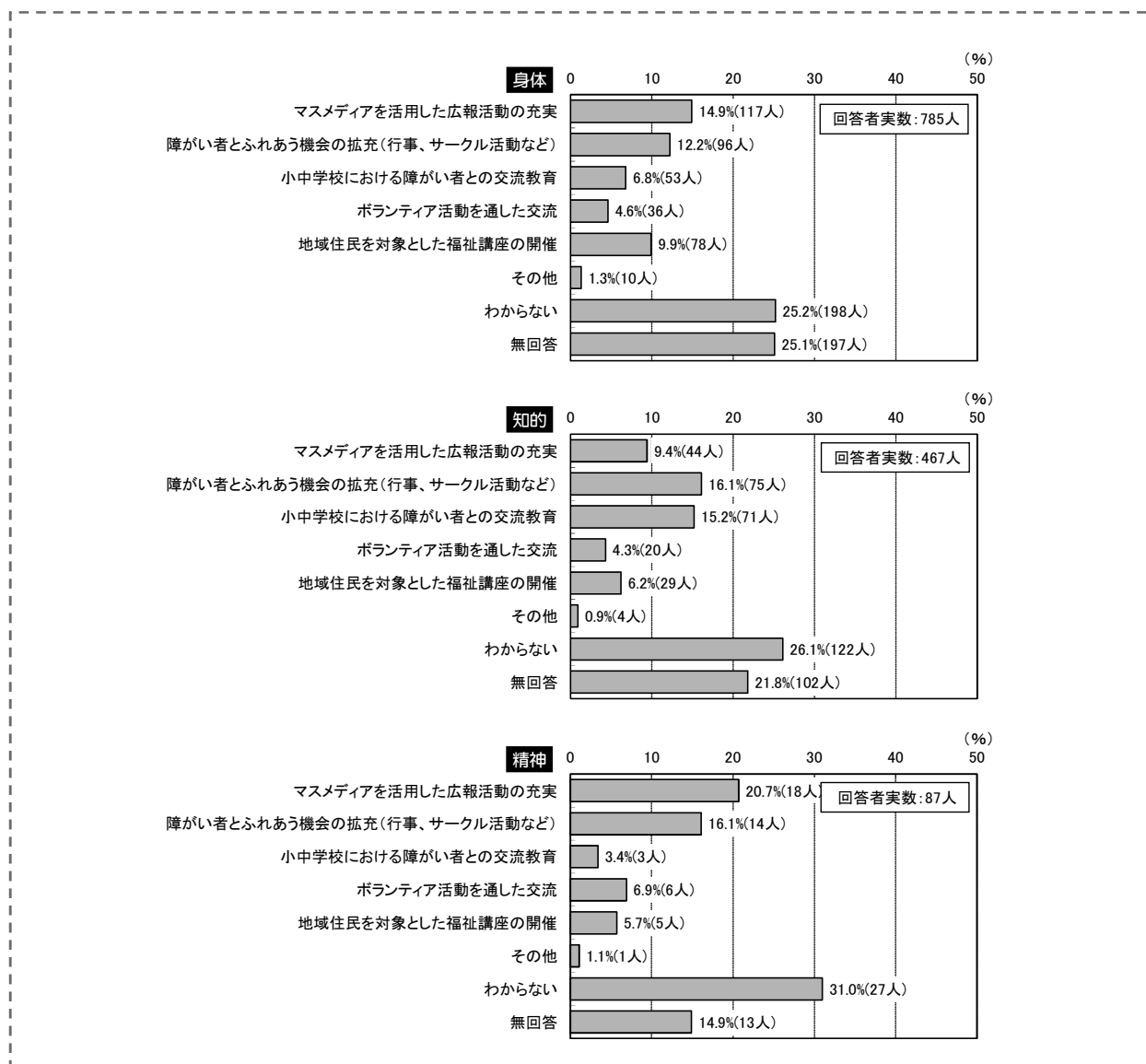
障がい者に対する理解を深めるために必要な取り組みについて尋ねました。

必要な取り組みとして、身体障がい者では「マスメディアを活用した広報活動の充実」が14.9% (117人)で最も高く、次に「障がい者とふれあう機会の拡充(行事、サークル活動など)」が12.2% (96人)、「地域住民を対象とした福祉講座の開催」が9.9% (78人)となっています。

知的障がい者では、「障がい者とふれあう機会の拡充(行事、サークル活動など)」が16.1% (75人)で最も高く、次に「小中学校における障がい者との交流教育」が15.2% (71人)で、この2つが比較的高い割合となっています。

精神障がい者では、「マスメディアを活用した広報活動の充実」が20.7% (18人)と最も高く、次に「障がい者とふれあう機会の提供」が16.1% (14人)となっています。

障がい者に対する理解を深めるために必要なこと

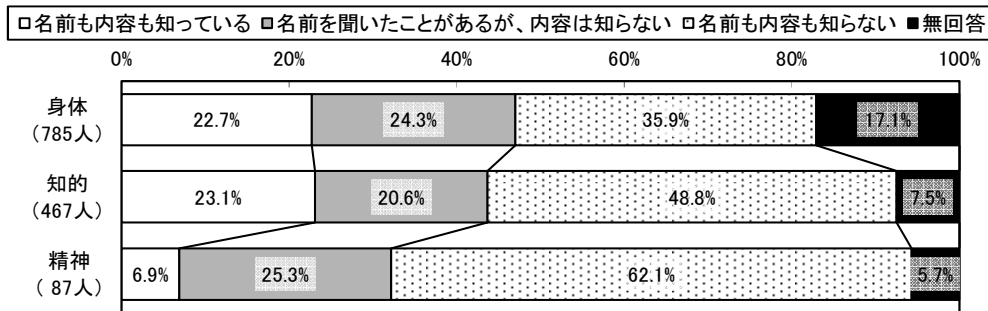


35. 成年後見制度の周知度

成年後見制度を知っている人は、身体障がい者、知的障がい者とも4割半ば、精神障がい者が3割半ばとなっています。

さらに、制度について「名前も内容も知っている」という回答は、身体障がい者(24.3%)、知的障がい者(20.6%)がともに2割余りいますが、精神障がい者においては6.9%で低率となっています。

成年後見制度の周知度



性別に見ると、成年後見制度を知っている人について、身体障がい者では男性よりも女性の割合がわずかに高く、知的障がい者、精神障がい者においては、女性よりも男性の割合が高くなっています。

成年後見制度の周知度（性別）

	身体		知的		精神	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性
回答者実数	463人	319人	267人	196人	47人	40人
名前も内容も知っている	23.5% (109人)	21.6% (69人)	21.0% (56人)	25.5% (50人)	10.6% (5人)	2.5% (1人)
名前を聞いたことがあるが、内容は知らない	23.1% (107人)	26.0% (83人)	24.0% (64人)	15.8% (31人)	25.5% (12人)	25.0% (10人)
名前も内容も知らない	35.6% (165人)	36.7% (117人)	49.1% (131人)	49.5% (97人)	61.7% (29人)	62.5% (25人)
無回答	17.7% (82人)	15.7% (50人)	6.0% (16人)	9.2% (18人)	2.1% (1人)	10.0% (4人)

年代別に見ると、身体障がい者では「名前も内容も知っている」と答えた方は30代が60.0%（6人）、40代以上では各年代2割程度となっています。また、「名前を聞いたことがあるが、内容は知らない」と答えた方は20代、40代、50代が3割程度、60代以上が2割程度となっています。

一方、「名前も内容も知らない」と答えた方の割合は、各年代最も高いものの、年齢とともに概ね低くなっています。

成年後見制度の周知度（年代別）

身体	10歳未満	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上
回答者実数	4人	9人	10人	10人	41人	90人	203人	213人	194人
名前も内容も知っている	0.0% (0人)	11.1% (1人)	10.0% (1人)	60.0% (6人)	22.0% (9人)	24.4% (22人)	26.1% (53人)	23.5% (50人)	18.6% (36人)
名前を聞いたことがあるが、内容は知らない	25.0% (1人)	0.0% (0人)	30.0% (3人)	0.0% (0人)	31.7% (13人)	34.4% (31人)	22.7% (46人)	27.2% (58人)	19.6% (38人)
名前も内容も知らない	75.0% (3人)	66.7% (6人)	60.0% (6人)	40.0% (4人)	41.5% (17人)	30.0% (27人)	36.5% (74人)	28.2% (60人)	42.3% (82人)
無回答	0.0% (0人)	22.2% (2人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	4.9% (2人)	11.1% (10人)	14.8% (30人)	21.1% (45人)	19.6% (38人)

知的障がい者では、60代までの全ての年代において、「名前も内容も知らない」の割合が最も高く、特に20代、40代、50代は半数以上、60代では7割を超えています。

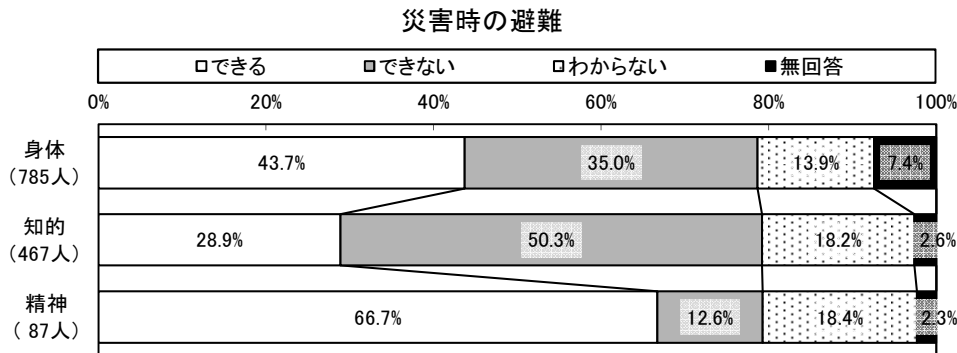
知的	10歳未満	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上
回答者実数	40人	117人	87人	94人	54人	39人	24人	4人	2人
名前も内容も知っている	22.5% (9人)	21.4% (25人)	23.0% (20人)	31.9% (30人)	11.1% (6人)	23.1% (9人)	12.5% (3人)	50.0% (2人)	100.0% (2人)
名前を聞いたことがあるが、内容は知らない	30.0% (12人)	23.1% (27人)	21.8% (19人)	22.3% (21人)	18.5% (10人)	12.8% (5人)	8.3% (2人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
名前も内容も知らない	47.5% (19人)	49.6% (58人)	50.6% (44人)	39.4% (37人)	53.7% (29人)	56.4% (22人)	70.8% (17人)	25.0% (1人)	0.0% (0人)
無回答	0.0% (0人)	6.0% (7人)	4.6% (4人)	6.4% (6人)	16.7% (9人)	7.7% (3人)	8.3% (2人)	25.0% (1人)	0.0% (0人)

精神障がい者では、30代から60代までの5割～6割の方が「名前も内容も知らない」と答えています。

精神	10歳未満	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上
回答者実数	0人	0人	4人	8人	24人	28人	22人	1人	0人
名前も内容も知っている	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	12.5% (1人)	0.0% (0人)	10.7% (3人)	9.1% (2人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
名前を聞いたことがあるが、内容は知らない	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	12.5% (1人)	41.7% (10人)	25.0% (7人)	18.2% (4人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
名前も内容も知らない	0.0% (0人)	0.0% (0人)	100.0% (4人)	62.5% (5人)	58.3% (14人)	53.6% (15人)	68.2% (15人)	100.0% (1人)	0.0% (0人)
無回答	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	12.5% (1人)	0.0% (0人)	10.7% (3人)	4.5% (1人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)

36. 成年後見制度の周知度

災害時に自分で避難「できる」という回答は、精神障がい者が66.7%、身体障がい者が43.7%、知的障がい者が28.9%となっており、知的障がい者の半数以上が自分で避難「できない」と答えています。



年代別に見ると、身体障がい者では自分で避難「できる」と答えた方は20代から70代までは4割～6割程度います。一方、10歳未満、10代、80代以上においては、自分で避難「できない」と答えた方がそれぞれ半数以上を占めています。

災害時の避難（年代別）

身体	10歳未満	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上
回答者実数	4人	9人	10人	10人	41人	90人	203人	213人	194人
できる	25.0% (1人)	22.2% (2人)	40.0% (4人)	50.0% (5人)	63.4% (26人)	43.3% (39人)	56.2% (114人)	44.1% (94人)	28.4% (55人)
できない	75.0% (3人)	55.6% (5人)	40.0% (4人)	20.0% (2人)	22.0% (9人)	24.4% (22人)	28.1% (57人)	34.7% (74人)	50.0% (97人)
わからない	0.0% (0人)	0.0% (0人)	20.0% (2人)	30.0% (3人)	12.2% (5人)	26.7% (24人)	11.8% (24人)	11.3% (24人)	13.4% (26人)
無回答	0.0% (0人)	22.2% (2人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	2.4% (1人)	5.6% (5人)	3.9% (8人)	9.9% (21人)	8.2% (16人)

知的障がい者では、30代まで自分で避難「できない」と答えた方の割合が高く、40代以上では自分で避難「できる」と答えた方の割合が高くなっています。

知的	10歳未満	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上
回答者実数	40人	117人	87人	94人	54人	39人	24人	4人	2人
できる	2.5% (1人)	25.6% (30人)	27.6% (24人)	34.0% (32人)	38.9% (21人)	33.3% (13人)	41.7% (10人)	0.0% (0人)	50.0% (1人)
できない	90.0% (36人)	56.4% (66人)	48.3% (42人)	47.9% (45人)	37.0% (20人)	33.3% (13人)	37.5% (9人)	75.0% (3人)	0.0% (0人)
わからない	7.5% (3人)	16.2% (19人)	20.7% (18人)	18.1% (17人)	20.4% (11人)	28.2% (11人)	16.7% (4人)	0.0% (0人)	50.0% (1人)
無回答	0.0% (0人)	1.7% (2人)	3.4% (3人)	0.0% (0人)	3.7% (2人)	5.1% (2人)	4.2% (1人)	25.0% (1人)	0.0% (0人)

精神障がい者では、全ての年代において半数以上の方が、自分で避難「できる」と答えています。

精神	10歳未満	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上
回答者実数	0人	0人	4人	8人	24人	28人	22人	1人	0人
できる	0.0% (0人)	0.0% (0人)	50.0% (2人)	50.0% (4人)	75.0% (18人)	67.9% (19人)	63.6% (14人)	100.0% (1人)	0.0% (0人)
できない	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	12.5% (1人)	8.3% (2人)	10.7% (3人)	22.7% (5人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
わからない	0.0% (0人)	0.0% (0人)	50.0% (2人)	37.5% (3人)	16.7% (4人)	14.3% (4人)	13.6% (3人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
無回答	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	7.1% (2人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)

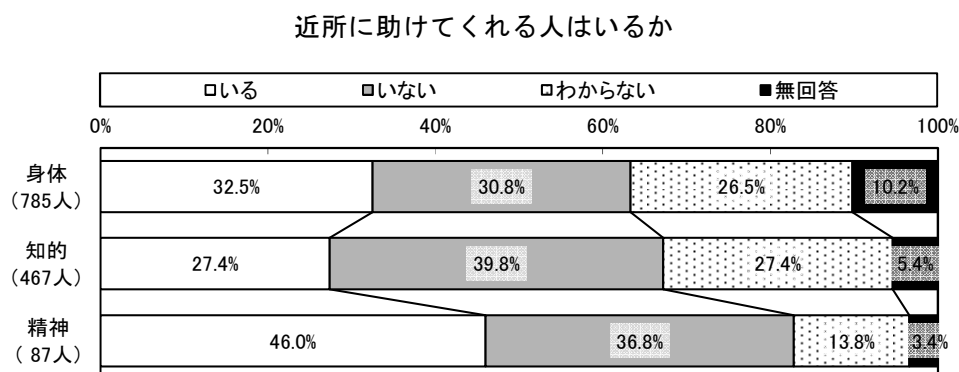
身体障がいの部位別に見ると、自分で避難「できる」と答えた方は、内部障がいで6割半ば、聴覚障がいで3割半ばとなっており、その他の部位では「できない」の方が高くなっています。また、「できない」と答えた方の割合が非常に高いのは、肢体不自由(体幹)で7割半ばを占めているほか、視覚障がい、肢体不自由の上肢、下肢でも4割半ばを占めています。

災害時の避難(身体障がいの部位別)

身体	視覚障がい	聴覚障がい	音声・言語・そしゃく機能障がい	肢体不自由(上肢)	肢体不自由(下肢)	肢体不自由(体幹)	内部障がい(1~6以外)
回答者実数	35人	83人	12人	40人	96人	60人	302人
できる	34.3% (12人)	36.1% (30人)	33.3% (4人)	30.0% (12人)	35.4% (34人)	11.7% (7人)	63.9% (193人)
できない	48.6% (17人)	31.3% (26人)	33.3% (4人)	42.5% (17人)	46.9% (45人)	73.3% (44人)	19.2% (58人)
わからない	14.3% (5人)	25.3% (21人)	25.0% (3人)	22.5% (9人)	13.5% (13人)	10.0% (6人)	10.9% (33人)
無回答	2.9% (1人)	7.2% (6人)	8.3% (1人)	5.0% (2人)	4.2% (4人)	5.0% (3人)	6.0% (18人)

37. 近所に助けてくれる人はいるか

災害時の避難の際に、近所に助けてくれる人がいるか尋ねたところ、「いる」と答えた方は身体障がい者で32.5%、知的障がい者で27.4%、精神障がい者では46.0%となっています。また、「いない」は身体障がい者の30.8%、知的障がい者の39.8%、精神障がい者の36.8%であり、特に知的障がい者では約4割が近所に支援者がいない状況となっています。



地域別に見ると、身体障がい者で「いない」と答えた方は、具志川地域、石川地域、勝連地域に約3割、与那城地域には約2割います。

近所に助けてくれる人はいるか（地域別）

障がい種別	具志川地域	石川地域	勝連地域	与那城地域
回答者実数	467人	144人	78人	92人
いる	32.5% (152人)	28.5% (41人)	38.5% (30人)	34.8% (32人)
いない	31.3% (146人)	33.3% (48人)	33.3% (26人)	23.9% (22人)
わからない	25.1% (117人)	29.9% (43人)	21.8% (17人)	31.5% (29人)
無回答	11.1% (52人)	8.3% (12人)	6.4% (5人)	9.8% (9人)

知的障がい者で「いない」と答えた方は、具志川地域、与那城地域に約4割、石川地域、勝連地域に約3割います。

障がい種別	具志川地域	石川地域	勝連地域	与那城地域
回答者実数	276人	80人	54人	53人
いる	27.5% (76人)	22.5% (18人)	33.3% (18人)	26.4% (14人)
いない	42.0% (116人)	36.3% (29人)	31.5% (17人)	41.5% (22人)
わからない	26.1% (72人)	36.3% (29人)	25.9% (14人)	24.5% (13人)
無回答	4.3% (12人)	5.0% (4人)	9.3% (5人)	7.5% (4人)

精神障がい者で「いない」と答えた方は、石川地域、勝連地域に約5割います。そのほか、具志川地域が37.2%(16人)、与那城地域が19.0%(4人)となっています。

精神	具志川地域	石川地域	勝連地域	与那城地域
回答者実数	43人	12人	9人	21人
いる	46.5% (20人)	33.3% (4人)	33.3% (3人)	57.1% (12人)
いない	37.2% (16人)	58.3% (7人)	55.6% (5人)	19.0% (4人)
わからない	14.0% (6人)	8.3% (1人)	11.1% (1人)	14.3% (3人)
無回答	2.3% (1人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	9.5% (2人)

現在の暮らし別に見ると、身体障がい者で「いない」と答えた方は、一人で暮らしている人、家族と暮らしている人、グループホームで暮らしている人それぞれ3割余りを占めています。

近所に助けてくれる人はいるか(暮らしの状況別)

身体	一人で暮らしている	家族と暮らしている	グループホームで暮らしている	病院に入院している	その他
回答者実数	135人	560人	21人	25人	31人
いる	34.1% (46人)	33.8% (189人)	19.0% (4人)	8.0% (2人)	35.5% (11人)
いない	32.6% (44人)	30.7% (172人)	38.1% (8人)	28.0% (7人)	25.8% (8人)
わからない	27.4% (37人)	25.7% (144人)	23.8% (5人)	32.0% (8人)	32.3% (10人)
無回答	5.9% (8人)	9.8% (55人)	19.0% (4人)	32.0% (8人)	6.5% (2人)

知的障がい者で「いない」と答えた方は一人で暮らしている人、家族と暮らしている人がそれぞれ約4割を占めています。

知的	一人で暮らしている	家族と暮らしている	グループホームで暮らしている	病院に入院している	その他
回答者実数	18人	415人	16人	5人	8人
いる	38.9% (7人)	26.5% (110人)	43.8% (7人)	20.0% (1人)	25.0% (2人)
いない	38.9% (7人)	41.4% (172人)	12.5% (2人)	20.0% (1人)	37.5% (3人)
わからない	22.2% (4人)	26.7% (111人)	43.8% (7人)	20.0% (1人)	37.5% (3人)
無回答	0.0% (0人)	5.3% (22人)	0.0% (0人)	40.0% (2人)	0.0% (0人)

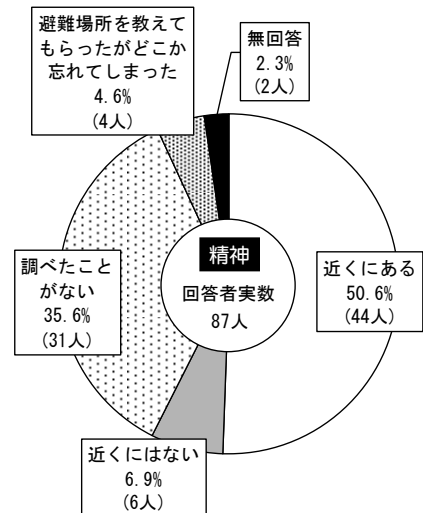
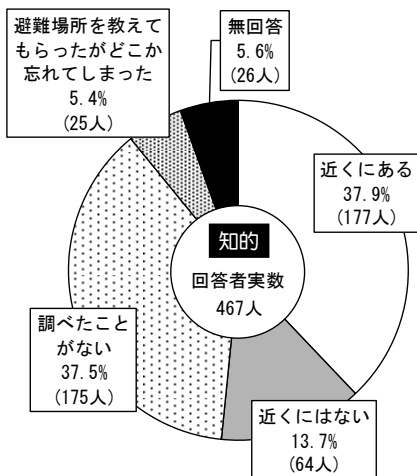
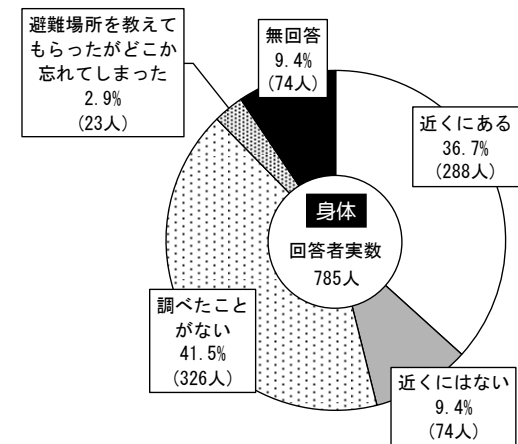
精神障がい者で「いない」と答えた方は、「家族と暮らしている」が40.4%(21人)、「一人で暮らしている」が35.7%(10人)となっています。

精神	一人で暮らしている	家族と暮らしている	グループホームで暮らしている	病院に入院している	その他
回答者実数	28人	52人	4人	0人	3人
いる	46.4% (13人)	44.2% (23人)	75.0% (3人)	0.0% (0人)	33.3% (1人)
いない	35.7% (10人)	40.4% (21人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	33.3% (1人)
わからない	14.3% (4人)	15.4% (8人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
無回答	3.6% (1人)	0.0% (0人)	25.0% (1人)	0.0% (0人)	33.3% (1人)

38. 災害時に避難する場所

災害時に避難する場所について、「近くにある」と答えた方は、精神障がい者では約5割、身体障がい者、知的障がい者ではそれぞれ3割半ばとなっています。

災害時に避難する場所



39. 災害時に困ること

身体障がい者では「投薬や治療が受けられない」という回答が42.3% (332人)で、最も高いです。そのほか、「避難場所の設備(トイレ等)や生活環境が不安」(39.7%/312人)、「安全なところまで、迅速に避難することができない」(38.3%/301人)が高くなっています。

知的障がい者では、「避難場所の設備(トイレ等)や生活環境が不安」の42.2%(197人)、「安全なところまで、迅速に避難することができない」の41.3%(193人)、「周囲とコミュニケーションが取れない」の39.8%(186人)がそれぞれ40%前後で高くなっています。

精神障がい者では、「投薬や治療が受けられない」が50.6%(44人)で最も高く、次いで「避難場所の設備(トイレ等)や生活環境が不安」が39.1%(34人)、「安全なところまで、迅速に避難することができない」が29.9%(26人)となっています。

災害時に困ること

	身体 (785 人)	知的 (467 人)	精神 (87 人)
投薬や治療が受けられない	42.3% (332 人)	20.6% (96 人)	50.6% (44 人)
紙おむつやストマ用品の入手ができなくなる	11.8% (93 人)	12.2% (57 人)	4.6% (4 人)
救助を求めることができない	17.2% (135 人)	31.3% (146 人)	10.3% (9 人)
安全なところまで、迅速に避難することができない	38.3% (301 人)	41.3% (193 人)	29.9% (26 人)
被害状況、避難場所などの情報が入手できない	20.9% (164 人)	32.5% (152 人)	19.5% (17 人)
周囲とコミュニケーションがとれない	13.5% (106 人)	39.8% (186 人)	19.5% (17 人)
避難場所の設備 (トイレ等) や生活環境が不安	39.7% (312 人)	42.2% (197 人)	39.1% (34 人)
停電等で在宅医療機器が使えなくなる	9.0% (71 人)	12.2% (57 人)	8.0% (7 人)
その他	2.0% (16 人)	2.8% (13 人)	1.1% (1 人)
特になし	17.3% (136 人)	17.3% (81 人)	16.1% (14 人)
無回答	12.2% (96 人)	8.4% (39 人)	2.3% (2 人)

性別に見ると、男性では身体障がい者、精神障がい者ともに「投薬や治療が受けられない」の割合が40%を超えており、知的障がい者では「安全なところまで、迅速に避難することができない」、「周囲とコミュニケーションがとれない」、「避難場所の設備(トイレ等)や生活環境が不安」の3項目が40%前後で高い割合となっています。

女性では3障がいとも「避難場所の設備(トイレ等)や生活環境が不安」の割合が最も高くなります。そのほか、身体障がい者、精神障がい者では「投薬や治療が受けられない」、「安全なところまで、迅速に避難することができない」の割合がそれぞれ40%以上と高く、知的障がい者では「安全なところまで、迅速に避難することができない」と「周囲とコミュニケーションがとれない」がそれぞれ約40%で比較的高い割合となっています。

災害時に困ること（性別）

	身体		知的		精神	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性
回答者実数	463人	319人	267人	196人	47人	40人
投薬や治療が受けられない	40.2% (186人)	45.5% (145人)	19.9% (53人)	21.9% (43人)	46.8% (22人)	55.0% (22人)
紙おむつやストマ用品の入手ができなくなる	10.8% (50人)	12.9% (41人)	9.0% (24人)	16.8% (33人)	2.1% (1人)	7.5% (3人)
救助を求めることができない	15.6% (72人)	19.7% (63人)	33.7% (90人)	28.6% (56人)	6.4% (3人)	15.0% (6人)
安全なところまで、迅速に避難することができない	31.5% (146人)	48.3% (154人)	42.7% (114人)	39.8% (78人)	21.3% (10人)	40.0% (16人)
被害状況、避難場所などの情報が入手できない	18.8% (87人)	23.8% (76人)	37.1% (99人)	27.0% (53人)	17.0% (8人)	22.5% (9人)
周囲とコミュニケーションがとれない	11.9% (55人)	16.0% (51人)	41.6% (111人)	38.3% (75人)	14.9% (7人)	25.0% (10人)
避難場所の設備(トイレ等)や生活環境が不安	32.2% (149人)	50.8% (162人)	39.7% (106人)	45.9% (90人)	23.4% (11人)	57.5% (23人)
停電等で在宅医療機器が使えなくなる	8.9% (41人)	9.4% (30人)	11.6% (31人)	13.3% (26人)	8.5% (4人)	7.5% (3人)
その他	1.9% (9人)	2.2% (7人)	3.0% (8人)	2.6% (5人)	2.1% (1人)	0.0% (0人)
特になし	21.0% (97人)	11.9% (38人)	13.9% (37人)	20.9% (41人)	21.3% (10人)	10.0% (4人)
無回答	13.8% (64人)	10.0% (32人)	9.0% (24人)	7.7% (15人)	0.0% (0人)	5.0% (2人)

身体障がいの部位別に見ると、視覚障がい、肢体不自由（上肢、下肢、体幹）では「安全なところまで、迅速に避難することができない」が最も高い割合となっています。また、これら4つの部位では「避難場所の設備（トイレ等）や生活環境が不安」が2番目に高い割合となっています。

聴覚障がいと内部障がいでは、「投薬や治療が受けられない」がそれぞれ最も高く、「避難場所の設備（トイレ等）や生活環境が不安」がともに2番目に高い割合となっています。

音声・言語・そしゃく機能障がいでは、「投薬や治療が受けられない」と「避難場所の設備（トイレ等）や生活環境が不安」がともに33.3%（4人）と最も高くなっています。

災害時に困ること（身体障がいの部位別）

身体	視覚障がい	聴覚障がい	音声・言語・そしゃく機能障がい	肢体不自由（上肢）	肢体不自由（下肢）	肢体不自由（体幹）	内部障がい（1～6以外）
回答者実数	35人	83人	12人	40人	96人	60人	302人
投薬や治療が受けられない	22.9% （8人）	41.0% （34人）	33.3% （4人）	32.5% （13人）	34.4% （33人）	36.7% （22人）	51.0% （154人）
紙おむつやストマ用品の入手ができなくなる	8.6% （3人）	6.0% （5人）	8.3% （1人）	15.0% （6人）	13.5% （13人）	18.3% （11人）	9.9% （30人）
救助を求めることができない	17.1% （6人）	22.9% （19人）	25.0% （3人）	12.5% （5人）	25.0% （24人）	30.0% （18人）	9.9% （30人）
安全なところまで、迅速に避難することができない	51.4% （18人）	33.7% （28人）	25.0% （3人）	47.5% （19人）	55.2% （53人）	60.0% （36人）	26.2% （79人）
被害状況、避難場所などの情報が入手できない	22.9% （8人）	31.3% （26人）	8.3% （1人）	20.0% （8人）	19.8% （19人）	26.7% （16人）	16.9% （51人）
周囲とコミュニケーションがとれない	11.4% （4人）	25.3% （21人）	16.7% （2人）	10.0% （4人）	21.9% （21人）	18.3% （11人）	7.3% （22人）
避難場所の設備（トイレ等）や生活環境が不安	48.6% （17人）	34.9% （29人）	33.3% （4人）	40.0% （16人）	55.2% （53人）	48.3% （29人）	33.1% （100人）
停電等で在宅医療機器が使いなくなる	2.9% （1人）	8.4% （7人）	8.3% （1人）	0.0% （0人）	6.3% （6人）	13.3% （8人）	9.3% （28人）
その他	0.0% （0人）	1.2% （1人）	0.0% （0人）	0.0% （0人）	0.0% （0人）	1.7% （1人）	3.0% （9人）
特になし	31.4% （11人）	14.5% （12人）	25.0% （3人）	17.5% （7人）	16.7% （16人）	13.3% （8人）	19.5% （59人）
無回答	2.9% （1人）	10.8% （9人）	8.3% （1人）	10.0% （4人）	11.5% （11人）	8.3% （5人）	11.6% （35人）

現在の暮らし別に見ると、身体障がい者では、一人で暮らしている人と病院に入院している人とも「安全なところまで、迅速に避難することができない」がそれぞれ40%台と最も高い割合となっています。家族と暮らしている人では、「投薬や治療が受けられない」が44.5% (249人)で最も高く、次に「避難場所の設備(トイレ等)や生活環境が不安」が41.3% (231人)で、この2つが40%を超えています。グループホームで暮らしている人では、「避難場所の設備(トイレ等)や生活環境が不安」が61.9% (13人)と最も高く、次いで「安全なところまで、迅速に避難することができない」が57.1% (12人)となっています。

災害時に困ること（暮らしの状況別）

身体	一人で暮らしている	家族と暮らしている	グループホームで暮らしている	病院に入院している	その他
回答者実数	135人	560人	21人	25人	31人
投薬や治療が受けられない	35.6% (48人)	44.5% (249人)	47.6% (10人)	36.0% (9人)	38.7% (12人)
紙おむつやストマ用品の入手ができなくなる	7.4% (10人)	10.9% (61人)	47.6% (10人)	8.0% (2人)	29.0% (9人)
救助を求めることができない	19.3% (26人)	15.4% (86人)	38.1% (8人)	28.0% (7人)	16.1% (5人)
安全なところまで、迅速に避難することができない	43.0% (58人)	36.3% (203人)	57.1% (12人)	44.0% (11人)	38.7% (12人)
被害状況、避難場所などの情報が入手できない	21.5% (29人)	21.4% (120人)	33.3% (7人)	8.0% (2人)	19.4% (6人)
周囲とコミュニケーションがとれない	16.3% (22人)	11.8% (66人)	23.8% (5人)	32.0% (8人)	9.7% (3人)
避難場所の設備(トイレ等)や生活環境が不安	35.6% (48人)	41.3% (231人)	61.9% (13人)	20.0% (5人)	38.7% (12人)
停電等で在宅医療機器が使えなくなる	5.2% (7人)	10.2% (57人)	0.0% (0人)	16.0% (4人)	9.7% (3人)
その他	6.7% (9人)	1.1% (6人)	0.0% (0人)	4.0% (1人)	0.0% (0人)
特にない	18.5% (25人)	17.3% (97人)	4.8% (1人)	16.0% (4人)	22.6% (7人)
無回答	7.4% (10人)	11.8% (66人)	14.3% (3人)	28.0% (7人)	22.6% (7人)

知的障がい者では、一人で暮らしている人は「投薬や治療が受けられない」が44.4%(8人)で最も高くなっています。家族と暮らしている人では「安全なところまで、迅速に避難することができない」、「周囲とコミュニケーションがとれない」、「避難場所の設備(トイレ等)や生活環境が不安」の3項目が40%台と高い割合となっています。グループホームで暮らしている人については「被害状況、避難場所などの情報が入手できない」が50.0%(8人)と最も高い割合となっています。

知的	一人で暮らしている	家族と暮らしている	グループホームで暮らしている	病院に入院している	その他
回答者実数	18人	415人	16人	5人	8人
投薬や治療が受けられない	44.4% (8人)	19.3% (80人)	25.0% (4人)	20.0% (1人)	37.5% (3人)
紙おむつやストマ用品の入手ができなくなる	16.7% (3人)	11.8% (49人)	6.3% (1人)	40.0% (2人)	25.0% (2人)
救助を求めることができない	5.6% (1人)	32.8% (136人)	25.0% (4人)	20.0% (1人)	37.5% (3人)
安全なところまで、迅速に避難することができない	16.7% (3人)	42.2% (175人)	43.8% (7人)	40.0% (2人)	50.0% (4人)
被害状況、避難場所などの情報が入手できない	11.1% (2人)	33.0% (137人)	50.0% (8人)	20.0% (1人)	37.5% (3人)
周囲とコミュニケーションがとれない	16.7% (3人)	41.7% (173人)	18.8% (3人)	20.0% (1人)	50.0% (4人)
避難場所の設備(トイレ等)や生活環境が不安	22.2% (4人)	42.9% (178人)	37.5% (6人)	20.0% (1人)	75.0% (6人)
停電等で在宅医療機器が使えなくなる	5.6% (1人)	12.5% (52人)	18.8% (3人)	0.0% (0人)	12.5% (1人)
その他	11.1% (2人)	2.4% (10人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
特になし	16.7% (3人)	18.1% (75人)	12.5% (2人)	0.0% (0人)	12.5% (1人)
無回答	5.6% (1人)	7.5% (31人)	12.5% (2人)	40.0% (2人)	0.0% (0人)

精神障がい者では、一人で暮らしている人と家族と暮らしている人はともに「投薬や治療が受けられない」の割合が最も高くなっています。

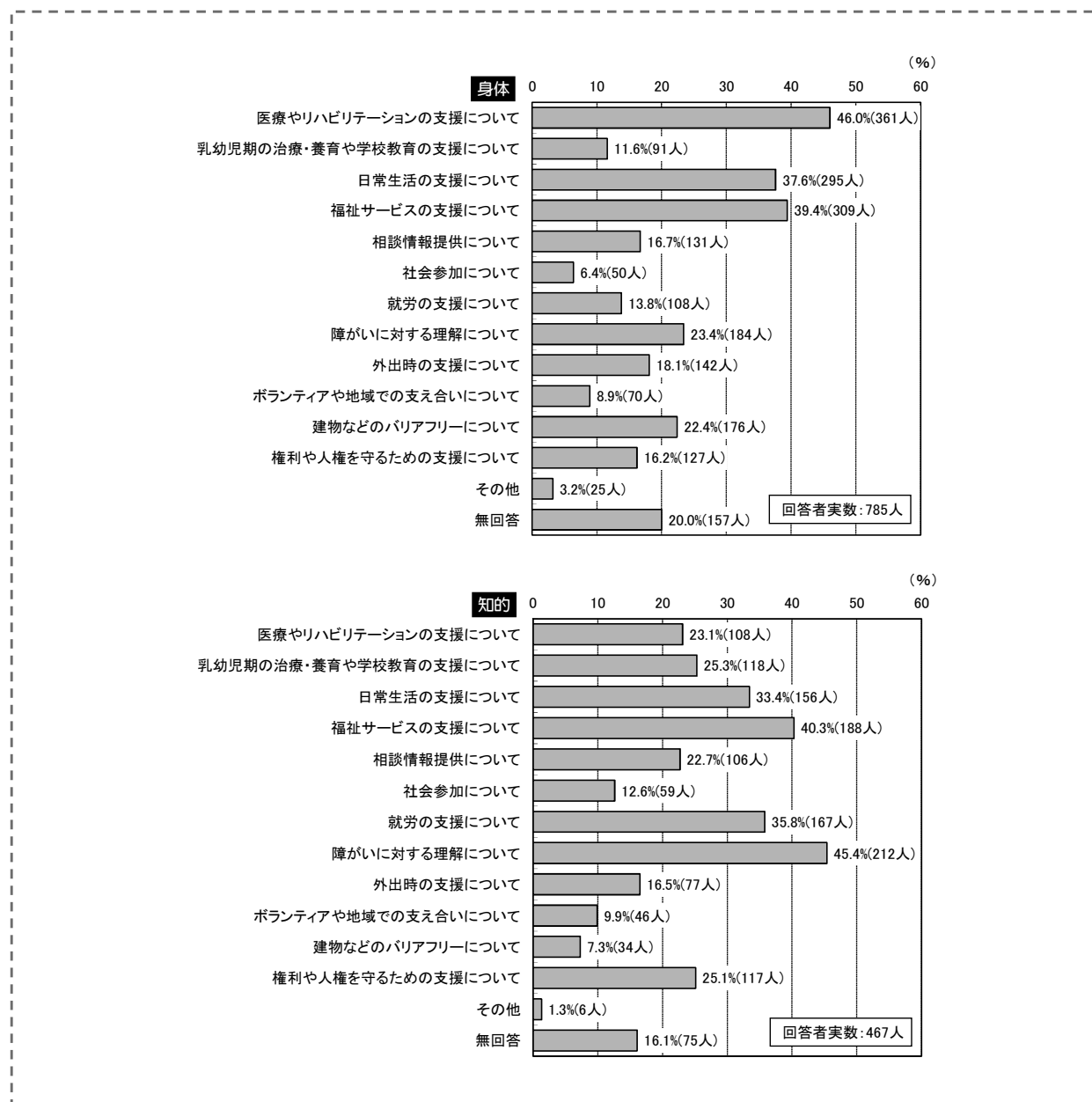
精神	一人で暮らしている	家族と暮らしている	グループホームで暮らしている	病院に入院している	その他
回答者実数	28人	52人	4人	0人	3人
投薬や治療が受けられない	42.9% (12人)	57.7% (30人)	25.0% (1人)	0.0% (0人)	33.3% (1人)
紙おむつやストマ用品の入手ができなくなる	7.1% (2人)	3.8% (2人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
救助を求めることができない	7.1% (2人)	11.5% (6人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	33.3% (1人)
安全なところまで、迅速に避難することができない	28.6% (8人)	30.8% (16人)	25.0% (1人)	0.0% (0人)	33.3% (1人)
被害状況、避難場所などの情報が入手できない	17.9% (5人)	21.2% (11人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	33.3% (1人)
周囲とコミュニケーションがとれない	17.9% (5人)	19.2% (10人)	25.0% (1人)	0.0% (0人)	33.3% (1人)
避難場所の設備(トイレ等)や生活環境が不安	21.4% (6人)	44.2% (23人)	75.0% (3人)	0.0% (0人)	66.7% (2人)
停電等で在宅医療機器が使えなくなる	7.1% (2人)	7.7% (4人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	33.3% (1人)
その他	3.6% (1人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
特になし	21.4% (6人)	13.5% (7人)	25.0% (1人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
無回答	3.6% (1人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	33.3% (1人)

40. 障がい者施策として力を入れてほしいこと

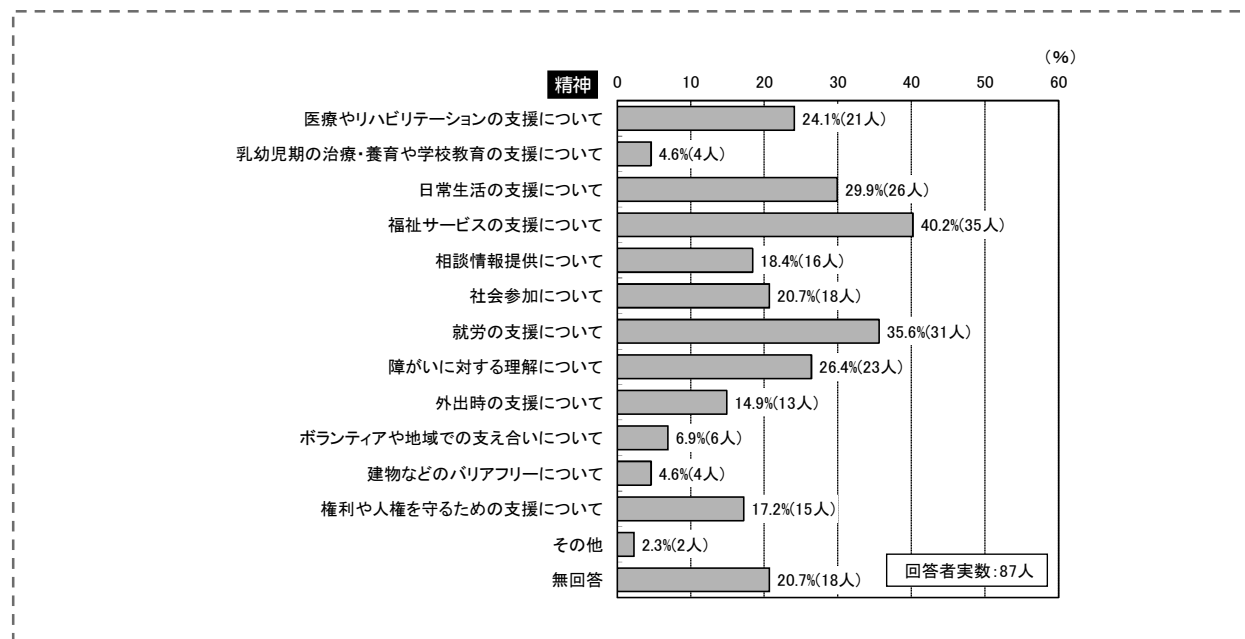
障がい者施策として力を入れてほしいこととして、身体障がい者では「医療やリハビリテーションの支援について」が46.0% (361人)と最も高くなります。次に「福祉サービスの支援について」が39.4% (309人)、「日常生活の支援について」が37.6% (295人)となっています。

知的障がい者では、「障がいに対する理解について」が45.4% (212人)で最も高くなります。続いて、「福祉サービスの支援について」が40.3% (188人)、「就労の支援について」が35.8% (167人)、「日常生活の支援について」が33.4% (156人)となっています。

障がい者施策として力を入れてほしいこと



精神障がい者では、「福祉サービスの支援について」が40.2% (35人)で最も高く、次に「就労の支援について」が35.6% (31人)となります。そのほか、「医療やリハビリテーションの支援について」、「日常生活の支援について」、「社会参加について」、「障がいに対する理解について」の4項目がそれぞれ20%台と比較的高い割合となっています。



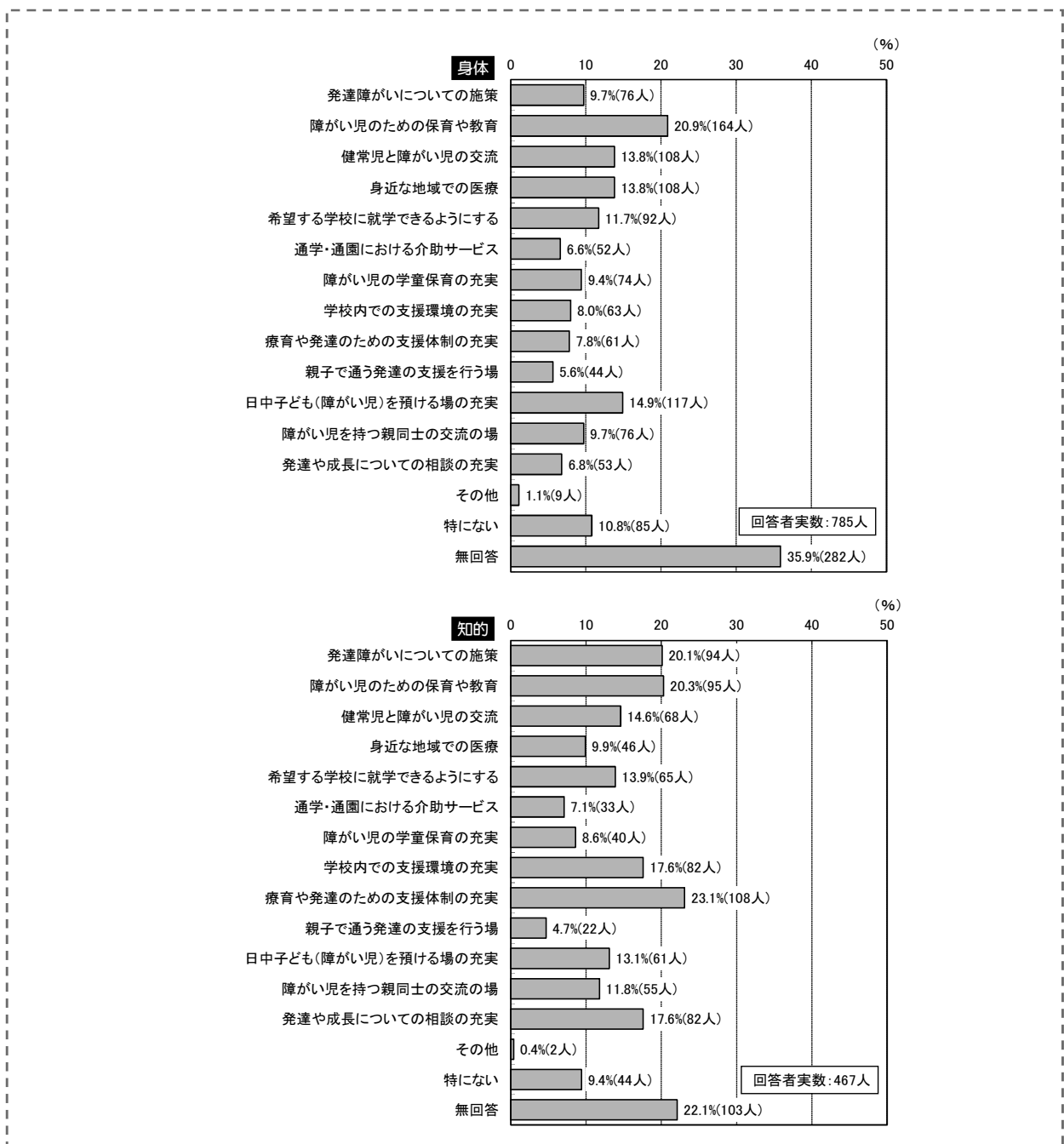
41. 障がい児向けの施策やサービスで特に充実が必要と思われるもの

障がい児向けの施策やサービスについて、特に充実が必要と思われるものを尋ねました。

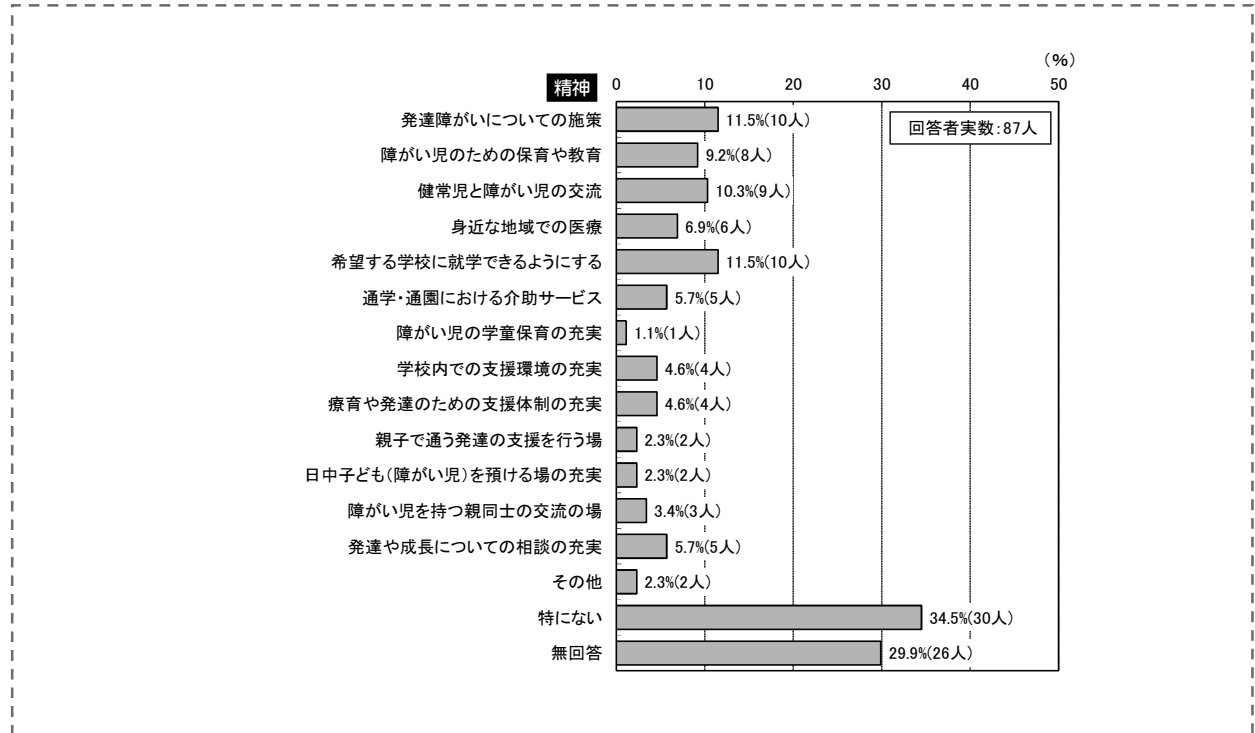
身体障がい者では、53.3% (418人)が必要と思われる施策やサービスについて答えており、特に「障がい児のための保育や教育」が20.9% (164人)で最も高く、次いで「日中子ども(障がい児)を預ける場の充実」が14.9% (117人)となっています。

知的障がい者では、68.5% (320人)が必要と思われる施策やサービスについて答えており、特に「療育や発達のための支援体制の充実」が23.1% (108人)と最も高く、「発達障がいについての施策」と「障がい児のための保育や教育」を含めた3つの項目が20%を超えています。

障がい児向けの施策やサービスで特に充実が必要と思われるもの



精神障がい者では、35.6% (31人)が必要と思われる施策やサービスについて答えており、特に「発達障がいについての施策」と「希望する学校に就学できるようにする」がともに11.5% (10人)で高く、次に「健常児と障がい児の交流」が10.3%となっています。

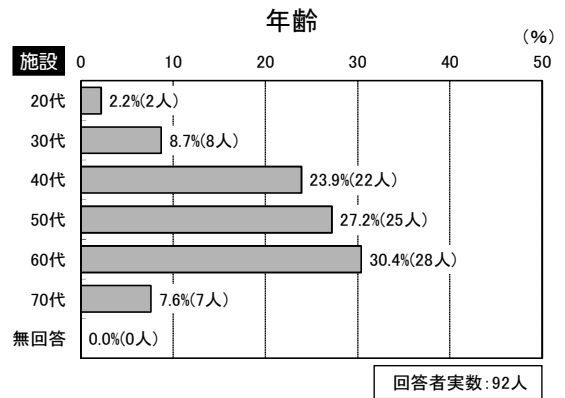


施設入所者 調査結果

■ 施設入所者調査結果 ■

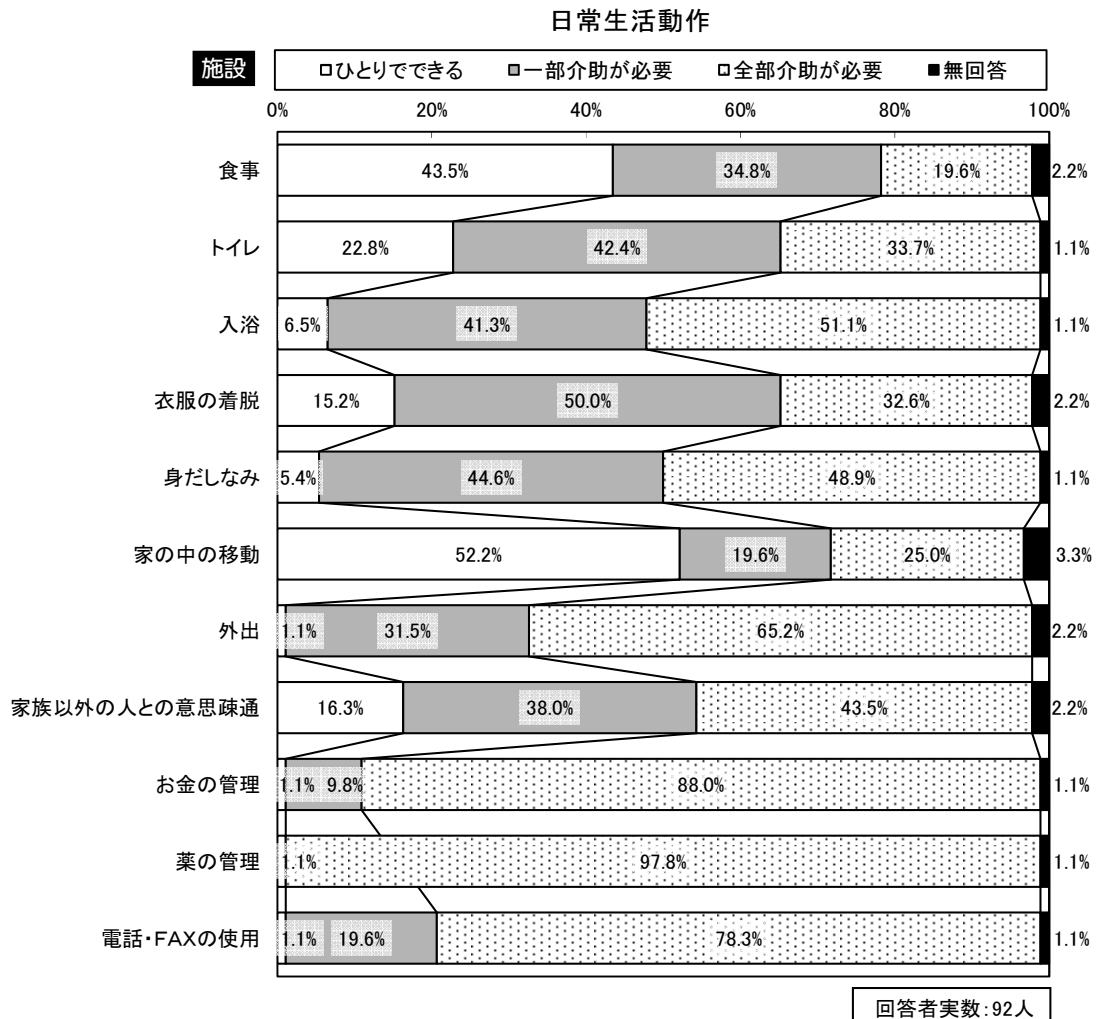
1. 年齢

施設入所者の年齢を見ると、40代から60代が入所者全体の8割余りを占めており、特に「60代」が30.4%(28人)で最も高く、次に「50代」が27.2%(25人)が27.2%となっています。



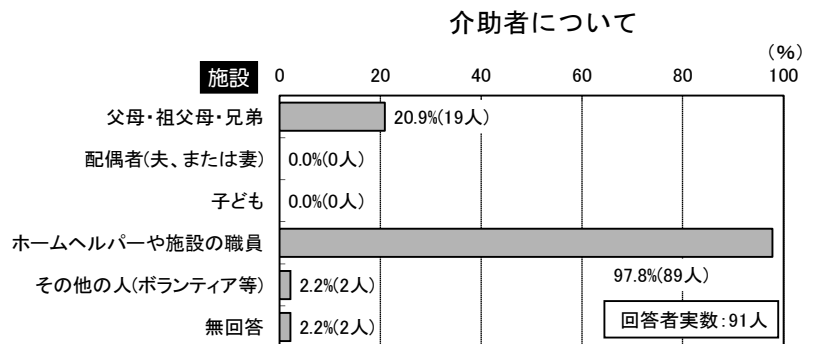
2. 日常生活動作

食事やトイレ、入浴などの日常生活動作について「ひとりでできる」と答えたのは「家の中の移動」が52.2%で最も高く、次いで「食事」が43.5%、「トイレ」が22.8%となっています。そのほかの項目については、いずれも1割前後と低率です。



3. 介助者について

介助を必要としている人に対して、介助者の状況を尋ねました。介助者としては「ホームヘルパーや施設の職員」が97.8% (89人)で大半を占めており、次に「父母・祖父母・兄弟」が20.9% (19人)となっています。



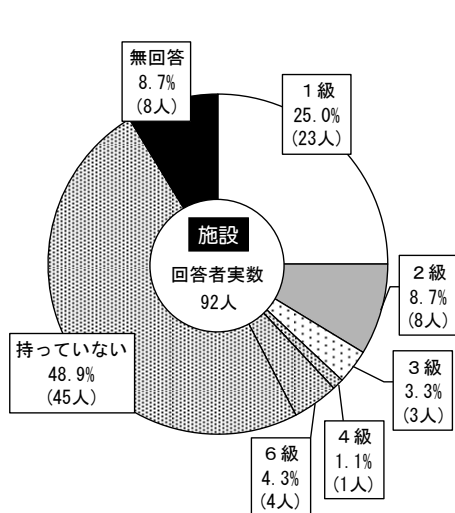
4. 手帳の所持状況

障がい者手帳の所持状況を見ると、身体障がい者手帳所持者は42.4% (39人)おり、手帳の等級としては「1級」が25.0% (23人)で最も高く、次に「2級」が8.7% (8人)となっています。

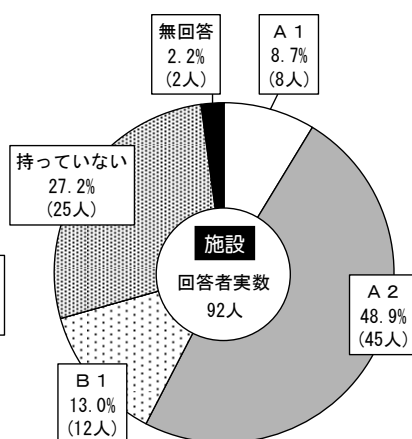
療育手帳所持者は70.6% (65人)おり、手帳の判定としては「A2」が約半数を占めています。

精神障がい者保健福祉手帳または自立支援医療(精神通院)受給者証の所持者は18.5% (17人)おり、そのうちほとんどが「精神通院」となっています。

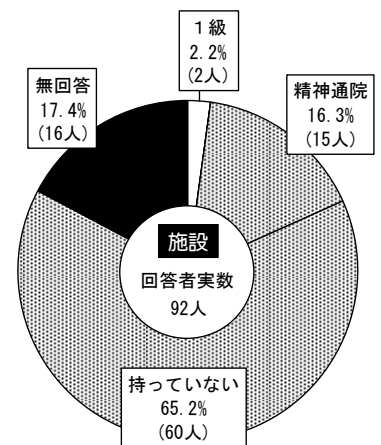
身体障がい者手帳の所持



療育手帳の所持

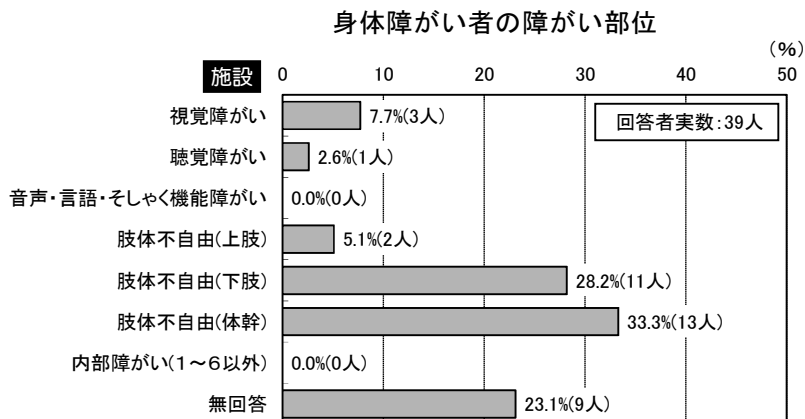


精神障がい者保健福祉手帳の所持



5. 身体障がい者の障がい部位

身体障がい者の障がい部位では、肢体不自由の方が6割を超えており、特に「肢体不自由(体幹)」が33.3%(13人)と最も高く、次に「肢体不自由(下肢)」が28.2%となっています。



6. 現在受けている医療ケア

現在受けている医療ケアとしては、「服薬管理」が70.7%(65人)と最も高く、そのほかの医療ケアを受けている人は1割未満となっています。

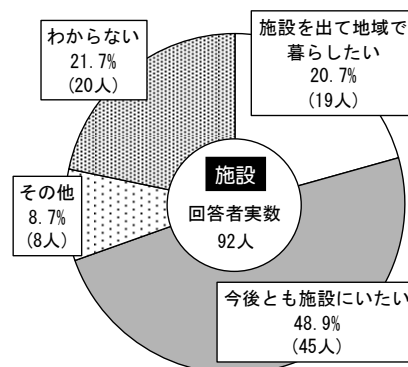
現在受けている医療ケア

	全体 (92人)
気管切開	0.0% (0人)
人工呼吸器 (レスピレーター)	0.0% (0人)
吸入	3.3% (3人)
吸引	4.3% (4人)
胃ろう・腸ろう	6.5% (6人)
鼻腔経管栄養	0.0% (0人)
中心静脈栄養 (IVH)	0.0% (0人)
透析	0.0% (0人)
カテーテル留置	2.2% (2人)
ストマ (人工肛門・人工膀胱)	0.0% (0人)
服薬管理	70.7% (65人)
その他	3.3% (3人)
医療ケアを受けていない	19.6% (18人)
無回答	5.4% (5人)

7. 将来の地域生活の意向

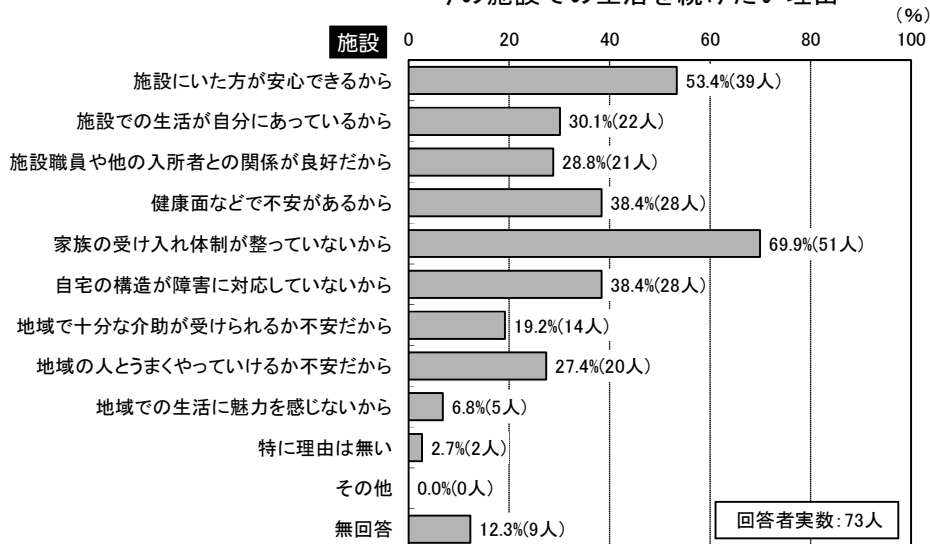
今後の地域生活への意向については、「今後とも施設にいたい」が48.9%(45人)で半数近くを占めており、「施設を出て地域で暮らしたい」が20.7%(19人)となっています。

今後、どこで生活したいか

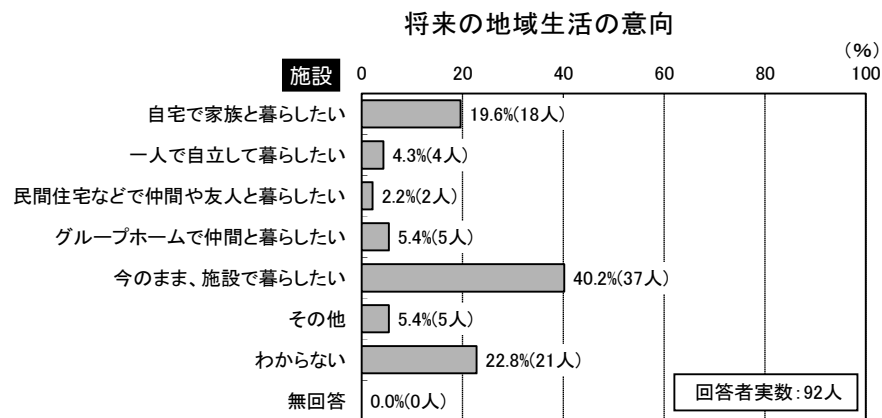


今後の地域生活への意向について、「今後とも施設にいたい」、「その他」、「わからない」と回答した方の、その理由としては「家族の受け入れ体制が整っていないから」が69.9%(51人)で最も高く、次いで「施設にいた方が安心できるから」が53.4%(39人)となっています。そのほか、「健康面などで不安があるから」、「自宅の構造が障害に対応していないから」がともに38.4%(28人)、「施設での生活が自分にあっているから」が30.1%(22人)となっています。

今の施設での生活を続けたい理由



将来の暮らし方については「今のまま、施設で暮らしたい」が40.2%(37人)と4割余りを占めています。



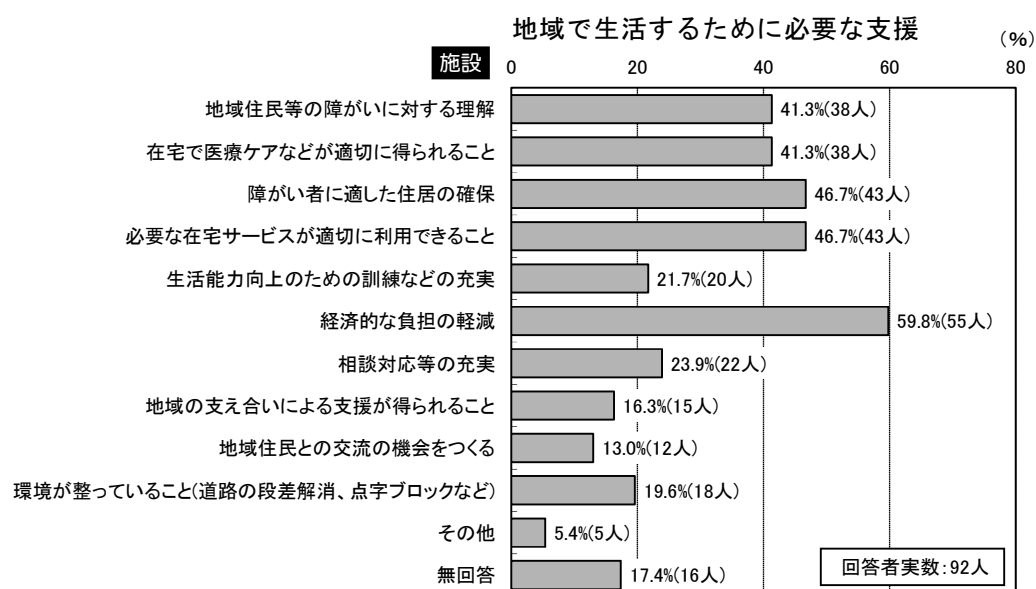
年代別に見ると、「施設に入所したい」と答えたのは40代(59.1%/13人)、50代(44.0%/11人)に多いです。

将来の地域生活の意向 (年代別)

	20代	30代	40代	50代	60代	70代
回答者実数	2人	8人	22人	25人	28人	7人
自宅で家族と暮らしたい	0.0% (0人)	50.0% (4人)	18.2% (4人)	32.0% (8人)	7.1% (2人)	0.0% (0人)
一人で自立して暮らしたい	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	4.0% (1人)	10.7% (3人)	0.0% (0人)
民間住宅などで仲間や友人と暮らしたい	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	8.0% (2人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)
グループホームで仲間と暮らしたい	0.0% (0人)	12.5% (1人)	13.6% (3人)	0.0% (0人)	3.6% (1人)	0.0% (0人)
施設に入所したい	50.0% (1人)	12.5% (1人)	59.1% (13人)	44.0% (11人)	28.6% (8人)	42.9% (3人)
その他	0.0% (0人)	0.0% (0人)	4.5% (1人)	0.0% (0人)	10.7% (3人)	14.3% (1人)
わからない	50.0% (1人)	25.0% (2人)	4.5% (1人)	12.0% (3人)	39.3% (11人)	42.9% (3人)
無回答	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)	0.0% (0人)

8. 地域で生活するために必要な支援

地域で生活するために必要な支援としては、「経済的な負担の軽減」が59.8% (55人)で最も高くなっています。続いて、「障がい者に適した住居の確保」、「必要な在宅サービスが適切に利用できること」がともに46.7% (43人)、「地域住民等の障がいに対する理解」、「在宅で医療ケアなどが適切に得られること」がともに41.3% (38人)となっています。



性別に見ると、男性では「地域住民等の障がいに対する理解」と「経済的な負担の軽減」の2項目が50%台と高い割合となっており、女性では、「経済的な負担の軽減」が73.5% (25人)で突出して高くなっています。また、男女ともに「障がい者に適した住居の確保」と「必要な在宅サービスが適切に利用できること」の2項目においても、それぞれ比較的高い割合となっています。

地域で生活するために必要な支援 (性別)

	男性	女性
回答者実数	58人	34人
地域住民等の障がいに対する理解	50.0% (29人)	26.5% (9人)
在宅で医療ケアなどが適切に得られること	37.9% (22人)	47.1% (16人)
障がい者に適した住居の確保	44.8% (26人)	50.0% (17人)
必要な在宅サービスが適切に利用できること	41.4% (24人)	55.9% (19人)
生活能力向上のための訓練などの充実	29.3% (17人)	8.8% (3人)
経済的な負担の軽減	51.7% (30人)	73.5% (25人)
相談対応等の充実	32.8% (19人)	8.8% (3人)
地域の支え合いによる支援が得られること	22.4% (13人)	5.9% (2人)
地域住民との交流の機会をつくる	17.2% (10人)	5.9% (2人)
環境が整っていること(道路の段差解消、点字ブロックなど)	24.1% (14人)	11.8% (4人)
その他	1.7% (1人)	11.8% (4人)
無回答	17.2% (10人)	17.6% (6人)

9. 区分認定を受けているか

障がい支援(程度)区分の認定については、入所者全員が認定を受けており、特に「区分6」が45.7%(42人)で最も高く、次いで「区分5」が26.1%(24人)となっています。

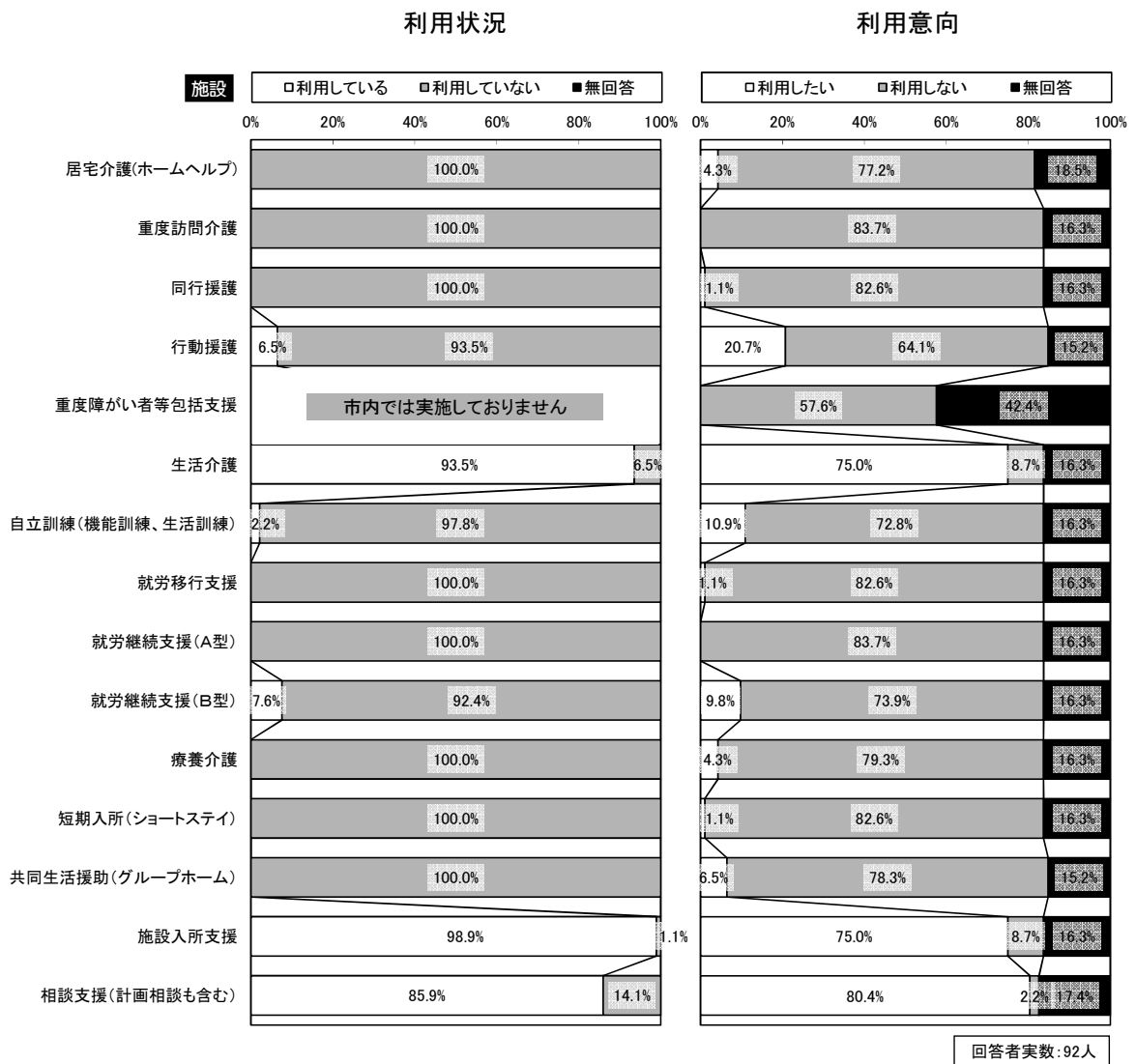
区分認定を受けているか

	全体 (92人)
区分1	0.0% (0人)
区分2	0.0% (0人)
区分3	15.2% (14人)
区分4	13.0% (12人)
区分5	26.1% (24人)
区分6	45.7% (42人)
受けてない	0.0% (0人)
無回答	0.0% (0人)

10. 障がい福祉サービスの利用状況と利用意向

障がい福祉サービスの利用状況を見ると、「利用している」という回答は、「生活介護」、「施設入所支援」が9割、「相談支援」も8割半ばを占めていますが、その他のサービスは1割未満にとどまっています。

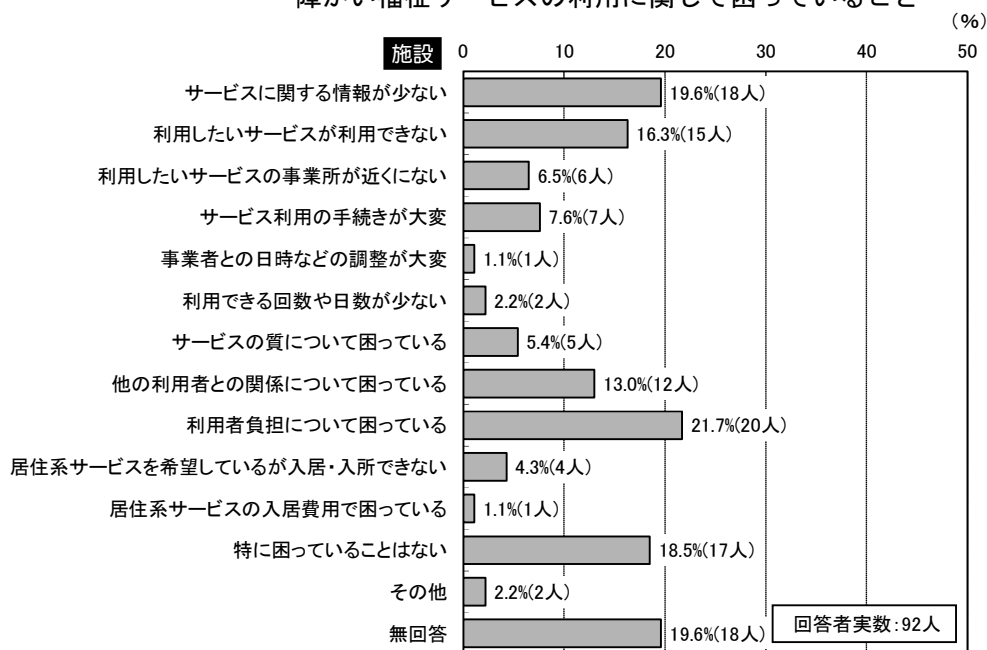
今後の利用意向については、現在ほとんどの人が利用している「生活介護」、「施設入所支援」、「相談支援」の割合がそれぞれ低くなっていますが、その他のサービスについては現在の「利用している」割合を上回っています。



11. 障がい福祉サービスの利用に関して困っていること

障がい福祉サービスの利用に関して、何かしら困っていることがあると答えた人は61.9%います。困っている内容としては「利用者負担について困っている」が21.7%(20人)で最も高く、次に「サービスに関する情報が少ない」が19.6%(18人)となっています。

障がい福祉サービスの利用に関して困っていること



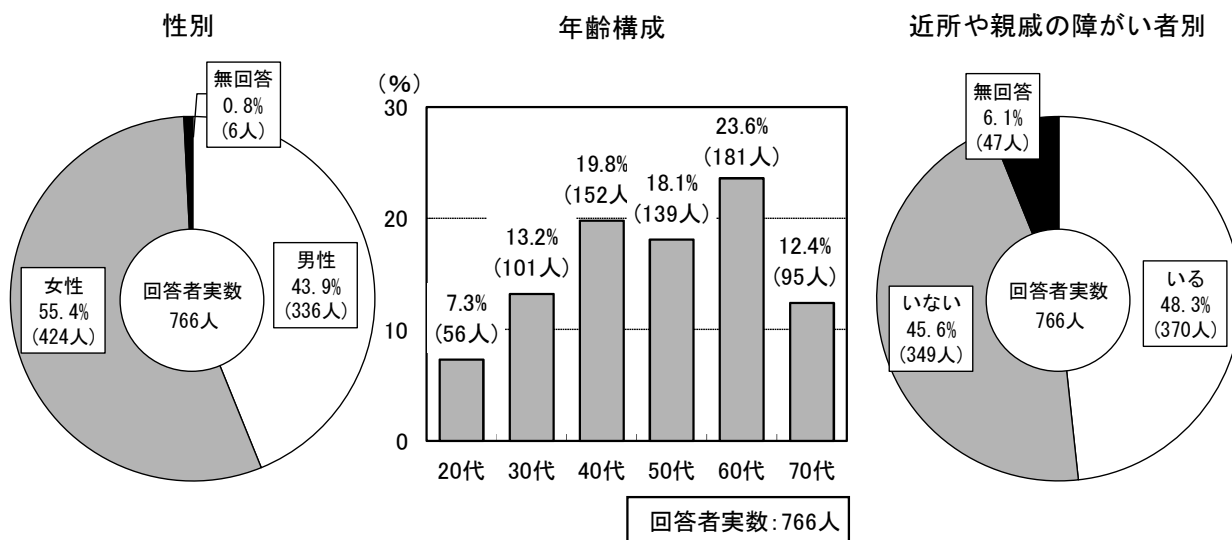
一般市民 調査結果

■ 一般市民 調査結果 ■

1. 回答者の属性

一般市民への調査の回答者は、「男性」が43.9%（336人）、「女性」が55.4%（424人）で女性の方が多くなっています。また、年齢構成は、「60代」が23.6%（181人）で最も多く、次いで「40代」の19.8%（152人）、「50代」の18.1%（139人）と続いています。

また、近所や親戚に障がい者がいるか尋ねたところ、「いる」が48.3%（370人）であり、半数近くの市民が身近に障がい者がいると回答しています。



2. 障がい者の問題や福祉への関心

障がい者問題や福祉に関心があるか尋ねたところ、「関心がある」という回答は75.8%（581人）であり、ほとんどの市民が関心を示しています。

「関心がない」は21.1%（162人）で約2割となっています。

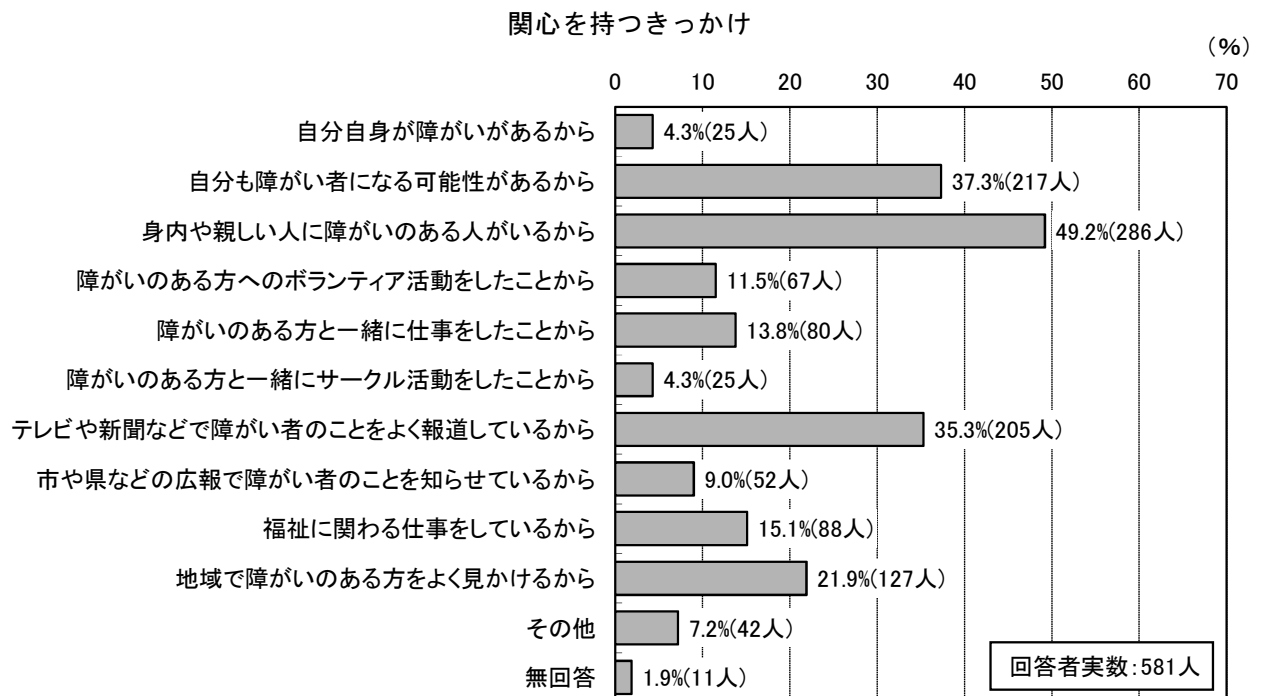
障がい者問題や福祉への関心

回答者実数	関心がある		関心がない		無回答
	とても関心がある	関心がある	あまり関心がない	全く関心がない	
766人	75.8% (581人)		21.1% (162人)		3.0% (23人)
	17.9% (137人)	58.0% (444人)	20.5% (157人)	0.7% (5人)	

3. 関心を持つきっかけ

関心を持ったきっかけを尋ねたところ、「身内や親しい人に障がいのある人がいるから」が49.2% (286人) で約半数を占めています。また、「自分も障がい者になる可能性があるから」が37.3% (217人)、「テレビや新聞などで障がい者のことをよく報道しているから」が35.3% (205人) であり、この2つも高くなっています。障害が自分の身近であったり、報道等から、関心が高まる傾向が見受けられます。

身近に障がい者がいる・いない別に見ると、「身近に障がい者がいる」と回答した人は、関心を持つきっかけも当然ながら「身内や親しい人に障がいのある人がいるから」が非常に高く、74.0% (239人) を占めています。「身近に障がい者がいない」と回答した人では、「テレビや新聞などで障がい者のことをよく報道しているから」が44.1% (97人) で最も高くなっています。



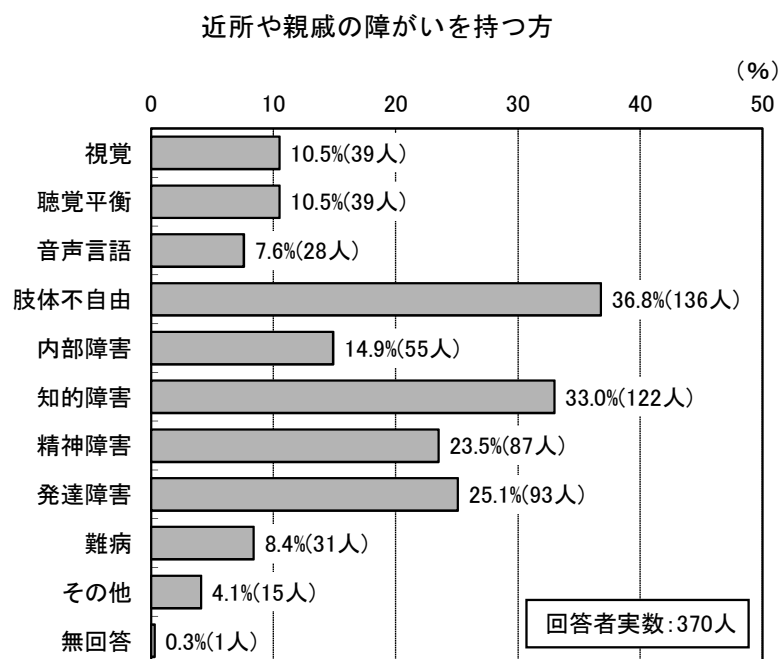
関心を持つきっかけ (身近に障がい者がいる・いない別)

	回答者実数	自分自身が障がいがあるから	自分も障がい者になる可能性があるから	身内や親しい人に障がいのある人がいるから	障がいのある方へのボランティア活動をしたことから	障がいのある方と一緒に仕事をしたことから	障がいのある方と一緒にサークル活動をしたことから	障がいのある方と一緒にサークル活動をしたことから	テレビや新聞などで障がい者のことをよく報道しているから	市や県などの広報で障がい者のことを知らせているから	福祉に関わる仕事をしているから	地域で障がいのある方をよく見かけるから	その他	無回答
身近に障がい者がいる	323人	5.0% (16人)	37.5% (121人)	74.0% (239人)	11.8% (38人)	15.2% (49人)	5.9% (19人)	29.4% (95人)	8.0% (26人)	15.8% (51人)	24.1% (78人)	6.8% (22人)	0.9% (3人)	
身近に障がい者がいない	220人	4.1% (9人)	36.8% (81人)	12.3% (27人)	10.9% (24人)	10.9% (24人)	2.7% (6人)	44.1% (97人)	10.0% (22人)	14.5% (32人)	20.5% (45人)	8.2% (18人)	3.2% (7人)	

4. 近所や親戚の障がいを持つ方

身近に障がい者がいると回答した人に対し、身近な障がい者の障がいの種類を尋ねました。

「肢体不自由」が36.8%（136人）、「知的障害」が33.0%（122人）であり、これら2つが3割台で比較的高いです。そのほか、「精神障害」（23.5%（87人））と「発達障害」（25.1%（93人））もやや高くなっています。

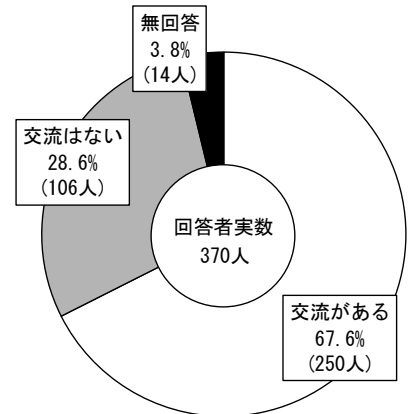


5. 障がいのある方との交流

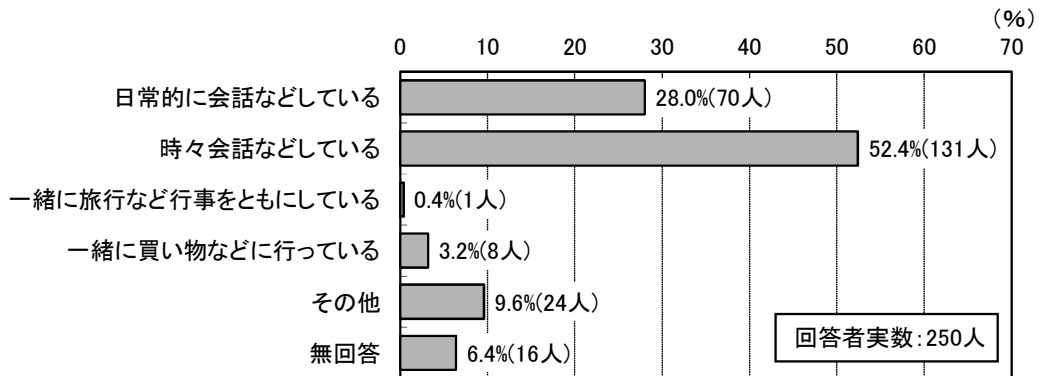
「身近に障がい者がいる」と回答した人に対し、障がいのある方と交流があるか尋ねました。「交流がある」は67.6%（250人）、「交流はない」は28.6%（106人）であり、7割近い市民が交流があると回答しています。

交流の内容について尋ねたところ、「時々会話などをしている」が52.4%（131人）で最も高くなっています。また「日常的に会話などしている」が28.0%（70人）であり、生活の中での会話を主体とした交流が多くなっています。

障がいのある方との交流



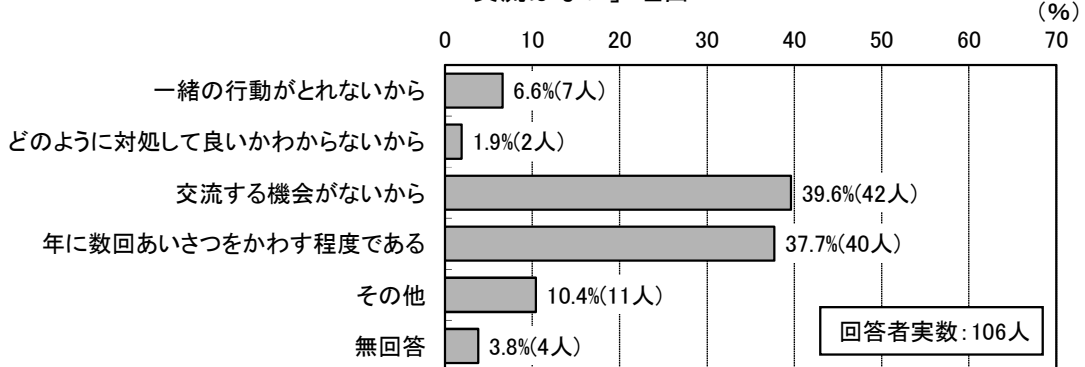
交流の内容



「交流はない」と回答した人に、その理由をたずねたところ、「交流する機会がないから」が39.6%（42人）で約4割を占めています。また、「年に数回あいさつをかわす程度である」が37.7%（40人）であり、

身近に障がい者がいても、交流の機会がないとする人も見られます。

「交流はない」理由



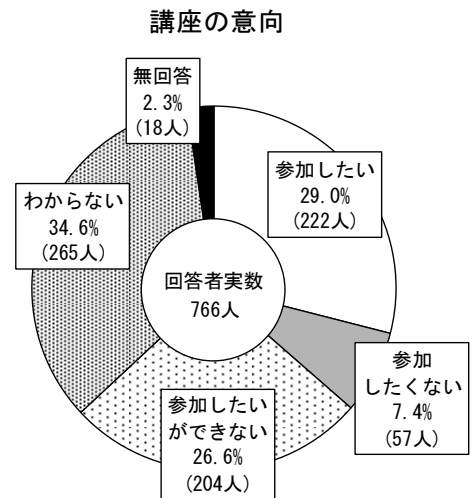
6. 講座や講演会などの意向

障害についての講座や講演会などへの参加意向を尋ねたところ、「参加したい」は29.0%（222人）であり、3割程度にとどまっています。また、「参加したいができない」が26.6%（204人）あり、およそ4人に1人は希望があるが参加が難しいとしています。

参加意向について年代別に見ると、「参加したい」という回答は30代から50代で比較的高く、それぞれ30%半ばとなっています。最も低いのは20代の19.6%（11人）です。「参加したいができない」は50代が

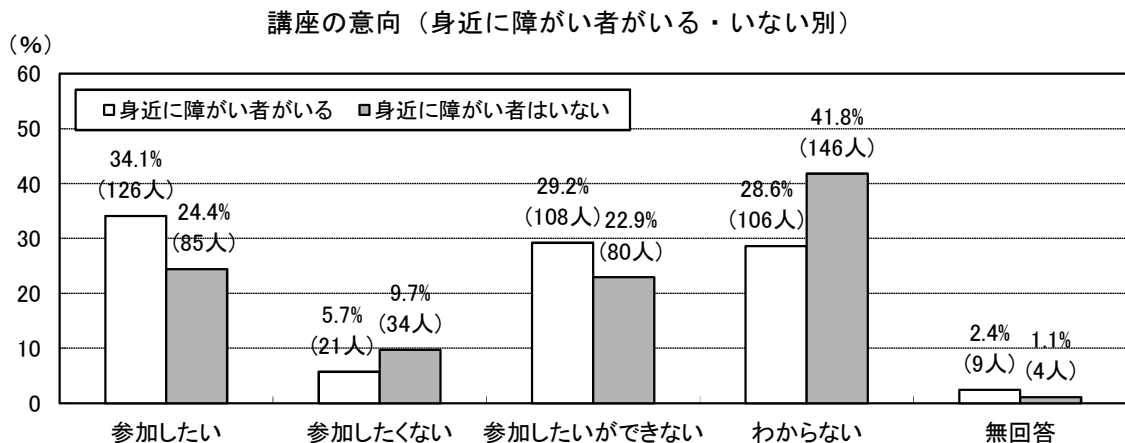
29.5%（41人）で最も高いほか、60代も26.5%（48人）を占めています。また、「わからない」という回答が、20代で非常に高く、53.6%（30人）と半数を占めています。

身近に障がい者がいる・いない別に見ると、身近に障がい者がいる人では、いない人と比べて「参加したい」という声が高くなっています。



講座の意向（年代別）

	回答者実数	参加したい	参加したくない	参加したいができない	わからない	無回答
20代	56人	19.6%（11人）	12.5%（7人）	14.3%（8人）	53.6%（30人）	0.0%（0人）
30代	101人	34.7%（35人）	8.9%（9人）	18.8%（19人）	36.6%（37人）	1.0%（1人）
40代	152人	34.2%（52人）	5.9%（9人）	23.0%（35人）	34.9%（53人）	2.0%（3人）
50代	139人	35.3%（49人）	5.8%（8人）	29.5%（41人）	29.5%（41人）	0.0%（0人）
60代	181人	26.0%（47人）	9.4%（17人）	26.5%（48人）	35.9%（65人）	2.2%（4人）
70代	95人	22.1%（21人）	4.2%（4人）	41.1%（39人）	24.2%（23人）	8.4%（8人）

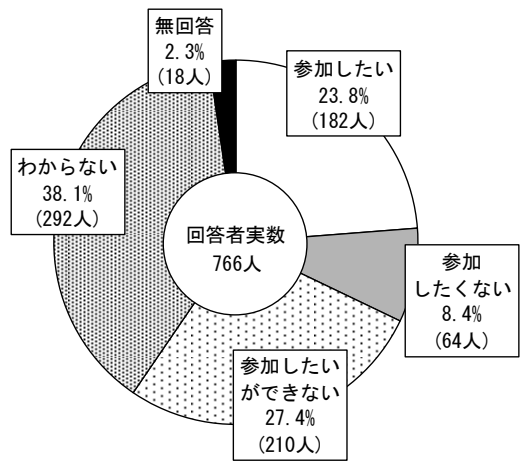


7. 交流の場についての意向

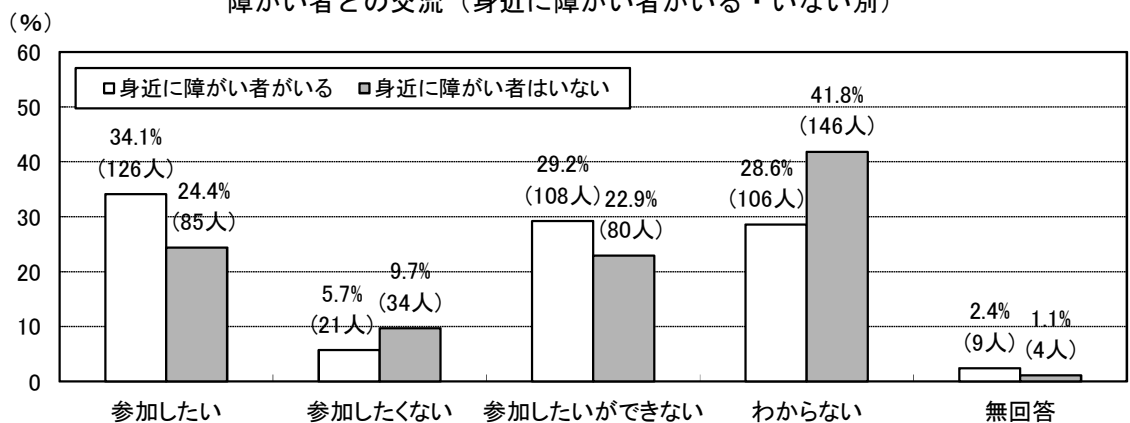
障がい者と交流の機会があれば参加したいか尋ねたところ、「参加したい」が23.8%（182人）で、2割余りにとどまっています。また、「参加したいができない」が27.4%（210人）あり、3割弱の人が参加意向がありながら、参加が難しいとしています。

身近に障がい者がいる・いない別に見ると、身近に障がい者がいる人の方が、いない人と比べて「参加したい」という声が高くなっています。

障がい者との交流



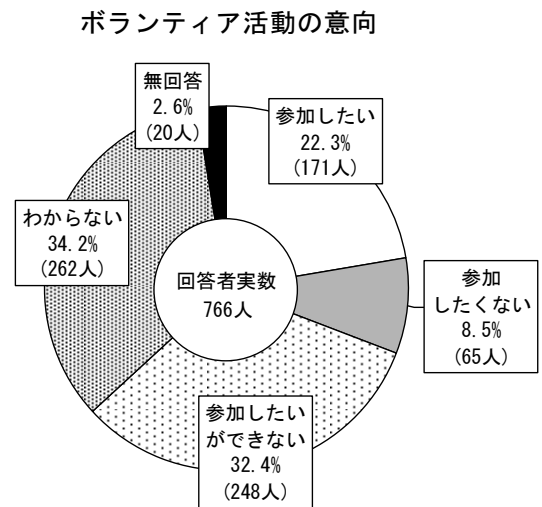
障がい者との交流（身近に障がい者がいる・いない別）



8. ボランティア活動の意向

ボランティア活動への参加意向を尋ねたところ、「参加したい」は22.3%（171人）で2割程度にとどまっています。また、「参加したいができない」が32.4%（248人）であり、3割余りの人が参加意向がありながら参加が厳しいとしています。

年代別に見ると、「参加したい」という回答は30代が最も高く、35.6%（36人）となっています。30代以降では年代が上がるとともに「参加したい」という回答が減少する傾向となっています。反対に、「参加したいができない」は、年代が上がるとともに割合が上昇しており、70代になると48.4%（46人）と5割近くを占めるようになります。



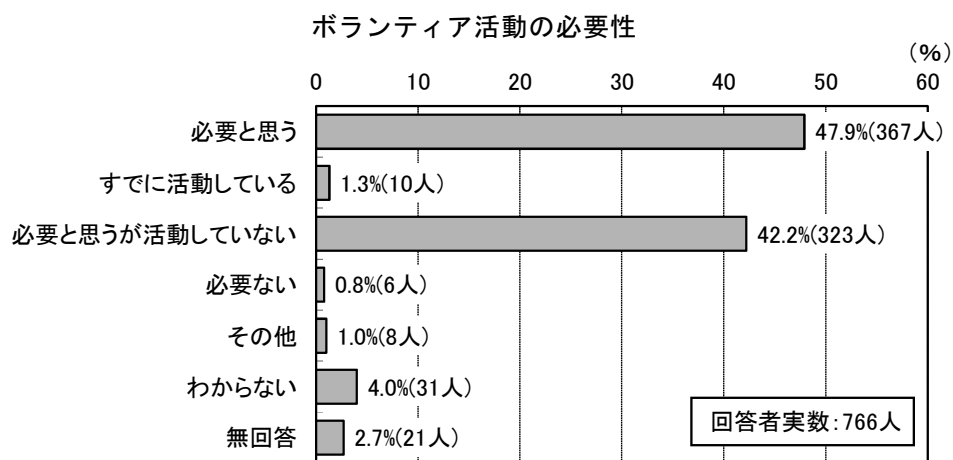
ボランティア活動の意向（年代別）

	回答者 実数	参加したい	参加したくない	参加したい ができない	わからない	無回答
20代	56人	23.2%（13人）	14.3%（8人）	14.3%（8人）	46.4%（26人）	1.8%（1人）
30代	101人	35.6%（36人）	8.9%（9人）	19.8%（20人）	35.6%（36人）	0.0%（0人）
40代	152人	27.6%（42人）	6.6%（10人）	26.3%（40人）	38.2%（58人）	1.3%（2人）
50代	139人	24.5%（34人）	9.4%（13人）	37.4%（52人）	28.1%（39人）	0.7%（1人）
60代	181人	14.4%（26人）	9.4%（17人）	34.8%（63人）	37.6%（68人）	3.9%（7人）
70代	95人	16.8%（16人）	5.3%（5人）	48.4%（46人）	21.1%（20人）	8.4%（8人）

9. ボランティア活動の必要性

ボランティア活動の必要性を尋ねたところ、「必要と思う」が47.9%（367人）で最も高く、「必要と思うが活動していない」が42.2%となっています。また、「すでに活動している」は僅か1.3%（10人）であり、必要性を感じながらも、実際の活動は難しい市民が多くなっています。

年代別に見ると、「必要と思う」は30代が最も高く、62.4%（63人）であり、次いで40代や50代の5割程度となっています。「必要と思うが活動していない」は、60歳が50.8%（92人）で最も高く、次いで20代の48.2%（27人）となっています。「すでに活動している」は30代が最も高く3.0%（3人）、次いで70代の2.1%（2人）となっています。



ボランティア活動の必要性（年代別）

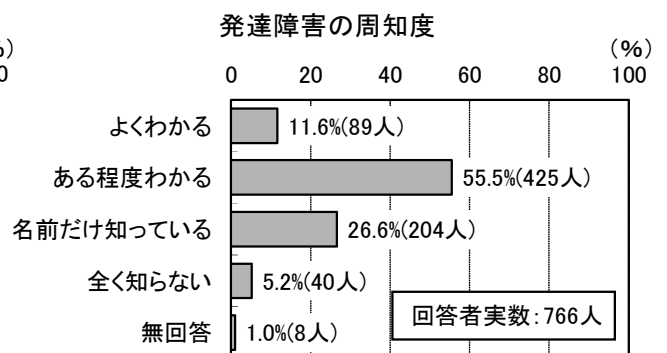
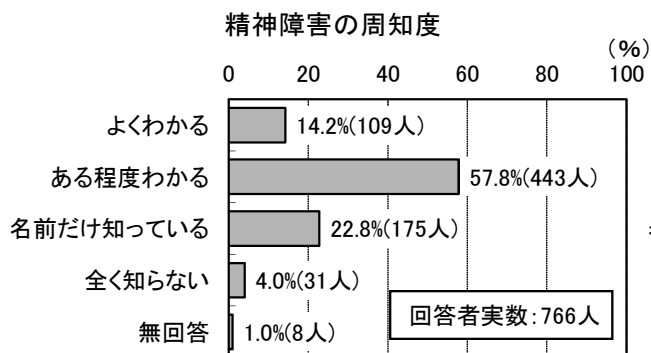
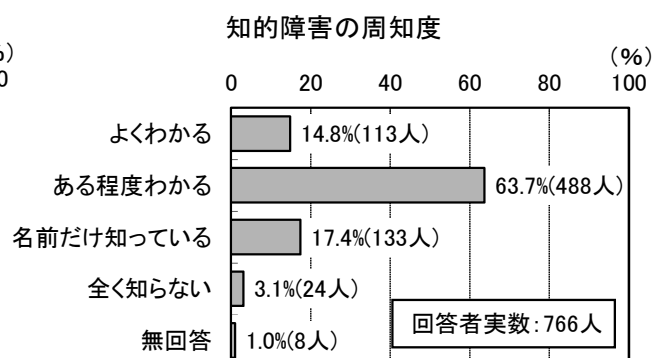
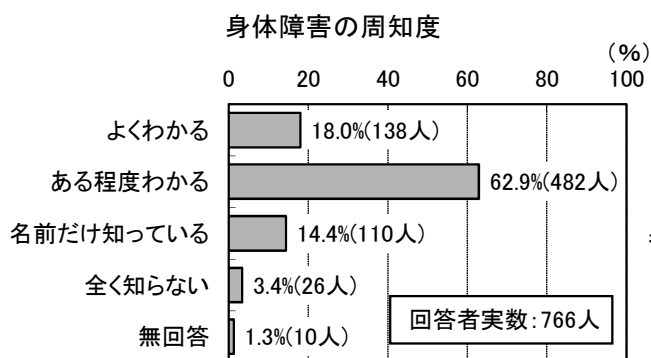
	回答者 実数	必要と思う	すでに活動 している	必要と思うが 活動していない	必要ない	その他	わからない	無回答
20代	56人	41.1% (23人)	0.0% (0人)	48.2% (27人)	0.0% (0人)	1.8% (1人)	8.9% (5人)	0.0% (0人)
30代	101人	62.4% (63人)	3.0% (3人)	30.7% (31人)	1.0% (1人)	1.0% (1人)	2.0% (2人)	0.0% (0人)
40代	152人	51.3% (78人)	0.7% (1人)	40.8% (62人)	0.0% (0人)	2.0% (3人)	3.9% (6人)	1.3% (2人)
50代	139人	50.4% (70人)	1.4% (2人)	42.4% (59人)	2.2% (3人)	0.0% (0人)	2.2% (3人)	1.4% (2人)
60代	181人	37.0% (67人)	1.1% (2人)	50.8% (92人)	0.6% (1人)	0.6% (1人)	5.5% (10人)	4.4% (8人)
70代	95人	48.4% (46人)	2.1% (2人)	34.7% (33人)	1.1% (1人)	2.1% (2人)	2.1% (2人)	9.5% (9人)

10. 障害の理解度

市民の障害の理解度を見るため、障害ごとの周知度を尋ねました。

「ある程度わかる」という回答は、身体障害で62.9%（482人）、知的障害で63.7%（488人）であり、これら2障がいでは6割余りを占めています。しかし、精神障害では57.8%（443人）、発達障害では55.5%（425人）となり、身体、知的に比べて低くなっています。

「よくわかる」という回答は、身体障害では18.0%（138人）と2割近くを占めていますが、知的障害は14.8%（113人）、精神障害は14.2%（109人）、発達障害は11.6%（89人）で、1割前半にとどまっています。

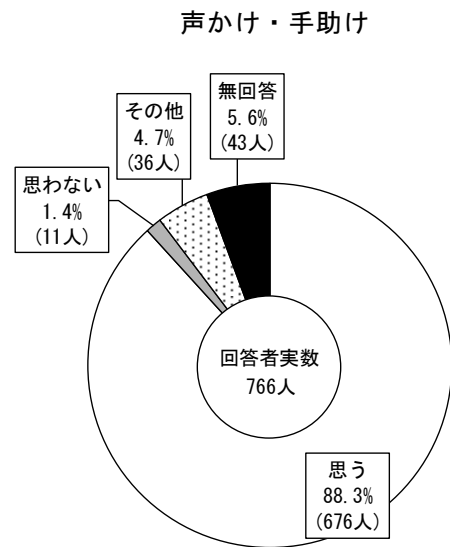


11. 声かけ・手助け

困っている障がい者を見かけた時、声かけや手助けをしてあげたいと思うかを尋ねました。「思う」が88.3% (676人) で9割近い市民が手助けしたいと回答しています。

実際に声かけや手助けできるか尋ねたところ、「できる」は32.0% (216人)、「どちらかと言えばできる」は45.6% (308人) であり、8割近い人が「できる」としています。

年代別に見ると、年代が上がるとともに「できる」という割合が高くなる傾向にあり、70代になると50.0% (38人) に達しています。また、「どちらかと言えばできる」は、40代 (53.8%/77人) や30代 (48.9%/46人) が比較的高くなっています。



実際にできるか (年代別)

	回答者 実数	できる		できない		わからない	無回答
		できる	どちらかと言 えばできる	どちらかと言 えばできない	できない		
総数	676人	77.5% (524人)	13.8% (93人)	8.0% (54人)	0.7% (5人)		
		32.0% (216人)	45.6% (308人)	13.2% (89人)	0.6% (4人)		
20代	50人	56.0% (28人)	30.0% (15人)	14.0% (7人)	0.0% (0人)		
		22.0% (11人)	34.0% (17人)	30.0% (15人)	0.0% (0人)		
30代	94人	71.3% (67人)	19.1% (18人)	9.6% (9人)	0.0% (0人)		
		22.3% (21人)	48.9% (46人)	19.1% (18人)	0.0% (0人)		
40代	143人	77.6% (111人)	16.1% (23人)	6.3% (9人)	0.0% (0人)		
		23.8% (34人)	53.8% (77人)	16.1% (23人)	0.0% (0人)		
50代	125人	76.8% (96人)	12.8% (16人)	8.0% (10人)	2.4% (3人)		
		33.6% (42人)	43.2% (54人)	11.2% (14人)	1.6% (2人)		
60代	156人	82.7% (129人)	7.7% (12人)	9.0% (14人)	0.6% (1人)		
		39.1% (61人)	43.6% (68人)	7.1% (11人)	0.6% (1人)		
70代	76人	86.8% (66人)	6.6% (5人)	6.6% (5人)	0.0% (0人)		
		50.0% (38人)	36.8% (28人)	5.3% (4人)	1.3% (1人)		

声かけや手助けが「できない」や「わからない」と回答した人にその理由を尋ねたところ、「障がいのある方にどう対応していいか、よくわからないから」という回答が圧倒的に高く、79.6%（117人）を占めています。年代別に見ると、30代、50代から60代でこの回答の割合が他の世代より高くなっています。20代、40代、70代では、「気恥ずかしいから」という回答が他の世代よりやや高いです。

「できない・わからない」等の理由（年代別）

	回答者 実数	気恥ずかしいから	面倒だから	障がいのある方にど う対応していいか、 よくわからないから	その他	無回答
総数	147人	8.2%（12人）	0.0%（0人）	79.6%（117人）	8.2%（12人）	4.1%（6人）
20代	22人	13.6%（3人）	0.0%（0人）	77.3%（17人）	9.1%（2人）	0.0%（0人）
30代	27人	0.0%（0人）	0.0%（0人）	85.2%（23人）	11.1%（3人）	3.7%（1人）
40代	32人	15.6%（5人）	0.0%（0人）	71.9%（23人）	9.4%（3人）	3.1%（1人）
50代	26人	3.8%（1人）	0.0%（0人）	84.6%（22人）	3.8%（1人）	7.7%（2人）
60代	26人	3.8%（1人）	0.0%（0人）	84.6%（22人）	7.7%（2人）	3.8%（1人）
70代	10人	20.0%（2人）	0.0%（0人）	60.0%（6人）	10.0%（1人）	10.0%（1人）

12. 障害福祉に関する用語

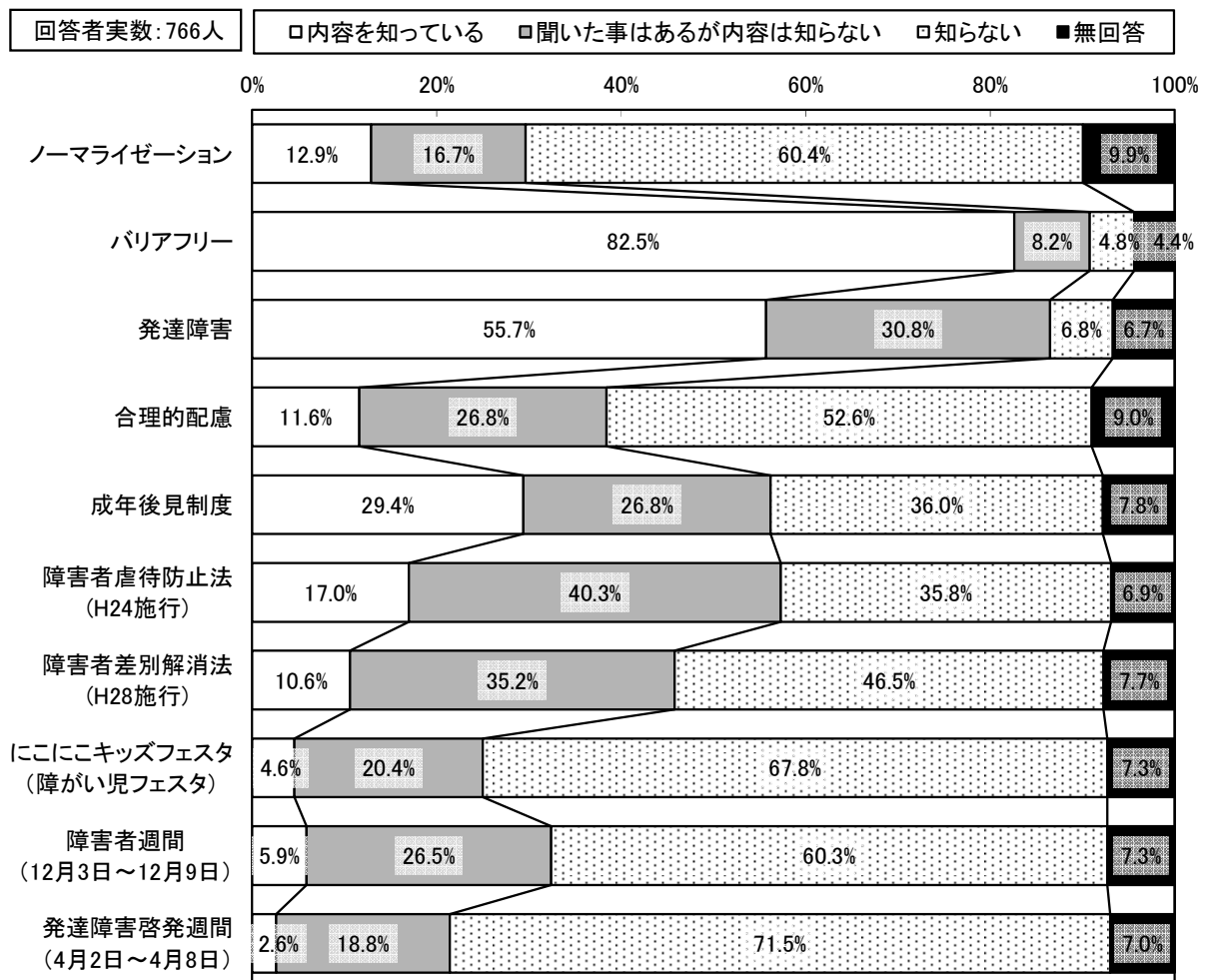
障害福祉に関する10の用語について、周知状況を尋ねました。

用語の「内容を知っている」という回答は、「バリアフリー」で82.5%あり、ほとんどの市民に周知されていることがわかります。また、「発達障害」は55.7%であり、バリアフリーについて周知度が高くなっています。そのほか、「成年後見制度」は29.4%と約3割ありますが、「障害者虐待防止法」や「障害者差別解消法」、「ノーマライゼーション」、「合理的配慮」は1割台となっています。「にこにこキッズフェスタ（障がい児フェスタ）」、「障害者週間」、「発達障害啓発週間」といったイベントについては、全て5%前後で非常に低くなっています。

「ノーマライゼーション」は、障害者基本法のもと、障害福祉においては長く使用され、周知が進められてきた用語ですが、市民への浸透が進んでいない状況です。

また、「聞いたことはあるが内容は知らない」という回答は、「障害者虐待防止法」（40.3%）、「障害者差別解消法」（35.2%）、「発達障害」（30.8%）は比較的高くなっていますが、そのほかの用語では2割台またはそれ以下となっています。

障害福祉に関する用語



13. 差別・偏見

(1) 地域社会に差別・偏見はあるか

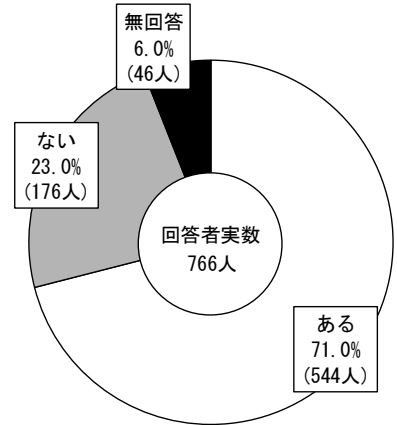
地域社会の中に障がい者への差別や偏見があると思うかを尋ねたところ、「ある」が71.0%（544人）であり、約7割の市民が障がい者への差別や偏見を感じていることがわかります。

年代別に見ると、若い世代の方で「ある」という回答が高く、20代では83.9%、30代では78.2%と8割前後を占めています。この回答は年代が上がるともに減少する傾向にあり、特に70代では47.4%と5割を下回っています。

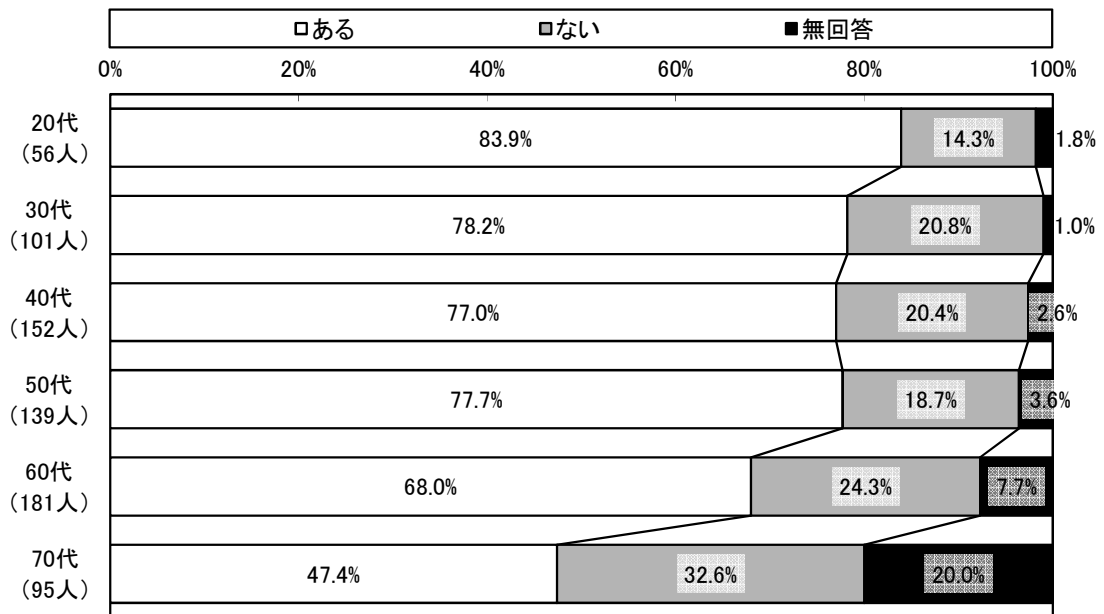
性別に見ると、「ある」という回答は男性で65.5%（220人）、女性で75.2%（319人）となっており、男性より女性の方が差別を感じる割合が高いです。

身近に障がい者がいる・いない別に見ると、身近に障がい者がいる人の方が、いない人と比べて差別や偏見を感じる割合がやや高くなっています。

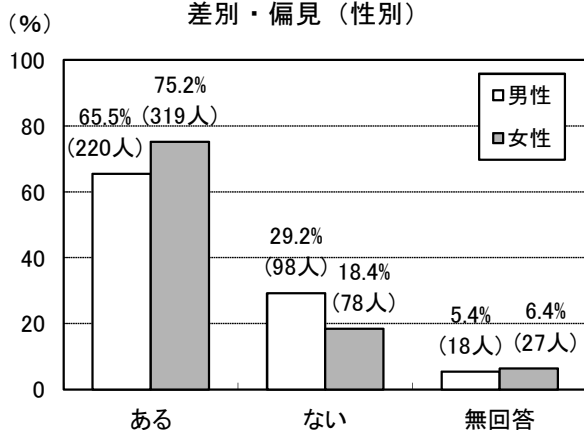
差別・偏見



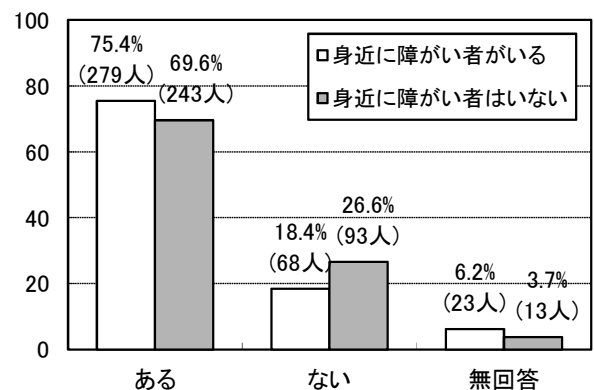
差別・偏見（年代別）



差別・偏見（性別）



差別・偏見（身近に障がい者がいる・いない別）

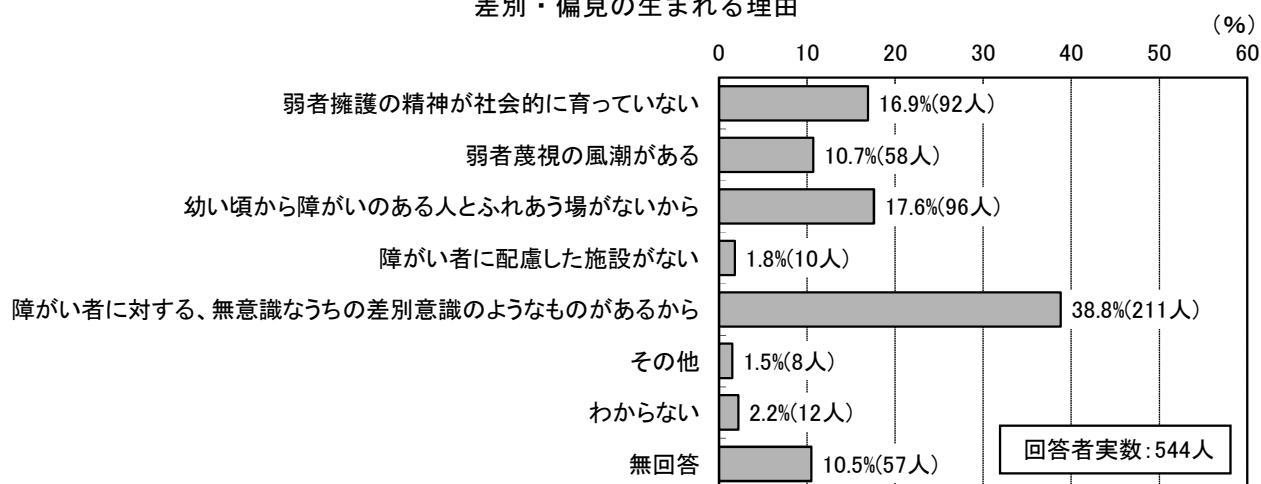


(2) 差別・偏見の生まれる理由

差別や偏見が生まれる理由をどう思っているか尋ねたところ、「障がい者に対する無意識なうちの差別意識のようなものがあるから」という回答が38.8%（211人）で最も高くなっています。また、「幼いころから障がいのある人とふれあう場がないから」（17.6%/96人）や「弱者擁護の精神が社会的に育っていない」（16.9%/92人）が1割半ばで、他の回答よりやや高くなっています。

年代別に見ると、「障がい者に対する無意識なうちの差別意識のようなものがあるから」は、若い世代で高く、特に20代で61.7%（29人）と6割を占めており、30代から60代が3割台、70代では3割弱へと減少しています。反対に、「幼いころから障がいのある人とふれあう場がないから」は年代が上がるるとともに高くなる傾向があり、20代では4.3%（2人）に過ぎませんが、60代では24.4%（30人）、70代では22.2%（10人）と2割を超えています。

差別・偏見の生まれる理由



差別・偏見の生まれる理由（年代別）

	回答者実数	弱者擁護の精神が社会的に育っていない	弱者蔑視の風潮がある	幼い頃から障がいのある人とふれあう場がないから	障がい者に配慮した施設がない	障がい者に対する、無意識なうちの差別意識のようなものがあるから	その他	わからない	無回答
20代	47人	4.3% (2人)	6.4% (3人)	14.9% (7人)	0.0% (0人)	61.7% (29人)	2.1% (1人)	2.1% (1人)	8.5% (4人)
30代	79人	12.7% (10人)	3.8% (3人)	22.8% (18人)	0.0% (0人)	39.2% (31人)	3.8% (3人)	2.5% (2人)	15.2% (12人)
40代	117人	13.7% (16人)	12.0% (14人)	23.1% (27人)	0.0% (0人)	38.5% (45人)	1.7% (2人)	1.7% (2人)	9.4% (11人)
50代	108人	16.7% (18人)	13.0% (14人)	19.4% (21人)	1.9% (2人)	38.9% (42人)	0.9% (1人)	0.9% (1人)	8.3% (9人)
60代	123人	24.4% (30人)	13.8% (17人)	13.0% (16人)	4.9% (6人)	34.1% (42人)	0.8% (1人)	2.4% (3人)	6.5% (8人)
70代	45人	22.2% (10人)	6.7% (3人)	11.1% (5人)	4.4% (2人)	28.9% (13人)	0.0% (0人)	6.7% (3人)	20.0% (9人)

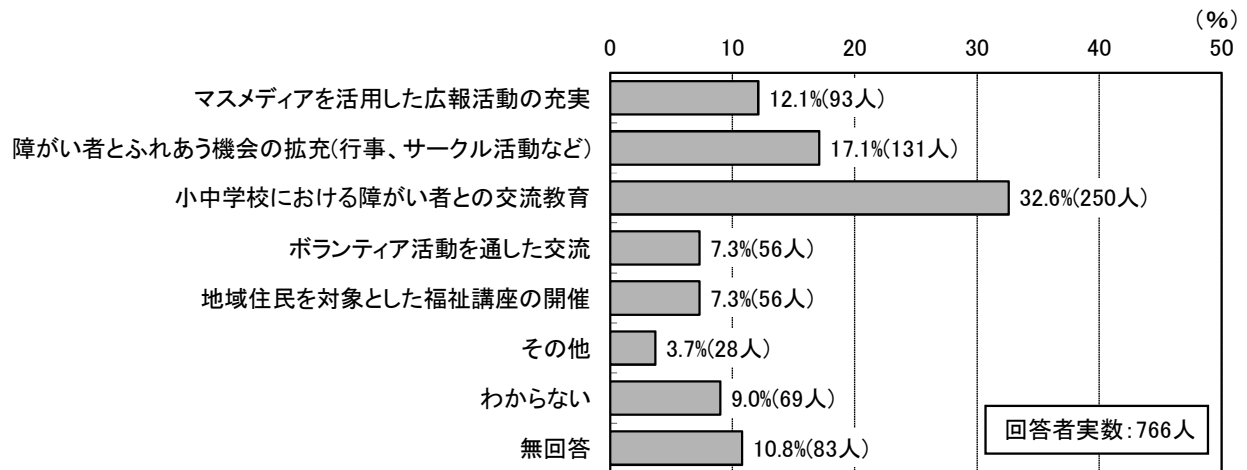
14. 理解を深めるために必要なこと

障がい者に対する理解を深めるためにはどのようなことが必要とを感じるか尋ねたところ、「小中学校における障がい者との交流教育」が32.6%（250人）で最も高くなっています。そのほか、「障がい者とふれあう機会の拡充」（17.1%/131人）、「マスメディアを活用した広報活動の充実」（12.1%/93人）が比較的高くなっています。

年代別に見ると、「小中学校における障がい者との交流教育」は30代と40代が他の世代より高く4割程度を占めています。「障がい者とふれあう機会の拡充」は、60代、70代で2割代となっており、若い世代ではやや低いです。「マスメディアを活用した広報活動の充実」は、20代が約2割で最も高いほか、50代が1割半ばで若干高くなっています。

そのほか、「地域住民を対象とした福祉講座の開催」や「ボランティア活動を通じた交流」は、年代が上がるとともに割合もやや上昇する傾向が見られます。

理解を深めるために必要なこと



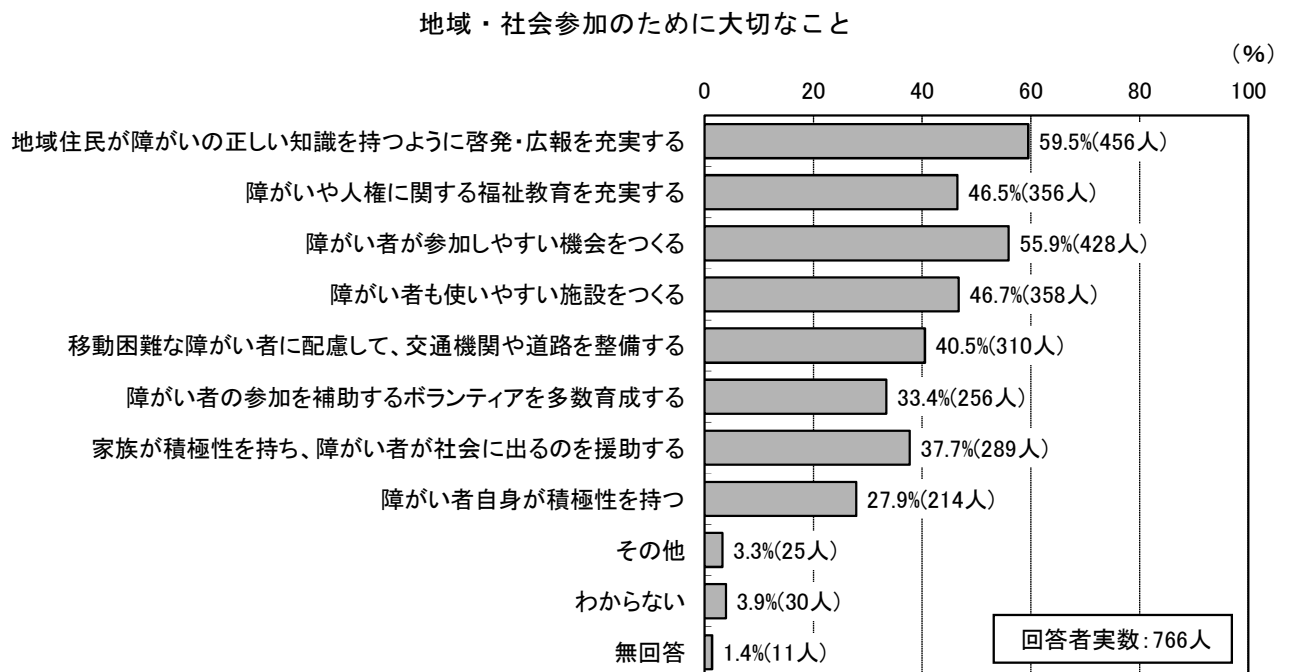
理解を深めるために必要なこと（年代別）

	回答者実数	マスメディアを活用した広報活動の充実	サークル活動など機会の拡充(行事、ボランティア活動など)	小中学校における障がい者との交流教育	ボランティア活動を通じた交流	地域住民を対象とした福祉講座の開催	その他	わからない	無回答
20代	56人	19.6% (11人)	16.1% (9人)	30.4% (17人)	7.1% (4人)	1.8% (1人)	7.1% (4人)	12.5% (7人)	5.4% (3人)
30代	101人	10.9% (11人)	13.9% (14人)	38.6% (39人)	5.0% (5人)	2.0% (2人)	5.9% (6人)	8.9% (9人)	14.9% (15人)
40代	152人	10.5% (16人)	12.5% (19人)	41.4% (63人)	7.9% (12人)	3.9% (6人)	3.3% (5人)	7.2% (11人)	13.2% (20人)
50代	139人	14.4% (20人)	15.8% (22人)	33.8% (47人)	7.9% (11人)	9.4% (13人)	2.9% (4人)	4.3% (6人)	11.5% (16人)
60代	181人	9.4% (17人)	22.1% (40人)	28.2% (51人)	9.4% (17人)	9.9% (18人)	3.9% (7人)	9.9% (18人)	7.2% (13人)
70代	95人	10.5% (10人)	23.2% (22人)	22.1% (21人)	5.3% (5人)	12.6% (12人)	1.1% (1人)	11.6% (11人)	13.7% (13人)

15. 地域・社会参加のために大切なこと

障がい者が地域社会に積極的に参加できるようにするために大切なことは何か尋ねたところ、「地域住民が障がいの正しい知識を持つように啓発・広報を充実する」が59.5%（456人）、「障がい者が参加しやすい機会をつくる」が55.9%（428人）となっており、これら2つが特に高くなっています。

また、「障がい者も使いやすい施設をつくる」（46.7%／358人）、「障がい者や人権に関する福祉教育を充実する」（46.5%／356人）、「移動困難な障がい者に配慮して、交通機関や道路を整備する」（40.5%／310人）がそれぞれ4割台であり、比較的高くなっています。



調査から見る現状や課題の整理
(計画策定の資料として)

■ 調査から見る現状や課題の整理（計画策定の資料として） ■

「うるま市第2次障がい者福祉計画」で掲げている基本目標ごとに、アンケート調査結果からわかる現状や課題を整理しました。

基本目標1 啓発・広報とボランティア活動の推進

- (1)障がい者への理解・啓発の推進
- (2)福祉意識の向上・福祉教育の推進
- (3)ボランティア活動の推進

知的障がい者では、差別を受けた経験者も多く、地域、職場などでの障がいの理解が必要となっています。理解のためには障がい者との交流機会（特に子供の頃からの）が必要です。

・差別を受けたこと

- 身体障がい者では約3割、知的障がい者と精神障がい者では6割余りが差別を経験しています。
- 身体障がい者に比べて知的障がい者、精神障がい者で差別を感じている割合が非常に高く、知的障害や精神障害についての理解等が必要です。

・差別を受けた場所

- 差別を受けたのは身体障がい者と知的障がい者では「外出先」、精神障がい者では「住んでいる地域」が高くなっています。
- そのほか、知的障がい者では「学校・職場」、精神障がい者では「仕事を探す時」という回答も高いです。

・市民の障がい者問題や福祉への関心

- 障がい者問題や福祉について、「関心がある」は7割半ばであり、ほとんどの市民が関心を示しています。
- 「関心がない」は21.1%（162人）で約2割となっています。

・障害に関心を持つきっかけ

- 関心を持ったきっかけは、「身近に障がい者がいるから」が約5割を占めています。また、「自分も障がいになる可能性があるから」や、「テレビ等障がい者のことを報道しているから」が3割半ばとなっています。
- 障害が自分の身近であったり、報道等から、関心が高まる傾向が見受けられます。
- 障害の理解のために必要なこととして、市民は「障がい者とのふれあう機会」をあげる声が多い。特に、小中学校でのふれあいがあげられています。

・障がい者への手助け

- 障がい者への手助けが「できない」という市民では、「手助けの仕方がわからない」が多くなっています。

基本目標2 保健・医療の充実

- (1)障がいの早期発見と早期支援
- (2)在宅障がい者の健康維持・増進
- (3)精神保健対策の充実
- (4)地域保健と医療の連携強化

発達障害、気になる子への対応も必要です。
医療ケアでは、服薬の管理が必要な障がい者も見られます。
また、精神障害の市民の理解も必要です。

・発達障害と診断されたこと

○知的障がい者では、回答者の4割が「ある」と回答しています。

・現在受けている医療ケア

○医療ケアでは「服薬管理」が比較的高く、身体障がい者で2割半ば、知的障がい者では1割半ば、精神障がい者では3割半ばとなっています。また、施設入所者では7割が服薬管理を受けています。

基本目標3 地域生活の支援

- (1)障害福祉サービスの推進
- (2)地域生活支援事業の推進
- (3)給付及び医療費助成
- (4)補装具の交付
- (5)権利擁護の推進
- (6)その他の生活支援

身体障がい者では居宅介護系や自立支援、知的障がい者、精神障がい者では就労支援系や自立支援のニーズが高いです。障がい児では、放課後等デイサービスを中心に、その他のサービスも望まれています。また、サービスの情報を求める声や、手続きが大変という声もあり、サービス情報提供や手続方法も課題となっています。

・障害福祉サービスの利用状況と利用意向

○身体障がい者では、

- ・利用しているサービス・・・「居宅介護」、「生活介護」、「自立訓練(機能訓練)」が比較的高いです。
- ・利用意向・・・「居宅介護」、「生活介護」、「重度訪問介護」、「自立訓練(機能訓練)」が比較的高いです。

○知的障がい者では、

- ・利用しているサービス・・・「就労継続支援(B型)」が高いほか、「自立訓練(生活訓練)」、「短期入所」も比較的高いです。
- ・利用意向・・・「自立訓練(生活訓練)」、「就労継続支援(B型)」、「就労移行支援」のニーズが高いです。「就労継続支援(A型)」、「行動援護」、「短期入所」も比較的高いです。

○精神障がい者では、

- ・利用しているサービス・・・「就労継続支援(B型)」が高いほか、「自立訓練(生活訓練)」も比較的高いです。
- ・利用意向・・・「就労継続支援(B型)」、「就労継続支援(A型)」、「就労移行支援」、「自立訓練(生活訓練)」のニーズが高いです。

・障害児通所支援の利用状況と利用意向

○身体障がい児では、

- ・利用しているサービス・・・「放課後等デイサービス」が利用されています。
- ・利用意向・・・「放課後等デイサービス」のほか、「児童発達支援」や「医療型児童発達支援」の希望も見られます。

○知的障がい児では、

- ・利用しているサービス・・・「放課後等デイサービス」の利用が多くなっています。そのほか、「児童発達支援」も利用率が5割を超えています(対象者18人中)。
- ・利用意向・・・「放課後等デイサービス」のほか、「児童発達支援」(対象者18人)や「医療型児童発達支援」(対象者18人)の希望も割合が高いです。「保育所等訪問支援」(対象者128人)は2割弱の以降となっています。

(基本目標3の続き)

そのほか、身体障がい者は補装具や日常生活用具等の身体機能の補完や自立支援を促すもの、経済的負担軽減や在宅サービス、在宅医療に係るものが望まれています。

知的障がい者ではスポーツ・レクリエーション教室や日中一時支援など、生活や活動に関するもののほか、障害の市民の理解、経済的負担軽減、相談、住まいの確保、地域の支え合いなど、多様なニーズがあります。

精神障がい者では経済的負担軽減や障害の理解及びスポーツ・レクリエーション教室や文化活動など、生活や活動に関するものにニーズが高いです。

成年後見制度は周知度が低く、周知徹底が必要です。

・地域生活支援事業の利用意向

- 身体障がい者では、「補装具」、「日常生活用具」、「リフト付き福祉バス」の利用意向が比較的高いです。(2割程度)。
- 知的障がい者では、「スポーツ・レクリエーション教室」、「日中一時支援事業」、「生活訓練事業」の利用意向が高くなっています。(3割半ば程度)。
- 精神障がい者では、「生活訓練事業」、「スポーツ・レクリエーション教室」(それぞれ3割半ば程度)、「文化芸術活動」、「日中一時支援事業」「ピアカウンセリング」(それぞれ2割程度)の利用意向が高くなっています。

・成年後見制度の周知度

- 成年後見制度を知っている人は、身体障がい者、知的障がい者とも4割半ば、精神障がい者は3割程度です。
- 制度について「名前も内容も知っている」という回答は、身体障がい者、知的障がい者は2割余り、精神障がい者では6%と低くなっています。

・地域で生活するために必要な支援

- 身体障がい者では、「経済的な負担の軽減」が5割半ばでもっとも高く、次いで「在宅サービスの利用」、「在宅での医療ケア」が3割台で比較的高いです。
- 知的障がい者では、「住民の障がいに対する理解」が6割近くを占め、もっとも高く、また「経済的な負担の軽減」が5割あまりとなっています。
「生活能力向上の訓練」、「相談対応等の充実」が4割あまり、「住まいの確保」、「地域の支え合いによる支援」、「在宅サービスの利用」が3割半ばであり、比較的高いです。
- 精神障がい者では、「経済的な負担の軽減」が5割でもっとも高く、「住民の障がいの理解」、「住まいの確保」、「相談」が3割台で比較的高いです。

基本目標4 相談支援、情報提供の充実

- (1)相談体制、相談窓口の充実
- (2)情報提供手段の充実

家族や友人に相談したり情報を入手する障がい者が大半を占めていますが、身体障がい者では医療機関、知的障がい者ではサービス事業所や施設指導員という声も多くなっています。相談機関等との情報共有や対応する職員の資質向上も必要となります。

・相談先

- 相談先としては、「家族や親せき」が7割（精神障がい者では6割）を占め、非常に高くなっています。また「友人・知人」が身体障がい者、知的障がい者で2割後半、精神障がい者では3割で比較的高く、身近な人に相談する傾向が見られます。
- そのほか、身体障がい者では「かかりつけの医師や看護師」が3割あまり、知的障がい者では「施設の指導員」が2割半ば、精神障がい者では「施設の指導員」が4割半ば、「医かかりつけの医師や看護師」、「相談支援事業所」が、比較的高くなっています。

・情報の入手方法

- 「家族や親戚、友人・知人」という回答が身体障がい者と知的障がい者では4割あまり、精神障がい者では「サービス事業所等」が5割でもっとも高いです。
- そのほか、身体障がい者では「本や新聞、雑誌、テレビ」も約4割となっています。知的障がい者では、「サービス事業所の人や施設職員」が3割半ば、精神障がい者で「家族や親戚、友人知人」が3割となっています。

基本目標5 保育・教育環境の充実

- (1)障がい児保育の充実
- (2)特別支援教育の充実
- (3)障がい児を持つ家庭への支援

障がい児の保育や教育の充実を望む声が知的障がい者で比較的多くなっています。また、障害児通所支援の受け入れ拡充により、障がい児等の療育や居場所の確保も必要です。

- 障がい児施策で充実が必要なものとして、「障がい児への保育・教育の充実」という回答が知的障がい者で2割となっており、他の施策よりも高くなっています。

基本目標6 就労支援

(1)雇用、就労支援策の拡充

一般就労している障がい者は非常に少なく、非正規のパート・アルバイトによる就労が多いです。就労支援や職場での障がいの理解を図る必要があります。

また、知的障がい者や精神障がい者では、就労支援による福祉的就労の希望が高いです。

・ 就労の状況

- 一般就労している人は障がい者の1割程度と非常に低いです。
- 就労している人のうち、フルタイムでの就労者は、身体障がい者では約4割、知的障がい者では2割程度であり、身体障がい者に比べて知的障がい者では低くなっています。(精神障がい者はデータが少なく割愛)
- 非正規雇用での「パート・アルバイト」による就労は、知的障がい者で高く約5割を占め、身体障がい者では2割程度となっています。

・ 就労意向

- 一般就労していない人の就労意向率は、身体障がい者と精神障がい者で約2割、知的障がい者で約1割と低くなっています。
- また、就労継続支援で働きたい(利用したい)という回答が、身体障がい者では1割弱であるのに対し、知的障がい者では4割余り、精神障がい者で6割半ばあり、福祉的就労への意向が高くなっています。

・ 職業訓練の受講の意向

- 職業訓練の受講の意向は、身体障がい者が6%、知的障がい者が27%、精神障がい者が16%で、知的障がい者の方で高くなっています。

・ 障がい者の就労支援で必要なこと

- 障がい者が就労する上では、「障がいについての職場の理解」が必要という回答が最も高いです。特に知的障がい者では5割半ば、精神障がい者では4割を占めています。
- 知的障がい者では、そのほかに「通勤手段の確保」や「就労後のフォロー」も高くなっています。
- 精神障がい者では、「通勤手段の確保」、「職場外での相談」、「勤務形態の配慮」も高くなっています。

基本目標7 各種活動の推進

- (1) 障がい者団体等への活動支援
- (2) スポーツ活動、レクリエーション活動の推進
- (3) 文化活動の推進

知的障がい者や精神障がい者では、スポーツやレクリエーション活動に関する支援等を望む声が高くなっていました。

外出の状況では、「趣味・スポーツ」は男性の方で多くなっていました。

基本目標 8 生活環境の整備充実

- (1)総合的な福祉のまちづくりの推進
- (2)障がい者に配慮した建築物の整備
- (3)障がい者に配慮した公園の整備
- (4)安全な道路、交通の整備
- (5)生活の場の確保
- (6)防災・防犯対策の推進

外出時の困り事では、バリアフリーに関することや公共交通機関が少ないことなどが多いです。知的障がい者では、困ったときの対応方法や周囲の目が気になるといった、心理面での心配事が多くなっています。

・ 外出頻度

○身体障がい者の約7割、知的障がい者の約8割、精神障がい者の9割が外出すると回答しています。毎日外出する人は、身体障がい者が3割、知的障がい者が5割近く、精神障がい者が6割となっています。

・ 外出時の同伴者

- 身体障がい者と精神障がい者では「一人で外出する」という回答がもっとも高くそれぞれ5割、6割を占めています。
- 知的障がい者では、「父母・祖父母・兄弟」といった親類が5割近くを占めており、一人で外出する人は2割半ばとなっています。

・ 外出の目的

- 外出の目的は、身体障がい者では「病院の受診」が7割でもっとも高いほか、「買い物」が6割であり、これら2つが特に高くなっています。
- 知的障がい者では、「通勤・通学・通所」と「買い物」が約6割であり、これら2つが特に高くなっています。
- 精神障がい者では、「買い物」と「病院受診」が約7割であり、これら2つが特に高いほか、「福祉サービスの利用」も5割あります。

・ 外出時に困ること

- 身体障がい者では、道路の段差やトイレ、通路など、バリアフリーに関する困り事があげられています。
- 知的障がい者では「困った時にどうすればいいのか心配」がもっとも高いほか、「周囲の目が気になる」が比較的高いです。
- 精神障がい者では「お金がかかる」、「公共交通が少ない」が比較的高いです。

(基本目標 8 の続き)

災害時には一人で避難できない人も多くなっています。
障がい者が安心して暮らせる地域環境の整備が必要です。
住まいについては、知的障がい者や精神障がい者で確保の希望があるほか、施設入所者で地域生活を希望したいという声も見られます。住居確保対策も必要となっています。

・ 災害時の避難

○災害時に自分で避難「できる」という回答は、身体障がい者では4割余り、知的障がい者では3割程度、精神障がい者では6割半ばとなっています。

・ 近所に助けてくれる人はいるか

○災害時の避難の際に、近所に助けてくれる人がいるか尋ねたところ、「いる」という回答は身体障がい者で3割余り、知的障がい者では2割半ば、精神障がい者では4割半ばとなっています。

・ 災害時に困ること

○身体障がい者では、「投薬や治療が受けられない」という回答が4割あまりでもっとも高いです。
○そのほか、身体障がい者、知的障がい者ともに、「安全なところまで、迅速に避難することができない」、「避難場所の設備（トイレ等）や生活環境が不安」が高くなっています。

・ 住まいについて

○知的障がい者と精神障がい者では、「住まいの確保」を望む声が3割程度あり、他の施策を望む声と比べてやや高いです。
○施設入所者では、施設を出て地域生活したいという声が2割となっています。
○将来の生活形態の希望では、「家族と暮らしたい」が2割、であり、グループホームの利用希望は5%程度と低くなっています。